



2. 選挙権が18歳以上に（2016年7月～12月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/16368

2. 選挙権が 18 歳以上に (2016 年 7 月～12 月)

7 月 1 日 首都大戦始まる

この大会は第 6 4 回で、私が生まれた前から始まっている。伝統のあるイベントだ。この 3 年総合成績で負けているが、通算では 3 3 勝 2 7 敗 1 分け。今年は 3 0 種目がある。

開会式には約 1,000 名の参加があった。応援団の果たし状のほか、選手宣誓、エール交換があった。応援団団長の声も通っていたし、キーボードの音色も素敵だった。果たし状については聞き取れないところもあったので、後日、原稿をみせてもらうことにした。キーボードの学生歌の録音も欲しかったので打診したら、そのつど、そのときの雰囲気でもロゲイが変わる (アドリブを入れる?) ので、演奏時の雰囲気と違うところでは聞かれないらしい。なるほど。

新しい催しとして、ポッチャを首都大学の川淵理事長、西村副学長対府大の吉田副学長、私で行った。勝って府大を盛り上げるつもりが思い通りにはいかなかった。しかし、首都大学東京の来賓の皆さん (そして両大学の選手たち) がポッチャという競技を知り、パラリンピックの競技であることを知ってもらうことができた。

あいさつでは、(1) 大阪府は胃袋の形をしているので、ぜひ、大阪の名物を食べて大阪を好きになってほしい、(2) 時間を見てニサンザイ古墳 (さらには大仙古墳) を見学してほしい、(3) ……ということをお話した。開会式後の男子バレーボールを応援した。スポーツっていいな!



7 月 2 日 速報、女子バスケットボールチームおめでとう

スコアボードが示すよう大接戦。一時逆転された。相手がゾーンディフェンスからマンツーマンディフェンスになったときに、上から見ていると、(素人目だが) 戸惑った様子がうかがえた。そこから落ち着いて最後の 0 秒になるまでハラハラだった。終了後、一緒に記念撮影をさせてもらった。皆さん、晴れやかな顔。応援に行った甲斐があった。応援団のみなさん、炎天下のもと、最後まで、そして休むことのない応援を硬式野球部にありがとう。

すごく暑い日になった。応援に来ている方は日陰からはとてもでられないような暑さだ。そういう中、人数は少ないがライト側の日の当たるところで、ずっと応援団が頑張ってくれていた。



7月3日 アイスホッケー部おめでとう

二日目深夜に行われたアイスホッケーを応援に行った。前半シュート数で押され気味で、部の先輩が（第一ピリオド終了後の休憩時間に）

「秋には強くなりますから・・・」というので今年には難しいのかと思ったが、結果は4対1。審判の笛が聞こえないくらいの応援で、応援を控えるように注意されるほどの盛り上がりだった。

（開会式でのボッチャは負けたが）私の応援した、男子バレー、女子バスケット、硬式野球、アイスホッケーはすべて勝利。首都大の幹部から「4連覇しますから・・・」と言われていたが、本学が総合優勝。（どちらが勝ったかという）勝敗だけが問題ではないだろう。早慶戦までの盛り上がりは無理でも、もう少し（大学全体で盛り上がる）工夫ができそうにも思う時間でもあった。



7月4日 高専で講義

去る27日（月）大阪府立大学高専で授業をする機会があった。

「総合工学システム概論」という科目で、1年生が対象だ。40年にわたって行ってきた、システムの研究・開発・教育について（人生観も含めて）90分話した。配布資料の専門用語は英語にするようにしてみた。



コンピュータが家庭で使われるように思っていなかった、最初にワープロを使ったときうまく保存できなくて「一生使わない」と思ったのに今では毎日使っている、日記を人に公開する人はごく少数だと考えていたのに SNS は普及している、などを含め、将来予測の難しいことを経験中心に話した。

生徒からは、「うまくいくとっていて実際うまくいった例はないのですか」という質問を受けた。なかなかいい質問だ。私の話がよほど失敗談というか見込み違いの話に偏っていたのだろう。

今後も機会を頂けるなら、大学・高専・公開講座に限らず、法人の中、外に限らず、少人数のゼミでも大人数のクラスでも、話をしに出かけたいと思う。

7月5日

首都大戦の総合優勝の優勝旗と優勝トロフィーを見せにきてくれた。役員応接室に常設し、来客や学生さんに見ていただけるようにした。

7月10日は選挙です。（有名人の）高橋君と森川君、広報の協力をありがとう。



7月6日 投票の勧め

少ししつこいかもかもしれない。18歳以上の学生さんには行ってほしい。周りにも誘ってほしい。10日（日曜）。

何事にも関心をもつ。選挙権、参議院、憲法、……。どうすればいいのかわからないときには調べる。図書館でもネットでも。そして友人と語る。そういう習慣をつけるのが大切ではないだろうか。

（選挙に限らず）何かイベントがあるときに（まず）一步成長する。長期的な観点、広域的な観点、根本的な観点。思考を楽しむ。そういう府大生であってほしい。



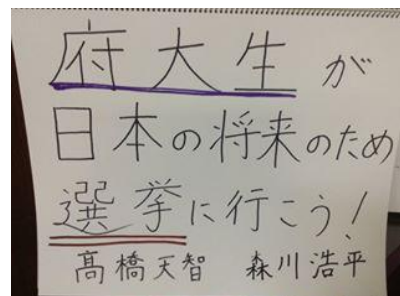
7月7日 カンボジアの総選挙

2010年にはじめてカンボジアに行った。以来、教育・研究でこの国に貢献できないか考え、府大生にもこの国を少しでも知ってほしいと思ってできることを行ってきたし、今でも同じだ。

その動機は1993年の出来事にさかのぼる。私が39歳のときのことだ。カンボジア国民議会の選挙があつて、選挙妨害を阻止するために、日本からはじめて（当時は自衛隊を派遣できなかったので）文民警察が派遣された。この派遣についても国会で大論争があつた。

そのとき派遣された隊長が私と同年だったこともあつて今でも関心があるのかもしれない。派遣された部下の若い警官の一人が射殺された。隊長はどれだけ責任を感じられたらう。インタビューされていた画面がなんとなく記憶に残っている。監視のために国連ボランティアをしていた中田さんも殺害された（先日ご尊父がなくなった報道があつた）。

選挙というものの重さを感じた瞬間だった。投票率は89%だったという。日本では想像もできない選挙妨害がなされる国があつた。今もどこかに同じような国・地域があるかもしれない。



7月8日 投票の種類

投票についていろいろある。専門家ではないのですべてを網羅的に語ることも体系立って語ることもできない。国会等政治家を選ぶのは単記投票だ。小選挙区では、一回の投票で最大得票者が当選する。区割りなど一票の格差が話題になることが多い。ローマ教会の法主を選ぶのはコンクラーベといって、誰かが3分の2以上の得票になるまで続けられるそうだ。2分の1ではないので、長々と続く（まさに根競べ）ことがあるようだ。



多数決が民主的かどうかという議論もいろいろある。五階建てのマンションのエレベータ工場の費用を一階の住人だけが負担するというのを投票したらどうなるか、というのも一つの話だ。連記投票、ランキング

投票、採点投票（フィギュアスケートなど）、累積投票（持ち分10点を配点）、一対比較投票（そしてそのパラドックスの逸話）などもある。う～ん。

今年は米国の大統領選もある。府大生、特に初めて選挙権を得た皆さんにはぜひ10日に選挙に行って、（その前後の期間も含めて）投票についていろいろな考察をしてほしい。

7月9日

昨日、この夏から長期に海外に留学するという3名の学生が話をしにきてくれた。2名は米国、1名は英国（どちらも大統領、首相を選ぶタイミングだ。日本とは選び方が違う）。

それぞれの留学先をどうやって選定したかを聞いた。研究室の先生の紹介や友人の紹介などつながりを利用しているようだ。FLEDGEというアントレプレナー教育の刺激もあったようだ（これを聞くと嬉しい）。日頃（先輩の寄付で建てた国際交流会館で）留学生と生活していたり、研究室に留学生がいたりして、それも刺激になったようだ。皆、すでに海外渡航した経験も豊富とのこと。ビザの取得状況なども聞いた。

今回は、文科省の「トビタテ！留学 JAPAN」というプログラムで留学するのだが、その応募・採択には職員の支援もありがたかったとのことで感謝をしていた。こういうのを聞くと日頃の教員・職員のひとつひとつの努力でこういう機会がうまれているのだと改めてよくわかる。

これからの30年とかを考えると、どのような職業につくにしる、学生が大学を巣立ち、社会に出た後に、海外の人との接点なしでいれるとは思えない。長期留学だけではなく、日頃から学生が国内外の社会と接点をもつ場をつくるのが教育のベースとしているように思う。そのためにも、海外におられる卒業生、海外経験のある卒業生とのネットワークづくりもしていきたい。

明日は18歳以上に投票権が与えられてはじめての選挙。どれだけの投票率があるか、気になっている。

7月10日

久しぶりにゆっくり休んだ。リラックスするために東野圭吾さんの「ナミヤ雑貨店の奇蹟」を読んだ（辻待ち来ブラリに置いておく）。どの作品も面白かったが、これもなかなかだ。現実ばなれしたロマンも感じるし、現実の社会の深層の問題も感じる。

学生時代にはいろいろな本を読んだ。小説、歴史、ノンフィクション、新書、……。映画もけっこう見た。周遊券を使った旅行もした。つまらない書き物もした。若い（と思っている）うちには、できるときにいろいろな知識を広げ、いろいろな人と話をして考え方の多様性を知り、何か新たな気づきをする（そして自分に取り入れてしまう）のが大切だと思う。

7月11日

この週末はゆっくり休んだ。6月の週末にはセミナーや同窓会の挨拶、7月に入っても首都大戦などが週末にあったので、月曜



日も休みを頂いた。読書以外にも放置していた家庭菜園の手入れができた。野菜を作っている「大切に育てる」ことの重みを感じることができる。平日にしかできない役所や銀行の手続きもした。フィットネスクラブで泳いだりもした。

今週はスイスや台湾にでかけてリフレッシュする職員の方々がおられるようだ。6月の年度末処理を超えたからだろう。忙しくしている人が「休めるときに休む」というのを聞くと、仕事が進むような気がする。常に「忙しくてまったく休めない」というのを聞くと「そんなんじゃ仕事が進むのかな」と疑ってしまう。前職時代、同期の二人を健康のために失ったことを思うと、それ以上に「健康があってナンボ」だと思う。



7月13日 キーププロジェクト (1/4)



飯田先生らが提案する LAC-SYS プロジェクト。「楽（らく）し（ま）す」と発音する。副題が一次世代バイオフォトンクスが拓く未来一なので、素人には難しい。

私の理解は、「誘蛾灯」だ。夜中に蚊や蛾などの虫がどれだけのかわからない時に、灯りをつけると、それに寄って来るので、どんな種類がどれくらいいるかわかる（気がする）。そのアナロジーで、光をあてることにより、ナノ・マイクロ物質を集積させてしまうものだ。薬剤の輸送の可能性も広がるという。



（DNA 形成制御で）遺伝子検査、（タンパク質の制御で）アレルギー検査、（細菌や細胞の制御で）衛生検査などの可能性が広がる。私は、光を使っているのだから「小さいものの制御≒虫の誘導」と考えてしまう。うまくいけば、病院など設備の揃った機関でのみ長い検査時間（数週間）かかっていたのはじめて可能な検査が、



携帯機器に接続して、（クラウドにあるビッグデータと照合して）誰もが手軽にできるようになる。大量の輸入食品の検査や環境汚染の影響検査が（メチャ）簡単にできる、つまり社会革新が起こることが期待される。

物理と化学と生物の先生が同じ建屋で話しているところから発想が生まれたそうだ。これから電信柱などの灯りに蛾や蚊が集まっているのを見るたびにこのプロジェクトの進捗が気になりそうだ。

7月14日 キーププロジェクト (2/4)

黄瀬先生の提案する AINI プロジェクト。名称の由来は、人工知能（AI）で自然知能（NI）を助けるだ。

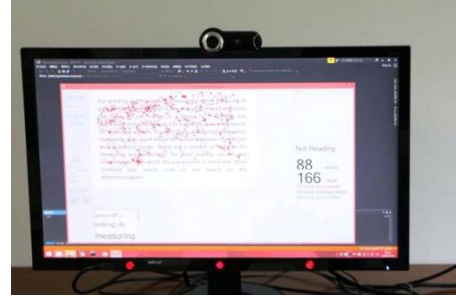
「目は口ほどにものを言う」というのを聞いたことがあ



るだろうか？

言葉に出さなくても、目の表情で相手に伝えることができる。また、言葉でうまくごまかしても、目に本心が表れるものである。だから、目の動きをもって何かの情報を得ようということだ。

黄瀬先生は言う。選択式（マーク式）の回答をするとき、迷いなく一つ選ぶ場合、迷った末に一つ選ぶ場合、ランダムに選ぶ場合があるが、解答用紙を見てはその区別がつかない。しかし、目の動きを追跡するとそれがわかるはずだ。



体温計に対する心温計。目の動きを追跡することで、心の状態が病気になっていないかを測るものだ。万歩計に対する万語計。一日に何語読んだかを測るものだ。最近のデバイス（センサー付きメガネなど）を用いれば、こんなこともできそうだという。20年後に世界中で心温計や万語計に府大ロゴがついて売っているかもしれない。もちろん、医師や教師との連携で障壁がでるだろう。科学者倫理の側面、個人情報保護の観点などからもブレーキがかかるかもしれない。

プロジェクトの先生方だけでなく、知財の関係者、哲学や倫理の先生などいろいろな知恵を結集しないと進まないだろう。しかし、府大にはそれだけのリソースがあるし、なければ外に求めるというスタンスもマインドもある。

7月15日 キーププロジェクト(3/4)

北宅先生の提案する CEFPP プロジェクト。Controlled Ecological Food Production の略だ。日本語では物質循環型植物生産の技術開発。

先生から話を聞いての研究の問いは次だ。「将来、人間が宇宙にでかけて、例えば3年かかるところに行こうとしたとしよう。往復で6年になるが、その期間のすべての食料と水分を地球から持参することがあるかどうか」。発想は「量的にすべてを持っていけないのだから、宇宙船内で運行中に継続して、食料用の植物を栽培したり、飲料用の水を浄化したり、蛋白源として動物を飼育しなければならない」。だとすると、狭いエリアで物質が循環できるような系（システム）を構築する必要がある。

つまり、閉世界で資源が循環しなければならない。このプロジェクトの最終目標は「都市での環境保全と健全な生活のための物質循環・エネルギーシステムの構築」だ。学内という閉世界を設定したり、ベトナムのある地域という閉世界を設定したりして実証実験を進めるという。

宇宙で長時間人間が生活する時代はいつ来るのだろう。そのとき宇宙船内で府大が研究した植物生産がなされていたらすごいな！いや、もっと身近に都市で出すゴミや汚染は都市内で、工場で出すゴミや汚染も工場内で、きちんと閉じた範囲で物質を循環できれば素晴らしいと思う。

7月16日 キーププロジェクト(4/4)

中村先生はじめ看護学研究科が力を入れてくださる NS-Co（ナスコ）プロジェクト。タイトルは「地域包括ケアシステムを支える人材育成とネットワーク形成によるシナジーモデルの構築」だ。

高齢化社会では、我々誰もが病院で過ごせるわけではなく、訪問看護ステーションが増える。そのための専門看護師の育成が望まれるが、看護師誰もがすべての領域の専門家たれるわけではないので、実践知を共有するためのネットワークが必要だ。人材育成とネットワーク形成が両輪となっ
てはじめて将来のケアシステムが構築（継続的発展）できるという考えのもと、府とも協力して進める。

7月17日 鳥人間コンテスト2016 近づく（写真は昨年 の優勝報告と祝賀会）



夢を持つことは簡単なようで難しい。一方、難しいようで簡単とも言えるかもしれない。

古今東西、多くの人間も「(鳥のように) 翔きたい」と思ってきたのではないだろうか。そのために体を鍛えたスポーツマンもいるだろうし、技術開発に努めてきたエンジニアもいるだろう。鳥や虫の動きをひたすら分析した生物学者もいるかもしれない。

最近の技術進化、例えば、ドローンと人工知能をあわせると近未来、多くの家庭でリーズナブルプライスで自家飛行機を持ち、自動運転で目的地に行けるようになるのかもしれない。私の専門領域でいうと、就職した頃、家庭でコンピュータを持つとか、最短経路問題のアルゴリズムがカーナビに入るとか夢想だにしなかったもので、近未来であっても予測は難しい。

「人の力で翔く」の現実的なところとして、鳥人間がある。昨年は優勝の報告に来てくれたり、祝賀会に招待された。今年もコンテストが近づいてきたという。多くの人が協力して夢に向かって進む。素晴らしいことだ。卒業生へのメルマガでも紹介されたので、府大関係者が全国あちこちで応援してくれることだろう。

7月18日 何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。

シドニーオリンピックの女子マラソンで金メダルをとった高橋尚子さんの言葉だそう
だ。昨日、友人と家庭菜園談義のあと調べていて気付いた。

枝豆など双葉が出た後、見た目はしばらく大きくならない。この間、根をひたすら延ばしてその後の成長に備えているらしい。トマトが大きくなった時に水をやりすぎると、根が下に伸びず地表面で（安易に）水分補給しようとして根が浅いところで伸びるらしい。そのため、水をやらないとたちまち弱る。逆に、水をやらないと、水を求めて深く根が伸びるとか。そのため多少雨が降らなくても頑強になる。ジャガイモは元肥を中段と深層に入れておくと、根が肥料を求めてまず中段に、そしてさらに深層にと伸びるらしい。う～ん。

何か勉強姿勢とか研究姿勢に暗示を与えているように思う。短期間に（小さな）成果ばかりを求めてはいけない。若い時はしっかり基礎を身につけよう。（大きな）成果が出なくても焦ることはない。教員が安易にヒント（流行）を与えると学生はさぼりぐせができて、ヒントばかり求めて

いると（もらえなくなったときに）しっぺ返しをくらうかもしれない。研究指導では遠い目標とマイルストーンを見せて、そこに学生を誘導する。そんなことも必要だ。

人生を考えるヒントはいろいろなところにある。

7月19日 大阪のおばちゃんは飴玉を多く買っているか？

14日の公開講座「関西経済論」の講師は日銀大阪支店の宮野谷支店長。データでみる関西経済と題して講演頂いた。中東や中国の状況も踏まえ、日本全体の見通しと経済政策のお話を頂いた後、関西経済の最近のポイントに話がうつり、

- (1) 2014年以降は、生産・輸出や外国人観光客によるインバウンド消費が全国より堅調
- (2) 個人消費も着実に回復を続けている

ということだった。

インバウンドについて、関空は、全体でも成田に迫る勢いで、アジアからの来訪者に限るとすでに成田を上回っている。中国からは、人口の0.3%に過ぎず、台湾の15.2%、香港の20.1%から考えるとまだまだ、増える。中国からが仮に1%になると1375万人増えるという皮算用。大阪は、外国人、女性、経済弱者の比率が高く、多様性が高い社会になっているようだ。

訪問者からの大阪府の好感度は全国1位（2位以下は静岡、富山、神奈川）だ。好感度は「オバちゃんが飴玉をくれる」ということもあるかと、キャンディの売り上げが多いだろうと調べたところ、総務省「家計調査」キャンディ消費量は下から4番目（ちなみに上位は北海道、佐賀、大分、京都）で、意外な結果に終わったらしい。これは「おばちゃんもらった飴を使いまわして買わない」という仮説を立てられた。講義終了後、何人かの女性教職員に「飴玉を持っていますか？自分で買いましたか？」と聞いたところ、「必須アイテム、アメちゃんはなあ、ナメるんちゃうでねぶり倒すんやで〜」とのことで、何人かがお持ちでした。

データを見て、仮説を立てる。仮説を検証するためにデータを集める。こういうサイクルの大切さを共有したい。

7月20日

本日の話題は学生さんには興味がないだろう。卒業生の皆様にも情報量がないかもしれない。教職員の方は既に知っていて関心をもたないだろう。と断ったうえで・・・、

2月に「法人化10年と大学改革の取り組み」と題した講演を行う機会を得た。その内容が文章に起こされ、大阪工研協会の会誌「科学と工業」に掲載された。

多くの方から図表やデータを頂いて、府立大学の概要、法人化後の大学改革について、組織改革、教育方法の改革、経営・意思決定構造の改革、研究予算・人材育成制度の改革、21世紀科学研究機構を駆け足で示したものだ。大半は、南学長、奥野学長のときにされたことだ。「ああ、そうだったのか」と、（恥ずかしながら）発表する機会に自分なりに理解を深めることもできた。

何人かの教職員にも丁寧にチェックしていただいたので、この10年の変化を記録として共有しておきたい。



7月21日 パスポートを持っていますか？

一昨日(19日)夕方、なんばで海外招聘教授との会食があり、繁華街を通った。昨日(20日)朝、大国町木津市場を通った。ともかく、多い。アジアからの来客だ。これから5年さらには10年、20年を見通した時、(アジアを中心に)海外の人と(言葉だけでなく多様な考え方を議論・許容するなど)コミュニケーションをとらずに仕事をできるだろうか？

どのような分野を専門にしても、避けて通れないのではないだろうか？避けていると自分のキャリアの(強みにならないという以上に)弱みになるのではないだろうか？

火曜日にシンガポールから植物工場見学の来客が35名あった。来週、月曜日にはI-siteで(松永先生@数理がお世話をされ80名が参加する)国際会議で挨拶する。火曜は台湾の来客(5月に台北で世話になった)と会食、水曜はオーストリアの来客(以前、共著で論文を書いた)と会食。短期間にこれだけ多いのは特別だが、今の学生さんたちは将来仕事についたら、(理系であれ文系であれ、公務員であれ民間であれ)きっとこんな生活になるはずだ。

米国の友人から次のメールをもらった。昨年来たとき講義をしてもらって、多くの府大生が海外にでることを躊躇していることを心配して指摘していた。まずは次の英語を読んでみよう。そして、パスポートを取ろう。ぜひ旅(たび)をしよう。まずはそこからだ。

-- (友人からのメール) -----

I just saw this article (pasted below) that confirms my perception. The passport holding rate among Japan youth dropped from 10% to 5%. (The US number is 35%.) This is a not good reversal from the previous generation that was very well traveled.

--- (彼が気づいた記事)

Unexpected departure

Overseas travel holds little appeal for many young Japanese. Why? Safety concerns and the language barrier are the main reasons. Only 5 per cent of Japanese in their twenties had a passport in 2015 – a decline from 9.5 per cent in the mid-1990s – according to the Japan Tourism Agency’s most recent data. Narita International Airport Corporation and the Japan Association of Travel Agents (JATA) are worried enough to act: starting Friday and running through mid-January, they are giving away ¥10,000 (€85) to each of the first 500 people aged 18 to 22 who are looking to obtain or renew a passport. The money is nearly enough to cover passport application fees but there is a catch: recipients have to book a domestic or overseas flight that passes through Tokyo’s Narita Airport and buy their tickets from JATA-member travel agencies.

7月22日 武庫野魚心(むこのぎょしん)

1995年のことだった。京都の岡崎にスタンフォード大学の日本オフィスができた。月に一度、週末に研究会に呼ばれ、客員研究員の称号をいただいた。通常は一泊二日だった。所長は一橋大学名誉教授の今井賢一先生。文系の先生だが、文理融合について2001年まで一緒に勉強させて頂いた。



そのとき「研究員は肩書も本名も忘れて、雅号で名乗ることにしよう」と提案された。そして名刺も作っていただいた。粋な提案だったなあと今になって思う。私は「武庫野魚心（むこのぎよしん）」と名乗った。苗字は高校の応援歌の最初が「武庫の原頭 雲張れて～」からとり、名は「魚心あれば水心あり」の魚心を名乗った。これは上司が共同研究相手を探すときによく使っていてそれを大切にしていたことが大きい。

今でもこの雅号が気に入っていて、川柳や戯れ歌を作ってはこの名を使っている。研究室の年報は「魚心」とした。教え子は私の名前を忘れていても「魚心」は覚えてくれていると思う。

肩書があるときに、肩書を外してものごとを考える。（なかなか理解しにくいかもしれないが）そういうことの大切さを学んだことが忘れられない。

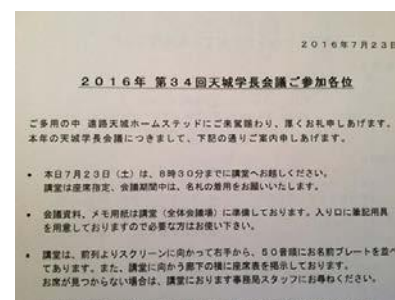
7月23日 天城学長会議

国立、公立、私立の学長44人が集まった会議で勉強しています。霧のかかった天城で2泊。講演、全体会議、分科会など盛りだくさん。まだまだ大学改革で学ぶことがたくさんあると分かりました。本日は消化不良なので温泉に浸かって頭の整理をしようと思います。



7月24日 天城学長会議（2）

北は北見工業大学、南は名桜大学（沖縄）、そして東北、北陸、四国、九州も含め、多様な国立、公立、私立大学の学長が集まり、2泊集中で、「学位プログラムと教育研究組織を考える」と題した集中討議があった。



場所は伊豆の天城高原。少子高齢化・財源ひっ迫という社会変化の中で、大学の将来と一緒に、「霧が深く先が見えない」場所だった（写真）。単位の実質化による学位・資格の価値の向上、単位制度の本来のメリットである、多様性と自由選択を活かす方法、多様化する学生の能力を伸ばすための制度設計と組織編成など、活発な議論ができた。

府大は、学域・学類制度にして、人材育成からみた課程と呼ぶ教育プログラムを用意したが、まだまだ、課題山積、改善の余地があると改めて感じた。各大学長とも真剣に考えている。実に真剣に。決まって発言されるのが、旧来の学部・学科制度の弊害、それに固執する古参教授の抵抗、教員評価・授業評価の未熟による大学改革の遅れだった。

昭和46年の中教審答申で教育組織と教員組織の分離が語られてから、もう45年も経っている。大学改革の課題は一時消えかけてもブーメランのように戻ってくるという。学生育成からの少しでもいい大学へ議論の幅と深さを求めていきたい。

7月25日 差分方程式の国際会議 (ICDEA)で挨拶

2014年11月工学研究科の松永先生から府大で国際会議を開催したいとの相談があった。すぐに「ぜひ進めてください」とお願いしたその会議



が、本日（25日）、I-siteであり挨拶をさせてもらった。

国際会議を企画して実際運営するのは大変だ。学会で開催の承認をとり、論文募集（CFP）を書き、論文を集め、査読をし、印刷にまわす。一般に一年近くかかる。皆が期限を守ってくれるかと言うとそうでもない。論文の様式も皆が守るかと言うとそうでもない。ソーシャルイベントとって、バンケット（晩さん会）やエクスカージョン（社会見学＝遠足）の企画、さらには宿泊所の紹介、ビザ取得のサポートなどもある。100人も集まるとなると中にはドタキャンもある。旅行業者になったかのような「おもてなし」の精神もいる。

さぞかしご苦労されたことだろう。うまく運営すると参加者に府大ファンが増える。それがきっと正のスパイラルを産む。府大での開催にこぎつけていただいたご努力に敬意を払うとともに感謝する。参加者みな、同じ気持ちだろう。運営のノウハウを蓄積し学内で共有することも大切だ。（要綱をつくれれば、府知事賞、堺市長賞、学長賞などを用意することも可能だ）

I-siteの内外では学生さんが精力的に手伝ってくれていた。彼らにとってもきっと勉強そして思い出になっただろう。そして国際交流を身近に感じたことだろう。

I-siteは多くの先輩からの多額の寄付も使わせていただき、できた。原名誉教授が「こういう施設があると国際会議も自信をもって誘致できる」とおっしゃっていたが、先輩のサポートに対して感謝する心をこれからも皆で持ち続けたい。

7月26日 第三回記者懇談会

今回のテーマは「食を守る」。6名の記者の方に参加いただいた。獣医学専攻に三宅先生が「菌から食べるを守る」、栄養支援領域の小川先生に「子供の食を守る」の話をして頂いた。その後、量子放射線専攻の古田先生から、食品の放射線を当てる理由として、食品保存、品質改良、害虫駆除などに効果があることが紹介された。

なぜ、私たちは目の前に出された食べ物を心配することなく食べられるのか。その背景には、技術としての科学だけでなく、社会変化を表すデータとしての科学、職業倫理としての科学など、いろいろな分野が関連する。異分野連携や現代社会の課題解決をするのは府大が得意だ。まだまだ発信できるはずだ。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

（注）記者懇談会は大阪市立大学が実施されていることを参考に開始し、年2回を予定している。

7月27日 COC（Center of Community）

これは「地域社会との連携強化による地域の課題解決」や「地域振興策の立案・実施を視野に入れた取り組み」をバックアップする文科省の施策で「地（知）の拠点整備事業」と呼ばれている。

注意しなければならないのは、（一部の地域研究をテーマにし



ている教員だけではなくて) 大学全員 (とは言わないものの総力をあげて) で、地域課題に取り組む人材を育成する (研究ではなくて) 教育プログラムだ。2013 年に大阪市立大学と連携して提案し、採択されている。

両大学の提案事業名称は「大阪の再生・賦活と安全・安心の創成をめざす地域志向教育の実践」だ。アクティブラーニング (能動的学修) を中心とした副専攻制度を導入している。

昨年度は府大だけでも地域実践演習を 1 2 クラス開講し 154 名が履修している。今年は 1 5 クラスに増えた。他にも 3 種類のアゴラセミナーがあり、地域志向共通教育科目 2 1 科目、地域志向専門教育科目 9 9 科目になっている。昨年、アゴラセミナーは 7 8 1 名が履修したというから驚きだ。

垣根のない本学ならではの展開ができていると自負したい。数に安住せず、質を高めながら継続していくことが大切だ。

7 月 29 日 本学 OB の王三朗ご夫妻と I-site なんばで (2 6 日 (火))



王先生は農芸化学の学位を本学で取得され、現在、台湾の淡江大学の教授。奥様も日本の大学を卒業され、本学で研究生経験があります。在学中は寮にお住まいだったとのことで思い出話をいろいろお聞きしました。

先生のご尽力で、府大と淡江大学はこれまでに 3 回、化学分野でシンポジウムを開催しています。生命環境、理、工、2 1 機構の部局を超えた教員が交流していて、今年は 1 1 月に淡江大学で開催されます。淡江大学は台北の北の夕陽のきれいな場所にあり、多くの学生が発表に向けて準備をしているのではないかと思います。

(国内外に限らず) OB と連携して、教育・研究を深める、特に (教員に限らず) 海外在住の OB と・・・こういうことをもっともってしていければと願っています。

7 月 30 日 点から線へ

ゲストプロフェッサ制度は確か文科省の現代 GP というサポートを得て柳先生ら理学研究科が始めたものだ。サポート終了後、寺迫先生らのご尽力で全学のプログラムとして継続している。



きっと多くの学生が刺激を受け、何人かは人生を変えるぐらい影響を受けているのではないだろうか。そして、そうであってほしい。

確か 7 年前、瀬田先生がその制度で招へいされたオーストリアの認知科学先生 (D. Albert 先生) を紹介された。この先生が 20 年くらい前に考えておられたことが当時私の研究室のテーマに利用でき一緒に共同研究を行い、3 人の修士論文に影響を与えた。以来、来日されることがあると瀬田先生が声をかけてくださり一緒に食事をしている。(今回は日程の都合上別々に会食となり、真鳴

先生に同行して頂いた) 彼がみそ汁を好きなことを覚えていてインスタントではあるがお土産にプレゼントした。彼も私がオーストリアのパンプキンオイルを気に入っていることを覚えてくれていてプレゼントされた。

出会いというものは面白い。彼はマレーシアのある研究者と知り合い。そして黄瀬先生が交流しているドイツの先生がそのマレーシアの研究者と知り合い。三角関係ではなく、四角関係だった。

府大=>オーストリア=>マレーシア=>ドイツ=>府大

ポイントとポイントの対一のつながりだけではなく、鎖としてのつながりができてくる。それが輪になる。これは大切な財産だと思う。

7月31日 アジアの大学に留学することを計画しませんか？

今年から、府大独自の海外留学支援制度「翔け FUDAI! ASEAN 留学!」を創設した。詳しくは次にあるが、文部科学省「トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム」(第6期)への同時応募が条件だ。

こういう制度を設けることによって、文科省プログラムへの応募が一件でも二件でも増えれば嬉しいし、留学とまではいなくても(こういう公募を目にすることで)少しでも学生さんたちの目(そして、指導している教員の目)が海外に向けば(パスポートを持っていなければまず持とうと思ってくれる)と願っている。

この条件にあえば、ぜひ、応募してほしいし、条件にあわなければ、国や財団が用意している制度を調べるということをしてほしい。今、自分のグローバル化度が今どのくらい(現在地)、将来どのくらいにしたい(目的地)、ではどう将来の目標に近づけていくか(経路探索)、そういうことを考える習慣をつけてほしい。カーナビを見るたびにこんなことを考えている。

8月1日 友達の友達、知人の知人、共同研究先の共同研究先そして車輪のハブ

「つながり」を持つかどうかというのが組織の強弱を決めていく。目に見えない経営リソースと言われる所以だ。学内のいろいろな先生が国内外の研究者と共同研究を行ってつながりを持っている。もちろん、学会活動を通して知人を増やすことも行っているだろう。

もう一步踏み込めないだろうか。学会活動以外のルートで交流先を増やしていく。つながりの鎖を創っていく。鎖があることに気づくだけで終わるのでなく、それを輪にして、自転車の車輪のようにして、そのハブに我々がいる。そんなことができないだろうか。いや、もうやっけていて十分なのだろうか。タコツポに入り込んでいないだろうか。

5月にニューメキシコの先生を松井先生から紹介されたとき、その先生と私の先輩が知人だとわかった（私--松井先生--NM大の先生--私の先輩--私）。先日書いたが、（私--瀬田先生--オ--ストリアの先生--マレ--シアの研究者--ドイツの先生--黄瀬先生--私）という鎖が輪になった。だが、これらは必然だったのかどうかかわからない。偶然だったような気がする。

待ちの姿勢、あるいは出会いから偶然のハブを創るのではなく、目指すべきハブのコンセプトをもって、個々のつながりを必然の輪にしていくことが大切だ。大阪市大の荒川学長が就任時に「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」を提唱され、ハブを目指されているのは素晴らしい。こういう姿勢を参考にし、見習いたい。



8月2日 神戸市・宝塚大劇場

宝塚歌劇を見に行った。近くには手塚治虫記念館がある。今回のテーマはエリザベット。宝塚では1996年から公演されている。男役が主役になるので、タイトルこそ王妃エリザベットだが、主役は黄泉の帝王(抽象的な「死」)。事前に粗筋を読んでいたのですが、何とかストーリーは理解できたが、いきなりだったら無理だっただろう。どれだけの人が宝塚に足を運ぶのだろう。

近くに手塚治虫館がありいろいろなキャラクターがあちこちに配置されていた。なかでも圧巻は世界に翔こうとしている火の鳥。中学生時代だったのだろうか、夢中に読んだ覚えがある。アトムは幼稚園、ブラックジャックは大学時代か。何人の人が彼のマンガに影響を受けただろう。

文楽、歌舞伎、狂言、・・・。それぞれ厳しい練習、切磋琢磨があるのだろう。一流を見ると感じる場所がある。

8月3日 初年次ゼミの報告

定期試験期間の忙しい中、高橋（和）先生が指導されている初年次ゼミの受講生が4名（お弁当持参で）報告に来てくれた。ゼミでは、「府大と聞いて思い浮かべるもの」からはじまり、「WEB学生サービスセンターを通じたWEB提案の案」や「知名度を上げるためのアイデア（可能そうなもの）を学長に提案しよう」を考え議論してきたとのことだ。



なんとなく頭の中にあるほわっとしたアイデアを授業前に（いろいろ調べて）紙に書き出し、授業で読み合わせ（ダメダシす）る。そして、読み合わせ中から何か（独りで考えているとは思ってもよらなかった）新しいものに気づく。気づいたことをまた紙に書き出して議論する。協創プロセスだ。

MICHI-TAKE って知っている？ 100円朝食は食べた？ ポッチャって知っている？ 首都大戦は？ 校友会は？ などなどいろいろ聞いた。教職員、OBなどが行っている取組など学内で起こっていることを（我々は伝えているつもりになっているが）学生に伝えるのは難しいと改めて感じってしまった。4名はメッセージボードに各自の想いを書いてくれた。これは別途アップしたい。

8月4日

初年次ゼミの報告に来てくれた時にメッセージボードに記入してくれたので、（はじめて）スライドショーにしてみました。（もちろん、FB アップは了解取得済です。4秒ごとに変わるはずです）

ニュージーランドにスタディツアーに行くという学生さん、高校の修学旅行が海外だったという学生さん、今回の訪問を機に渡航を考えてみようという学生さん、それぞれ楽しい意見交換をしました。4コマ、5コマが試験なのに顔を出してくれた学生さんもありました。

「学生さん」と私がいうので、彼らが書いてくれたメッセージボードでは「学長さん」になったのかもしれませんが。私としては、「辻先生」と呼ばれるのが好みですが、仕方ないですね。（ちなみに、中国・台湾で、学長というのは（長いこと勉強しているということ）で「先輩」のことだそうです。そのため、「学長」は大学であっても「校長」と言われています。先日、台湾の先生に教えていただきました）

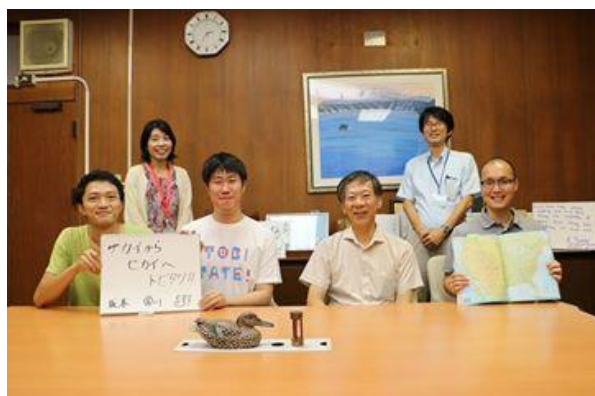
忙しくしていますが、昼食時間帯など学生さんが来てくれるのはいつでも大歓迎です。

8月5日 「トビタテ！留学 JAPAN」で翔く学生さんの名刺

先日、留学の準備が進んでいると報告に来てくれた3名の学生さん。海外で大阪府大を宣伝してくるうえで、「名刺が欲しい」というので、このような名刺を用意しました。（日本人に渡してはダメですよ！）

もちろん、文科省に利用の了解をとってロゴを入れたものです。府大生が世界に翔き、大学のブランドをあげてくれる。嬉しいことです。

中百舌鳥、白鷺、羽曳野、りんくう、トビタテ、翔く、FLEDGE・・・、飛ぶことに関する言葉がいっぱいある大阪府立大学。国際交流と同時に地域の信頼拠点を目指していきます。



8月6日 プロセス

日差しが強いある日、プロセス（下記注参照）の前で何かをしている学生4人と私がいた。5人の真ん中にあるのは何だろう。その横を「彼ら何してんの？」という奇異な目でちらちらと見ながら通り過ぎていく。ポケモン Goではなさそうだ。正解は近く大阪府立大学のfacebookページに解き明かされるらしい。



注) プロセス：本学における人格の形成、真理の探究、そして研究の過程を象徴したシンボル。この説明は「象徴する」という単語の利用例文としても利用され知られているようだ。

(原文) 原石に手が加えられて完成していく状態は、大学における人格の形成、真理の探究、研究の過程を象徴する。

(訳文) The condition of ore stone being altered and perfected symbolizes the molding of character, search for truth, and research process found at universities.

8月7日 郡学長の著作

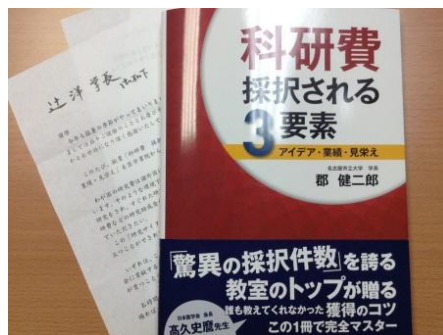
8日、14時30分から学術交流会館で科研費セミナー。時をあわすかのように、名古屋市立大学の理事長・学長 郡健二郎先生から「科研費 採択される3要素 アイデア・業績・見栄え」を頂いた。

先生は公立大学協会の副会長をされており、同監事の私はそこで知り合った。先日大阪市立大学の前理事長兼学長の西澤先生の退任祝賀会では、祝辞の中で急に「辻先生、結婚されるんですって、私もしたいんです・・・」と述べられ、参加者から白い目でみられてしまったというそういう先生だ。(大学統合を比喻)

先生のご専門の泌尿器科学分野で、名古屋市立大学は断トツで新規採択累計数が一位だ。そのこともあり、夏から秋にかけて、土日はあちこちで申請書の指導やセミナーをされている。

先生は、「危ない(予算が減り続けるかもしれない) 科研費を守りたい」と書かれている。我々の研究費には、基盤的経費と競争的研究資金がある。科研費は前者であり「これが減り続けているので、研究はおろか教育にも支障がでて、この現状を大学間の格差をさらに増長させている」と指摘されている。この格差により、地方大学や中小の大学では科研費で行われてきたすそ野の広い独創性に富んだ研究が激減することを恐れられている。

「科研費はもっと必要だ」と社会から言われるには、若い世代がしっかりした提案を申請書として発信できることが大切と考えられ、この本を執筆されたそうだ。科学を愛する想いを感じる。



8月8日 「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録を目指して

京都、奈良には世界遺産がある。そして、和歌山、兵庫にもある。残念なことに大阪にはない。

世界遺産とは、ヒトや自然がつくりあげた遺産のうち、人類全体のために未来に引き継ぐことが必要だと判断されたものを国



際的な協力のもとに保護するものだ。我々の地元にある古墳群は1500年前から引き継がれてきたものだ。

登録されるかどうかは地元の盛り上がりがあるかどうかも評価されるらしい。機運醸成、この機運醸成が求められる。私も「百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を応援する堺市民の会」の副会長だ。この会の独自のホームページもある。堺市でパンフレットをつくっているが、これらの資料を参考に、(国内外問わず)いろいろな場で話をしたり協力をお願いしたりしていきたいと思う。(府大生はもちろん府大生の知人も(堺に住んでいなくても学んでいなくても勤めていなくても)誰でも無料で会員になれるし、なってほしいと思います)



8月9日 大阪市・大阪科学技術センタービル



5日(金)ー7日(日)、放射線の正しい知識を学ぶためのイベントが大阪科学技術センターであった。このイベントは、理学系研究科と工学研究科の放射線を学ぶ学生も協力する「みんなのくらしと放射線展」だ。小学生、中学生、高校生も参加するもので、なんと第33回だ。



高校生向けのサマースクール、親子セミナー、放射線測定体験ツアーなどがあったほか、柳田理科雄先生の空想科学ライブ、ムシのお姉さんカブトムシゆかりさんの昆虫教室などがあった。私の参加した二日目だけでも来場者は1000人を超えたという。

なかでも、府大の放射線に関連する先生が指導されるサマースクールは活気のある学校対抗プレゼンテーション大会だ。今年は第5回。(大阪府大高専を含む)8校の学校が出場し「放射線研究で伝えたい事、識ったこと」を発表した。次世代を担う高校生のサポートをするのは先生にとっても大学生にとっても、とても楽しいように思えた。

8月10日 44.8°C

10時過ぎ、なかもずキャンパスの気温。クラブ活動などで登校している学生さんはくれぐれも熱中症にならぬよう水分をとってなるべく日陰で過ごしてください。



中百舌鳥キャンパス。最高気温が35度とかというのが天気予報。気温は百葉箱の中(風がとおり、日陰で地上1.5メートルだったように記憶する)で測定したものだから、「ベンチの上だとどうだろう」と思って測定してもらった。



8月11日 先日予告していた奇妙な風景の謎

大学の発信を3,333人にフォローしていただけるようになったのは広報のメンバーほか関係者の努力ですが、他大学とくに海外の大学をみていると我々の発信力はまだまだです。引き続き府大広報のご支援をよろしく願います。

友人に、先輩に、後輩に、ご家族に、地域の方々に・・・まずは、学生数、さらには学生数+教職員数、さらには卒業生数までいけばと楽しみにしています。

8月12日 渡航する学生さんは、安全確保のためにも届けを。

大学のプログラム以外でも、海外へ渡航（観光旅行を含む）を計画している学生の皆さんは大学への届けをしてほしい。テロ、誘拐、脅迫など不測の事態は文字通りいつ起こるかわからない。

荒川大阪市大学長は学生時代放浪癖で自転車で日本一周されたそう。その途中にご友人の実家に宿泊されたとき、十円玉がぎっしり詰まった袋をプレゼントされたそう。「ご両親が心配するから、一日一度は必ず電話してあげてね」。(先生の著作「どくとるてつお放浪記」より)

ご家族にも計画を伝え、連絡をしてほしい。子を持つ親としての気持ちだ。電話とはいわない。時代は変わった。世界中からインターネットで連絡がとれる。「出会い」もとめて「たび」にでかける皆さんも「学び」のためにでかけるみなさんも、ご家族と大学といつでも連絡がとれるように心がけてください。



8月13日 教員に対する学長顕彰の挨拶

たぶん、12年前から行っているのだと思います。毎年一度8月盆休みの前に行ってきました。私がお渡するのは昨年に続き2回目。(評価されたことに対する)祝福の気持ちと(大学の名誉を高めて頂いたという)感謝の気持ちが同じくらいです。

(本当はそれぞれの研究分野の発展に貢献されたことが一番大きいのですが)

写真のように盾を並べるとなかなかのもので、10回以上の方(6名)にはゴールド、5回以上の方(12名)にはシルバー、5回までの方(34名)にはブロンズの盾。出席者全員に手渡しするのはそれなりに時間がかかりますが、いくら多くても「おめでとうございます。ありがとうございます」というのは嬉しい限り。

5名の方に記念講演をしていただきました。異分野の方の話を聞いて、少しでも刺激を受けるとこういう機会を設けたことの意義が出るように感じます。

狙っていて受賞された方、思いがけず受賞された方、主たる研究者として受賞された方、分担者として受賞された方、いろいろありますが、来年も多数の方に顕彰できることを願っています。

8月14日 学生時代の夏休み

もう40年以上前のことになる。夏休みどうしていたかという、記憶にたよっているので、定かではないが、1回生の時は東北旅行に友人と二人で行っていた。大阪発青森行きの夜行急行「きたぐに」というのがあって、確か新潟以降は蒸気機関車けん引だった。窓から煤(すす)がはいっ

てきて、あわてて窓をしめたのを覚えている。当時は特急より急行の数が多くて、東北周遊券で山形、青森、宮城、福島をまわった。寝袋を持参して駅の待合室などでも泊まった。

2回生の時は若狭湾にサイクリングで行った。15人ぐらいだったように記憶するが定かではない。キャンプをして流れ星を見た。さらに、一人旅として、京都を出発し、敦賀=>勝山=>金沢=>能登=>富山=>高山=>米原=>京都とサイクリングした。(登りを楽するため)途中で自転車を分解して鉄道に乗るつもりが、(固くしめつけすぎていて)分解できなくなりずっと走った。

3回生の時は、四国をサイクリングで半周した。4人だった。徳島から室戸、高知、大歩危小歩危、金比羅山、高松と回った。テント持参でキャンプした。フェリーでみた日没がきれいでも思い出す。また、中津川=>松本=>上高地=>松本=>麦草峠=>高崎とサイクリングした。こちらは一人旅。このときは中津川まで鉄道、そして、高崎からも鉄道。高崎では叔父宅に泊めてもらって薦められ、尾瀬に行った。水芭蕉は終わっていたが、燧ヶ岳がきれいだった。

府大には高専生を含めると8000人を超える学生がいる。それぞれの夏休み。いい思い出をつくってほしい。

8月15日 東京オリンピックでは聖火リレーと男子マラソンを見た

先の五輪の時は小学5年生。その5月に転校して、渋谷(の実に代官山)に住んでいた。小学校の運動場は(土ではなく舗装されていて)猫の額サイズで遊ぶのは屋上。

聖火リレーは動員があったのか小旗をもって沿道で声援。開会式前日急性虫垂炎にかかり手術を受けた。当時は一週間の入院を要した。それでも最終日の男子マラソンも沿道に応援にいった。裸足のアベベが疾風のように駆け抜けたのを覚えている。

メキシコ五輪の釜本選手の得点王、ミュンヘン五輪の男子バレー準決勝の大逆転、バルセロナ五輪での谷口選手の「こけちゃったんです」、アトランタ五輪での有森選手の選考問題後の「自分で自分を褒めたい」、シドニー五輪での高橋選手のスパートなど強烈な記憶として残ってしまう。

ブラジルは冬かと思っていたら気温は結構高くて半袖で皆歩いている。今回の五輪ももう後半。何が記憶に残るだろうか。そして、4年後も楽しみだ。

8月16日 研究室運営時のシンボル・マーク

2002年に府大に赴任した時の所属は経営工学科。ここには大講座として生産システムと知的システムがあり、私は前者の第3グループだった。研究分野は経営情報システム Management Information System (MIS)。もともとコンピュータは事務処理の合理化のために導入されていたのが、データが貯まってきてそれを経営にどう使おうかという発想から研究が始まった分野だ。今はやりの Big Data の先取りともいえよう。



研究室のシンボル・マークについて、私が「武庫野魚心」と雅号をもち、研究室の年報を「魚心」と名付けていたこと(そして当時はよく釣行していたこと)から、Misを魚に模ったこのようなものをデザインしてくれた。考案者は、飛び級して進学し、フランスのEISTIに第一号で留学した中野雅之氏だ。結構気に入っていたのだが、もう使う機会がなくなってしまったのが残念だ。

8月17日 天橋立思考のすすめ

いろいろな講演やあいさつで天橋立思考についてすすめている。私の分野ではシステム思考とかデザイン思考というのがあるが、私のいいたいのは、より長期的に発想する、より広角的（広域的）に発想する、足元を見て（根本的に）発想する、そしてもっとも大切なことは、ときに天地逆転した発想をするということだ。

スライドショーにしたが、天橋立の浜はその位置にいると普通の浜と変わらない。大天橋を歩いていてもそこにある松は普通の松だ。しかし、山に登ると景色は一転する。

- (1) 遠い遥まで眺めることができ、長期的にものごとを考える大切さを暗示してくれる。
- (2) 大天橋を挟んで外海（塩分あり）と内海（淡水に近い汽水）では色も違うし波の大きさも違う。このことは複数のものを比較する大切さや幅広く発想する大切さを示唆してくれる。
- (3) 眼下にはその土地の生活（今）が見える。そこの生活なしに天橋立を語れないことから根本的に発想する大切さを教えてくれる。
- (4) そして、股覗きをすると、それまで海だったのが空になり、空だったのが海になる。発想の大逆転だ。

何か考えに行き詰まりがあるとき、議論がかみあわないとき、ひたする猪突猛進してしまっているときなど、ぜひ、天橋立思考をしてはどうだろう。

8月18日 公開講座「府大講座」開講

前身の「府民講座」（昭和55年～）から数えると37年目を迎える歴史ある講座が始まった。灼熱の夏に9月15日まで毎週木曜日全5回10講義だ。

例年1000人以上を収容可能なUホールで開講しているが、今年は耐震工事のため、（広報を控えて）学术交流会館で実施するため260名までとしている。80歳代が22名、70歳代が76名、65歳なら若手にはいり、60歳なら超若手の受講生だ。会場は超満員。嬉しいことだ。今年は10歳代（高校生）もいてこれも嬉しい。開講の挨拶で、これとは別の21世紀科学研究所セミナーの紹介をしたところ、当日中に8名もの方に申し込んで頂けたとのこと。これもありがたいことだ。

◆8月18日（木）

第1講「アートによってモノの見方を変える方法」 花村 周寛（21世紀科学研究機構 准教授）

第2講「窒素酸化物の資源循環」 安田 昌弘（工学研究科 教授）

◆8月25日（木）

第1講「中国の経済発展と日中経済関係」 韓 池（経済学研究科 教授）

第2講「身の回りの放射線 その起原、正体」 松浦 寛人（地域連携研究機構 教授）

◆9月1日（木）

第1講「産業や暮らしを支える微生物」 片岡 道彦（生命環境科学研究科 教授）

第2講「コラーゲンの話」 原 正之（理学系研究科 教授）



◆9月8日（木）

第1講「2025年問題を考える」 撫養 真紀子（看護学研究科 准教授）

第2講「贈与と人間」 亀喜 信（高等教育推進機構 教授）

◆9月15日（木）

第1講「ストレスを和らげるには」 稲富 宏之（総合リハビリテーション学研究科 教授）

第2講「国籍、市民権とは何か—移民研究の現在から」

萩原 弘子（人間社会システム科学研究科 教授）

8月19日 360度カメラで撮影

Drug the screen to view all visitors from Cambodia.

Under the support of Sakura Science Pln, RUPP members have arrived OPU and will stay here for seven days. I have their courtesy visit. We are very happy if RUPP people learn something from OPU and OPU people learn something from RUPP. This is collaboration. Best collaboration is never in the past but in the future. Phal Des



機の周りに座って記念撮影。今年も王立プノンペン大学から若手が来た。例年よりさらに若い。

360度回転させることによって皆が映る。上のほうからみると全員入る。

写真はともかくお互いに何かを学んで次につないでくれることを切に願っている。

8月20日 夏休みを3日取得したら連続一週間の休みに

11日が山の日、そして15日が一斉休業だったので、12、16、17日を休みにしたら一週間休めた。暑いのと腰痛で動かずじっとしていたが17日は私用で川崎まで出かけた。用事は午前中で終わり、夕方研究室の卒業生が新横浜で集まってくれるというので、以前住んでいたところを歩いた。

35年前から2年間住んだのは、小田急線柿生駅近く。駅の名前からわかるように自然の柿（渋柿）がたくさん自生している田舎だったが、完全に住宅街になっていた。住んでいた2階建ての社宅はかげも形もなくなっていた。

33年前から6年間住んだのは小田急線相模大野駅。小田原線と江ノ島線のレジャー時の分岐点で田舎の大きな駅だったのが、伊勢丹が出ているほか、大型店舗、高層マンションができて政令指定都市の中心として相応しく様変わりしていた。住んでいた5階建ての社宅は取り崩され、平地になっていた。近く、一戸建てが建つようだ。

16年前から3年弱住んだ武蔵小杉。当時は横須賀線の駅はなかった。東急線は地下鉄乗り入れが3種類、東武乗り入れもあり、慣れていないと乗り間違える。

前職時代は24年間で12回転居。時が流れるのは矢のように速い。

8月21日

明日22日（月）副首都推進本部会議があり、大阪府立大学・大阪市立大学の統合に向けた検討状況について議論することになっています。

会議の様子はインターネットで放送されるほか、資料、議事はすべて公開されます。ステップを踏んで準備を進めている段階ですので、今後、法人職員にはいろいろな仕事が発生しますが、在校生・受験生に直ちに大きな変化があるわけではありません。安心して勉学に励んでください。

教職員にはもちろん、在校生、卒業生、受験生ほか関係者の方には、準備の状況をいろいろな場で説明していきます。

8月22日 就職支援事業のための「古本募金」

「寄付していただくことで、書棚に眠っている本を生き返らせ、母校の学生たちを支援することができます」という校友会の古本募金。皆さんの家の書棚に眠って目覚めることのない本はありませんか？もちろん、卒業生だけでなく、在學生、現教職員、近隣の方でもこのサポートに貢献できます。

ISBNがついていて5冊以上なら送料はかからない、DVDやCDもOK、書き込みがあってもOK、売れなかった場合は高齢者社会福祉施設や海外の研究機関などに寄贈するので役立つようリユースされる。もちろん、なるべくきれいなものが好ましいですが、貴重書は、この古本募金ではなく、別ルートで（ちゃんと価値が評価できる人に適切な価格で購入していただき）再利用することが望ましいと考えています。申し込みはWebで可能です。簡単です。よろしくお願ひします。



8月23日 Tech-thon へのお誘い（10月から3月までの持久力がいらしますが・・・）

テックソン (Tech-thon) は、Technology と marathon からつくられた造語で、『芽となる技術』の上に事業化アイデアを積み上げるもの。「技術はあるがアイデアが

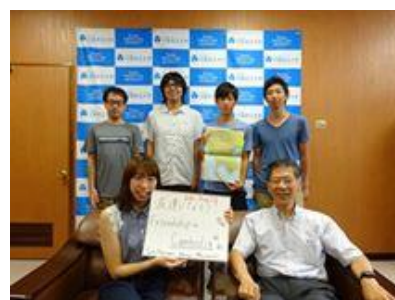
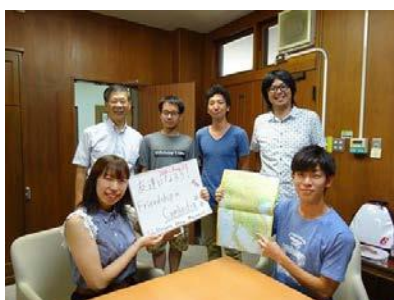


欲しい」、「アイデアはあるが技術が欲しい」を実現するため、分野を問わず、様々な技術・アイデア・視点をもつ学生・教員・社会人がチームを組み、(なんと) 6ヶ月かけてデザイン思考による技術とアイデアをつなぎ、社会課題の解決案を模索することで、新しい事業の芽を共創することを目的としている。また、大学・研究所および企業等から様々なステージでサポートを受けられる。

ぜひ、楽しんでください！！

8月24日 海外インターンシップに出かける前に

現代システム科学域には海外インターンシップという科目がある。学生支援機構のサポートを受けて、今回、7名の学生が台湾経由でカンボジアを訪問するというので（都合のついた4名と）昼休みにお話をした。昨年と同じようなサポートがあったのに2名しか参加がな



かっただけに多くの学生が参加してくれて嬉しい限りだ。

カンボジアには「ポルポトのトラウマ（悪夢）」というのがある。この悲劇をポルポト個人の問題にするのでは理解が深まらない。人間はひとたび、あることが正しい、と思い込んでしまふととんでもないことをしてしまう（知識人を大量虐殺するなど）ことがある、ということをおぼべきだと思う。

「一歩ひいたり、マクロな視点になったりしたら、当然気づいてもいいのに」と思うことにでも、ひたすら猛進してしまう。

それに反対する人を敵視してしまう。ドイツでも同じようなことがあったし、日本でもあった。

カンボジアと交流する機会にいろいろなことを知り、考えてほしいと思う。出かける前に少しでも予習しておくことが大切だ。歴史、宗教、政治、・・・いろいろな教養をつけて、将来、グローバルに活躍できるようになるために。



8月25日 インドで活躍し帰国した卒業生

2002年府大に赴任して最初の3回生向けの授業にいた一人が北埜さん。教室にエアコンもなく西日が強かった工学部4号館。この学年の学生のことは（自分の研究室の学生でなくても）結構覚えている。国際会議に投稿して海外で発表していたし、会議の受付などのボランティアもしていた。就職の相談にもものっていたような記憶がある。



北埜さんは就職して、先輩の山本君と結婚してインドに赴任。現地で溶け込んでいると風の便りで聞いていた。当然、まだインドに（定着して）いると思っていたら、急に電話があつて、訪問してくれた（事前に連絡してくれていたらいいのに）。彼女は日本に戻ったが、山本君は帰国後またベトナム・ホーチミンに赴任したという。



世界に翔く府大の卒業生たち。元気に母校（母港）に戻ってきてくれて話を聞かせてくれるととても嬉しい。どの先生も同じだと思う。「次回はちゃんとアポをとって、夕方に来てね」と言って別れた。

8月26日 6件採択：「さくらサイエンスプラン」の平成28年度第2回募集。

産学官の連携により、アジア地域の青少年が府大を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と府大生が科学技術の分野で交流を深めることを目指したプログラムで、JSTが行っている。これまで積極的に応募するようお願いしてきていたが、今年度2回目では（嬉しいことになんと）6件が採択になった（たぶん件数で岡山大学に次いで全国2位）。

福州大学(中国)、マレーシア工科大学(マレーシア)、カセサート大学(タイ王国)、カントー大学(ベトナム)、ベトナム国家大学ホーチミン校・科学大学(ベトナム) 国立和美実験学校(台湾)、ラオス国立大学(ラオス)

申請にご尽力いただいた教職員の皆様には感謝するし、今回たまたま不採択になったものについてはぜひ再挑戦をお願いしたい。

来日した彼らが府大をはじめ最先端の科学技術への関心を高め、本学のグローバル化が推進することを期待している。府大生だけでなく府大職員も少しでも交流してほしい。ちなみに第1回では2件採択になり、先日はカンボジアの学生が、来週はベトナムの学生が学長室を訪問してくれる。

8月27日 台湾の来客と天橋立・伊根の舟屋に

台南大学は昔の戦前日本が設立した師範学校を創基とした国立大学だ。10年位交流していてこれまで何人かの府大生が同校に交換留学(3か月から1年)、逆に同校からも府大に来ている。

交流している李先生は先週首都大学東京で仕事があり、来週府大で佐賀先生らと打合せがあるということで金曜日(26日)学長室にも寄ってくれた(留学していた野原君が通訳してくれた)。共同研究成果をいくつか論文にもまとめている。これからも交換留学・共同研究が続きそうだ。

以前、李先生のご両親のご実家に呼んでいただいたこともあるので、週末、自宅に2泊招待し、丹後半島までドライブ。天橋立では、H先生の叔父様である智恩寺の方丈様を紹介頂き、丁寧な解説の元、秘仏も見せていただき、感激でした。



8月28日 秋入学式の式辞

少し参ったことがある。入学式を所管している学生課の提案で、秋入学式の式辞を英語ではどうかというのだ。式辞だけでなく、司会や参加者の紹介を含め、すべて英語で行いたいという。

今年の春、東工大の入学式の式辞が英語だったということで賛否両論がマスコミやネットを賑わせた。また、名古屋市立大学の昨秋の入学式では、日本語と英語と両方の式辞があった。

確かに秋の入学生は留学生と社会人が大半だ。しかし、留学生には英語を母国語としていない学生が多数いるし、社会人は仕事の関係で参加できないことが多い。一方で、母国語であるかどうかに関係なく、英語が国際的に通用するというのも事実だ。う〜ん。

式に出席した人は式辞をどれくらい記憶しているだろうか。熱心に聞いてくれているとは思いますが緊張もしているだろう。マイクなど聞きにくいことはないだろうか。式直後に聞いたり、一か月後、あるいは一年後に聞いてどれだけ記憶しているだろうか。一回しか聞かないのだ。う〜ん。

私の英語は言う、それなりに海外の友人や教え子がいて、(語彙は少ないが)単語を並べたような会話を、わからないことがあれば何度も聞きなおすというようなことをやっているが、公式の式辞などと言うととても自信がない。そもそも入学式の式辞を案出するのは(少しでも記憶に残るように、そして記録として残って恥ずかしくないように)日本語でもとても時間をかけて大変なのになましておやだ。そもそも聞いたこともないし。う〜ん。

いろいろ感じるどころだが、批判や笑われることを覚悟しながら、チャレンジということで一か月準備を試みようかと思いついている。きっと皆がサポートしてくれるだろう。

8月29日 算盤、電卓、そして計算機

週末、身の回りのものを片付けていたら算盤が出てきた。誰にももらったのか記憶にないが名前が彫ってあった。祖父母のプレゼントかもしれない。子供のころ親について買い物にいくと八百屋の大將は必ず算盤で勘定をしていた。出てきた算盤は、たぶん、電卓が登場してから（50年ぐらい？）使っていないと思うがなぜかまだ持っていた。壊れていないので今でも使える。



電卓は今でも使うことがある。学生時代は関数電卓が欲しくてバイトをした覚えがある。胸ポケットにはいる（性能や機能の割には）コンパクトなものだった。パソコンのない時代、レポートを書いたり、実験結果の整理などでは関数電卓が便利だった。結構高機能だったと思うが当時購入したものは、手元には残っていないので壊れたのかもしれない。最近は加減乗除だけのそしてボタンの大きなものを愛用している。

計算機を学んで、LOOP（繰り返し計算）とかIF（分岐計算）を知り、大規模そして高速計算をいっぱいした。就職して使っていた（当時で言う）大型計算機は（博物館は別にして）もうどこにも残っていないだろう。もう大規模計算することもなくなりせいぜいEXCELだ。算盤や電卓を使っていた当時では想像もできない便利な機能がいっぱいある。

これから10年、20年、50年先、どんなものが使われるのだろうか。それを目にするのはあるのだろうか。

8月30日 GPAとCAP制

29日（月）、神戸市立外国語大学で、公立大学協会（公大協）の近畿地区協議会があった。その中で、「学修の質保証にかかる取組」について各大学の取り組みの情報交換があった。（導入していない大学・学部があったり、導入していてもCAPが年間58単位だったりする例があり、ある意味「啞然」とした）

本学では平成17年度から実施している。教職員のみならず、学生はみなよく知っている制度だ。以前は、時に、CAP制については「なくしてほしい、緩和してほしい」というような声を聴いてきたが、ほぼ定着したとあっていいだろう。

CAP制は、学年ごとに受講申請することができる単位数に上限を設けるものだ。上限を設けることで自習時間が増えるかということ、アンケートデータなどからそうでもないようだ。だからといってCAP制がうまく機能していないとは思わない。

この制度があるので、無理な受講が抑えられているだろう。そして、自習にその時間がまわっていなくても、ボランティアや課外活動、単位にならないアントレプレナー教育、卒業生との交流などに回っているのではないだろうか。もちろん、うまく回している学生は、まだ数%しかいないのかもしれない。

うまくまわしている先輩学生がロールモデルになって、後輩が参考にしてくれると嬉しい。CAP制をうまく使うかどうかは、それを理解することだ。うまく利用している先輩を参考にすることだ。「100%の学生がうまく活用している」というにはもう少し時間がかかるだろうが、胸をはってそう言える時がいずれ来るだろう。

8月31日 二件のお知らせ

大阪府庁に「正庁の間」というのがあり、その部屋のことを投稿しようとしていたが、本日、飛び込みで「ソメロ」というプロジェクトの第一回公演があるということで学生さん3人がパンフレットを持参してくれた。あいにく不在だったし、また、公演日はいずれも予定があり行けないので、ここで紹介しておく。といってもパンフレット情報だけだが、マジック、ジャグリング、パントマイムなどばらばらなパフォーマンスを「演劇」でつなぐものらしい。

後、大学のfacebookページにも掲載されていたが、そして、本日のことだが、鳥人間コンテストの放送がある。幹部8名、全体で38名、練習は白浜で行ってきたとのことだ。一機あたりの費用とか、練習のための交通費などを聞いたが、なかなか大変なようだ。いろいろな支援を受けるありがたさもかんじたのではないだろうか？

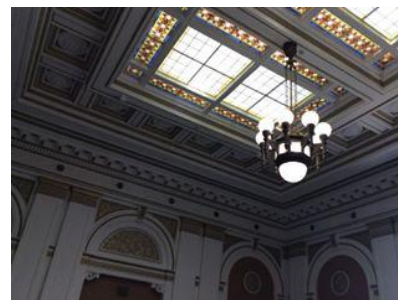


9月1日 大阪府の正庁の間

30日午後、府庁で「原子炉問題審議会」というのがあった。これは京都大学研究用原子炉（泉南郡熊取町）の平和利用、放射線障害の防止、原子力損害にかかる紛争の解決の促進等、住民の福祉についての重要事項の調査審議及び調停を行う会で、実に第122回だ。府議会議員、地元自治体、地元住民などがメンバーになっていて、立場上、私が議長をつとめることになった。

今回は安全対策の状況の確認と年次報告なのでその詳細は割愛するが会議の場所を紹介したい。「正庁の間」というところだ。

ここは、年末年始の行事や人事発令・式典などに使われていた特別な部屋だという。確かに私もここで辞令を知事から頂いた。あいにく欠席となるが31日のこの部屋でのイベントにも声をかけられていた。国内最大級の大きさの天井ステンドグラス、壮麗な室内装飾、当時の部材のまま復元されたシャンデリアや寄木貼の床、大阪城が望める東窓などがある。さすがに、大正15年に竣工し、モダニズム建築のさきがけとなるデザインの大阪府庁だ。来庁者に公開（週2日 水曜日・金曜日）しているらしい。



9月2日 Phal Des さんの投稿をシェア

We are very happy that we can send our students to Cambodia as exchange students. I hope they learn a lot from each other. We are looking forward to another photo on RUPP-OPU collaboration and excursion. My favorite words; Best collaboration is never in the past but in the future.



9月3日 熱中症に注意

先週の週末は来客の対応で丹後半島に行ったり、淡路島に行ったりしていたので、ばたばたしていた。暑かった。週明けも（ある意味、出勤時間は普段より遅めでよかった、楽ではあったが）月曜（神戸市外大）、火曜（大阪市大および府庁）、水曜（赤十字会館）と出張が続きばたばたしていた。月曜はかなり楽だったが、週後半はまたもや暑かった。



この土曜はヨガ、水泳、家庭菜園と体を動かしてリフレッシュ。年老いて自分では動きにくくなったスピッツのチャピにも日差しの緩んだ時に日向ぼっこさせた。朝夕の暑さは楽になってきそう。逆に言うと昼はまだまだ暑そうだ。

この土曜はヨガ、水泳、家庭菜園と体を動かしてリフレッシュ。年老いて自分では動きにくくなったスピッツのチャピにも日差しの緩んだ時に日向ぼっこさせた。朝夕の暑さは楽になってきそう。逆に言うと昼はまだまだ暑そうだ。

学生さんたちの夏休みもいよいよ後半か！直接、間接にいろいろな活動の報告をもらっている。自分の学生時代の夏休みと比べると、ともかく暑い。「高名の木登りの男で」はないが、9月になってからの熱中症にも気をつけてほしい。

9月4日 第2回永守賞表彰式典

I attended the second Nagamori Awards Ceremony in Kyoto. One of OPU associate professor, Dr. Inoue, received research support from their fund.

昨年から始まっている第2回永守賞表彰式典に招待された。モーター関連の研究を表彰したり助成したりするものだ。ハヤブサの開発者の國中先生（JAXA）やロボット研究で著名な金出先生（CMU）の特別対談を聞いたり、モーター関連の特別講演も聞くことができた。金出先生の著作については別途書きたい。

本学からは工学研究科の井上征則先生が研究助成され、ポスター発表されるとともに贈呈式に出席された。おめでとうございます。このような立派な表彰や研究助成をしていただけることは大学にとってもとても心強いことだ。



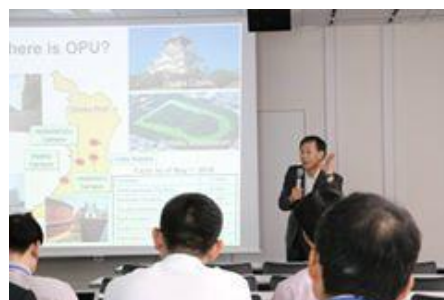
9月5日 理学系が国際会議（I-Site なんば）

Inviting two universities in Taiwan, OPU chemistry members organizes the third joint symposium of NTUT, NTNU and OPU. I am glad to have chance for welcome speech at the beginning of symposium.

理学系研究科の分子科学専攻の先生方が中心になって台北科技大とこれまで両国で一度ずつシンポジウムを開催してきたという。今回は台湾師範大学にも声をかけて三大学でのシンポジウム。冒頭で来日の感謝をするとともに府大の沿革を紹介した。（こういうのに声をかけていただくと基本的に最優先で対応することになっている）

こういう国際交流があるからこそ、交換留学生を受け入れたり送ったり、博士後期課程の学生を受け入れたりすることが進むのだろう。博士前期課程の学生たちも刺激を受けて研究に取り組む姿勢が従来にもまして積極的になると嬉しい。

先輩たちが寄付して下さってオープンできた I-site。いろいろな活用をするたび、寄付して下さった方々に感謝している。



9月6日 「学ぶことによって自分の人生を変えてやる」って言えますか？

We have two faculty members and three undergraduates from Dalat university, Vietnam who are supported by JST Sakura science project. Welcome to Osaka and Osaka Prefecture University. Have a nice stay!!



5日の早朝に来日した5人のダラット大学のみなさん。疲れも見せずに夕刻に学長室を訪問してくれた。学長室に見えた方にはよくメッセージボードに記入してもらおう。5人で一枚のつもりが、それぞれ一枚書きたいというので書いてもらった。そこには、冒頭に紹介したメッセージが書いてあった。



オリンピックのメダリストなどの練習を聞いていると、「厳しい練習によって自分の人生を変えてやる」というふうに感じるが、果たして、日本の大学生は勉強するにあたって、そのように思っているだろうか。果たして自分はどうか。

海外の人と交流すると、相手が男女、老若などに関係なく新しいふとした発見（驚きであり異文化だ）を行うことがある。そして考えさせられることがある。今回もそれだった。だから（語学ができなくても）国際交流はやめられない。

9月7日 "Combining" VS "Adjusting by comparing"（組み合わせとすり合わせ）

To manufacture products, the task on combination is common and well-known. However, one component is not always combined by other component when new requirement appears. At that time, Japanese has special skill called "adjusting by comparing" in order to solve this kind of problem. I hope international students of OPU learn this skill in their research while they are in OPU.

5日、Newsweekの記者にインタビューを受けた。グローバル化に関してだ。「どうやって日本で育った府大生が海外に出ることを支援するのか」とか、「海外から府大に来る（学生が300人もいる）理由はなぜか」などだ。「アベノミクスは教育のグローバル化に貢献するか」など日本語でも答えにくい質問も多かった。

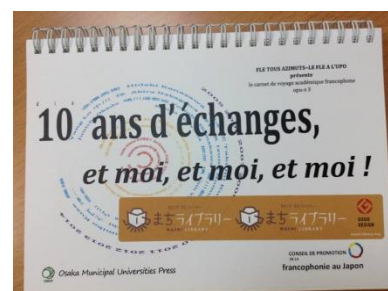
学内にある特徴あるプログラムを紹介したが、「学士課程に英語のコースがなくて海外から来る学生が増えるのか、どんな動機づけをするのだ。米国から来ないだろう」などと詰め寄られた。

大学の授業を単に英語で受けるなら日本に来る必要はないだろう（と強がってみた）。留学生にとっては、むしろ、日本の文化に基づく発想法とか考え方とかそんなことを学べるといいのではないだろうか（と押し戻した）。得意の天橋立思考を紹介したのち、（以前、どこかで聞いた話なのだが）「今ある部品を組合すだけでは新しい製品を造れないときにでも、日本の研究者は「すり合わせ」という発想で新しいものを作ってきた。日本に来た留学生には、これを学んでほしい」と主張しておいた。インタビューは、60分の予定が100分近くになった。

記事にどう書かれるだろう。うまく通じたかどうかはわからない。

9月8日 フランス短期留学の学生さんたちの便り

フランス語研修は長年の歴史があり、（世界に翔く）府大生たちは、「行く前」「いるとき」「帰ってきたとき」という三つの過程において、身のまわりの「空間」や「もの」を切り取り、（ちょっとしたことかもしれないが鋭く）報告をしている。留学ポートフォ



リオだ。以前、フランスから府大にきた学生たちも同じことをしていた。書き出すことは大切だ。2015年には過去10年の記録が本にまとめられ、私のまちライブラリ（辻待ち来ブラリ）にもおいている。浅井先生、パンジェ先生に頂いた。

今年は、9月4日にフランスに出発し、無事に到着したようだ。空港で不審物があり、税関を出るのがかなり遅くなったとも聞いた。私も次のメッセージを送った。

◆フランス短期留学の皆さんへ、

元気に出発されたことと思います。これまで勉強してきたフランス語を磨くチャンスですね。ブログのアドレスを教えてくださいましたので私もときどきのぞかせていただこうと思います。

私はホームステイしたことがないのですが、フランス人の留学生（リヨン出身）の実家に一泊だけ泊めていただいたことがあります。異国の生活を垣間見た気がします。先週は台湾の友人ご夫婦をはじめ我が家で泊まってもらいました。2泊という短い期間でしたが、畳に初めて寝たと喜んでいました。いろいろな経験をきつとされることでしょう。慣れるまでは大丈夫と思いますが、慣れた頃が危ないといひます。元気に過ごしてください。

9月9日 王立ブノンペン大学の facebook から

現代システム科学域の学生が佐賀先生と訪問していた。JASSO のプログラムを使って。海外の大学の HP に OPU が出てくれるとやはり嬉しく思う。

今週は、台湾、メキシコ、ベトナムの人との面会から始まって、タイの留学生の発表会で終わった。その間に、フランスの語学研修の話の聞いたり、ハロン湾の国際環境演習の話の聞いたり、ニュージーランドへのスタディツアーの話の聞いたり、それぞれの部局でいろいろ工夫してグローバル化を推進して頂いていることを頼もしく思う一週間だった。

ただ、学内での活動を相互に共有できているのか疑問にも感じた。それぞれの活動(Social Activity)を読める形に表出化して (Good Practice)、それを集めて(Integration)、次の活動を鼓舞する(Inspire)ことが大切ではないだろうか？そこから新しい知的活動が始まる(Initiate new social activity)。そうだ。スパイラルに発展させていこう。

9月10日 第68回 堺市学校理科展

9月17日ー18日に小中学校の自由研究の発表の場、理科展がある。第68回だという。当日、府立大学学長賞を授与するために下見に行った。

大阪府立大学
フランス語海外語学研修

INSTITUT D'ETUDES FRANÇAISES DE TOURAINE
TOURS STAGE 2016



2016年フランス語海外語学研修 日程表

日	内容(曜)	都市名	出発	交通	備 考	注
1	9月4日(日)	大阪(関西)集合 大阪(関東)集合 パリ(CG)	08:00 11:30 16:30	飛行機 AF201	関西国際空港集合 関西国際空港からフランス大使館までバスで移動 パリ(CG)集合	○
2	9月5日(月)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
3	9月6日(火)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
4	9月7日(水)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
5	9月8日(木)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
6	9月9日(金)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
7	9月10日(土)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
8	9月11日(日)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
9	9月12日(月)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
10	9月13日(火)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
11	9月14日(水)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
12	9月15日(木)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
13	9月16日(金)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
14	9月17日(土)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
15	9月18日(日)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
16	9月19日(月)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○
17	9月20日(火)	パリ(CG)	08:00	バス	パリ(CG)集合 パリ(CG)集合	○



夏休みの宿題だろうと思っていたが、多くの研究は通年の調査、さらには複数年かけたのものもあった。もちろん、数日あるいは一日の実験であっても目的設定がよかったり、アプローチが新鮮だったり、考察が子供らしいものもあった。

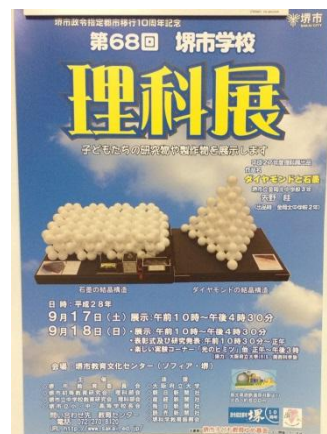
明らかに子供自らが大半をやったのだろうと思われるものもあれば、ご両親がかなりサポートされたのだなと思うものもあった。サポートは大切だ。サポートされ気づくことも多い。府大の公開講座に参加してスタートした研究も少なからずあった。指導された先生方のご存じだろうか。

ふと大学の研究でも時間を要すもの、簡単に実験、再実験を繰り返せるものがあることを思い出した。生物を生育してデータを取得するのは時間を要す。失敗したり、天候の影響で一年を棒に振ることもある。一方、計算機を用いてシミュレーション実験するのは失敗に気づいてもすぐやり直しがきく。いい成果が出たらその周辺の課題にも成果が出る可能性が多いので成果の量産もきく。

研究室の伝統を引き継いで先生にかなりアドバイスを受ける研究もあれば、自らの興味を出発点にテーマを設定し、進め方を先生にアドバイスを受けるものもある。どちらがいいとか悪いとかはないが、自分のポジショニングを考えることも大切なように思う。

研究テーマそしてその内容を見て、理解し、考察することも面白いが、一歩メタに研究を見るのも面白いし考えさせられることが多い。下見にいったって、そんな視点をもちながら見学した。

当日の展示や発表が楽しみだ。近くに下宿している学生さんは少しでものぞいてみると自分の研究にヒントを見出すかもしれない。



9月11日 スポーツの魅力

両親が広島育ちで、自分自身も広島生まれの被爆二世。家庭ではカープの話が多かった。育ちは阪神間で、イニシャルが同じHT (Hiroshi TSUJI and Hanshin Tigers) で、また甲子園球場近くの高校に通っていた。友人とはもっぱらタイガースの話。村山投手、野村捕手、江夏投手、外木場投手など強烈な個性派のことはいつまでも記憶に残る。プロ野球のためか、外国人=助っ人というイメージが子供時代には形成されていた。関東在勤時は西武の黄金時代で子供たちは青い帽子をかぶっていた。清原選手はまさにヒーロだった。震災があると、神戸や仙台を応援してしまう。プロスポーツが人々に力を与えるからだろう。

野球だけでなくプロスポーツはサッカー、バレーボール含めいろいろな競技に広がっている。勝負があるだけではなく、新しいアイデアが出たり、努力が必ずしも短期的な成果に表れなくてもあるとき花咲くことがあったり、年齢にはどうしても勝てないということが示されたり・・・。

単に勝ち負けではなく、そこから人生の何かを学べる。だから多くに人がプロスポーツを愛すのだと思う。



9月12日 リオパラリンピック、ボッチャの日本代表が決勝へ。

朝、目が覚めると総合リハビリテーション学研究科の奥田先生から深夜メッセージ。先生はボッチャ協会の理事長で、この大会に向けて、羽曳野で合宿指導もされてきた。



火の玉ジャパン、オランダ、イギリスに次いで、中国にもタイブレークで勝ちました。次は、ポルトガルと準決勝、勝てばメダル確定です。

しばらくすると、また、連絡が来て、

・・・、彼らやってくれたというガッツポーズ状況です・・・、タイは抜きん出て強い。火の玉ジャパンの彼らは挑戦者として明日の試合をわくわくしていると思います。応援よろしくお願いします。



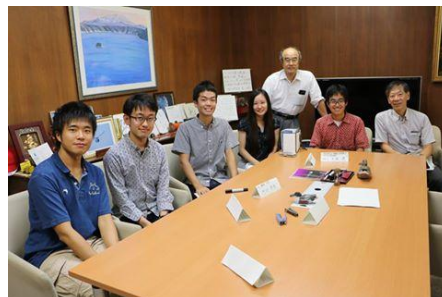
奥田先生はきっと眠れていないだろう！！

私の部屋にはボッチャのセットを常備している（老若男女楽しめます。いつでも貸し出します）。来客にはルールを（知ったかぶりして）説明したりしている。首都大学（理事長でJリーグ）の川淵キャプテンと試合をしたこともある（こっそり練習してのぞんだが負けてしまった）。

みんなで地球の反対側から応援しよう！

9月13日 大学院共通教育科目（国際環境活動プログラム）

「垣根のない大学」を目指して、大学院についても研究科を超えて共通科目を整備してほしいと願ってきた。その一つとして国際環境活動プログラムが全研究科に向けて開講されている。

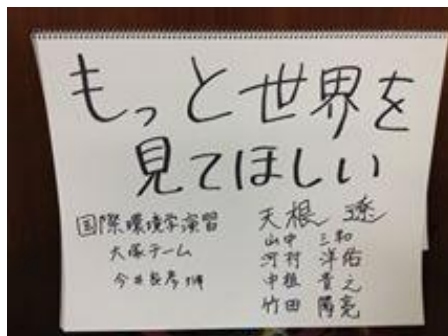


このプログラムでは、国際環境学特論、環境コミュニケーション特論という大学院共通科目を履修すると、国際環境活動特別演習を履修できる。今年は3つの班に分かれてベトナムで演習をしているが、その一つのグループが先日ハロン湾でゴミからBDFを生成し、ゴミ運搬船の燃料に循環するプロセスを見学したり、地元の小学校で教育（劇もしたそう）をしたりしたということで、報告に来てくれた。

とても聞いたことをすべてここで表すことはできない。彼らの熱いメッセージは唯一つ。府大生に「もっと世界を見てほしい」。そのための場を用意するのが大学を運営する我々のつとめだろう。教職員みんなで努めていきたい。

9月14日 初めて論文採択になったのは33歳だった

分野にもよるだろうが、自分の研究を論文に初めて掲載するまで月日（つきひ）がかかった。出しても出しても不採択。



今思えば論文の書き方のイロハができていなかったから当然といえば当然。

不採択が続いているとき、直属の上司ではない、ベテラン研究者が私の論文をみてやろうと言ってくれました。条件は、「悪い論文の書き方の例として利用していいか」ということ。あまり乗り気ではなかったが、当時の上司が「ぜひ見てもらえ」ということで指導を受けた。

もうボロボロに手を入れられた。というか手を入れる以前に研究に対する姿勢とかからはじまり、引用の仕方、タイトルのつけ方、要旨とはとか、もう半泣きになるくらいだった。草稿は何十回とゴミ箱行きだった。

でもこの指導のおかげで初めての論文が採択になった。人工知能学会誌に。当時はワープロでの原稿執筆ではなく、手書きだったので、採択後、ゲラが届き、校正をして、印刷されたものが届いたときはとても嬉しかった。それ以後は続けて投稿したものが採択されるようになった。

なにごとに一度厳しく指導を受けることにより何か気づきが生じて、世界が広がる。一度厳しく指導を受けると、その後は指導を受けなくてもいろいろなシーンにおいて気づきが生じるようになる。そんなもんだと思う。

9月15日 カンボジア短期インターンシップ生の帰朝報告

先日、カンボジア渡航前に計画を話に来てくれた学生たちが報告に来てくれた。滞在中はカンボジアの学生がずっとよく面倒を見てくれたので、とてもよい経験をしたそうだ。夜行バスにも現地の学生と乗ったと言う。修了証も見せてもらった。

食文化（コオロギなど）、お祝いの時の踊り（アプサラダンス）、アンコールワットという歴史遺産、熱帯のスコール（ゲリラ豪雨）、ツクツク乗車時のひったくり、……。う～ん。私が訪問したときには連れて行ってもらえないようなところも行ったようだ。

タイからカンボジアに回ったという学生は、格安のチケットを探したそうだ。台湾からカンボジアに入ったという学生もいた。臭豆腐はパスしたそうだ。臭いは別にしておいしいのに……。食事があわなくて痩せたという学生もいた。彼は、近く、FLEDGEプログラムでニューメキシコ大学に行くそうだが、アメリカの食事は大丈夫だろうか。

府大には、業者のパッケージツアーではとても学べない海外プログラムがいくつかできてきた。もっと増やしていきたいと思っている。ニワトリとタマゴの関係かもしれないが、参加者がその経験をシェアしていくとその数は増えるし、参加者数がふえるとプログラムを用意しようという教員サイドの動機付けも高まる。こういう正のスパイラルを工夫していきたい。

9月16日 府大に来たきっかけ

前職に就職したのが1978年。川崎（といっても北のほうでノウサギがいるようなところの）勤務だった。88年に（そのような田舎の谷底にあった）ラボの近くにマンションを購入した。通勤は徒歩15分弱。これで終生通勤にはそんなに苦痛を伴わないと（今思えば甘かったが）思った。

購入直後、関西転勤の打診。丁重に辞退したが、90年には断れなかった。「単身赴任ではなく骨を埋めるつもりで」と説得され、育ったところ（伊丹市）でもあったので、家族で移った。バブル時代だったので、「関西で一緒に頑張ろう」と多くの卒業予定者に対するリクルート活動。そのと

きの上司が「足の裏の米粒だが博士号を取得しろ」とはっばをかけられた。「取らないと気持ち悪いが取っても食えない」と言う意味だ。

92年に論文博士を取得し、これから（心齋橋にあった）関西のラボを大きくしようと後輩と夢を語っていた。ところがバブルがはじめて関西のラボを閉じることになった。98年のこと。

会社勤めの辛いところ、家族をおいて単身で川崎に戻った。まだ44歳だった。定年まで単身赴任が続くのはいやだし、子供の教育もあるし、どうしようと思案していた。幸い、学位をもっていたので、どこかの大学に拾ってもらえればと、公募に応募することを考え出した（足の裏の米粒ではない可能性が出てきた）。

いくつかの大学に応募したがいずれも面接までもいかなかった。今思えば研究業績、教育業績、学界活動が少なかったのが面接候補にもならなかったのはよくわかる。

ところがたまたま府大の経営工学科の応募で面接に呼ばれた。そして、（応募してから決まるまで一年近くかかったが）採用の通知を受けた。48歳の時。そのときの主任の先生は石渕先生。今でも「辻を採用したのは自分だ」と言われる。頭が上がらない。今思えばたまたま産業界出身の教員を求められていたのではないかと思う。縁というのはこういうものなのだろうか。

人生とはわからない。ただ、博士号をもっていなければ府大には絶対に来れていなかったのは確かだ。

9月17日 プラス思考を誰から受け、誰につなぐか

Who are your influencers? Who are your influencees? Answering these questions may cause your new actions!

NB: Influencer = somebody who has positively changed the way you think

Influencee = somebody who you changed their way of thinking

前にも一度書いたと思う。我々は大なり小なり他人から刺激を受けて人生観というか研究観というか仕事観というか「あっそうなんだ」というプラスになる思考法を学ぶ。与えた本人は（影響を与えたことを）知らないかもしれないし、我々だって、いつのまにか、自分の行動が誰の影響から今の思考法が組み立てられているかを忘れていくかもしれない。

そして、誰もが逆に誰かに「あっそうなんだ」という行動原理・思考原理をきっと伝えている。与えた本人はそれ（プラスの影響を与えたこと）に気づいていないかもしれない。

昨日、同僚の先生が「先日、辻先生の昔の知人に会いましたよ。懐かしく思われていましたよ」と伝えてくれたので、ふとこのことを思い出した。その知人と言うのは間違いなく私の Influencer の一人だった。

9月18日 地元 堺市の姉妹都市に 米国 バークレー市

facebook を用いて（ダメモトで）情報収集の新しい試み。学内に UC Berkley と交流している情報はありますか？

堺市は 次にあるように バークレー市と姉妹都市ですが、そもそもは府大の学生が橋渡しをしたそうです。来年は50周年記念で、市長をはじめ幹部の方々が渡米されます。



大阪府の姉妹県のフランスヴァルドワーズ県については、行政レベル、民間レベルそして学術レベルで交流をしているので、パークレー市についてもそのような（行政－民間－学術という）枠組みができないかと思う次第です。地域とつながる国際交流、海外とつながる地域連携を目指して。何か情報があれば、FBのメッセージ機能で連絡頂けませんか？

9月19日 堺市理科展 第68回で137の学校に22,221の提出作品



「富士山が高く美しいのは裾野が広いからだ」と言われるが、この展覧会の表彰式に昨年・今年と招待されて、「素晴らしい作品ができるのは、長年継続していて、（出品する生徒だけでなく、指導する教員、応援する保護者はじめ）多くの方が参加するからだ」と思う。

教育文化センターで開催される理科展にはそこから788点が展示される。そこから45点の優秀賞。全部を十分な時間をかけてみるができなかったが、過去の府大の生涯学習のイベントに参加して、理科に興味をもって出展したとか、テーマを見つけて出展したとか、数多くあった。生涯学習にはそれなりに教職員が工夫してそして時間をかけて実施しているが、確実に地域貢献していると嬉しく思った。

優秀賞の中から7点の特別賞。それぞれ違う観点で選ばれる。大阪府立大学長賞は、「将来の研究に最も期待を抱かせる作品」という観点で選ぶ。これの選ぶのはなかなか難しい。許されるなら複数選びたくなる。今年は、「最強ソーラークッカー：3種類のソーラークッカーでゆでたまご作り」というのを選んだ。

当日は、府大の理系女子大学院生チーム IRIS や関西科学塾の担当教員らが楽しい実験コーナー「光のヒミツ」を開設（今思えば少しでも多くの人に立ち寄ってもらえるように、もっと広報しておけばよかった）。

府大のTシャツを着て実に楽しそうに。理科展と言う富士山がさらに高くなることを期待したい。

9月20日 facebook ページを開設して8か月。（1月20日～）

毎日徒然なるまま、身の回りで起こったことや思い出したことや今後の予定など書き続けてきました。フォローしてくださる方も300人を超えました。

たまには投稿をパスしようかなとか、週末はやめようかなと思いつつここまで来ています。このファイルを見てみると、誰向けのメッセージか日によって違うし、文章の形態もバラバラ。でも続けてきてよかったかなとも思っています。二代前の南努学長が「文明人であるかどうかは、記録を残すかどうかだ。記録を残すことが大切だ」と言われていたのを思い出します。

facebook の提供してくれる統計情報を見てみると、多い時は3500人近くの方のページで表示されているようです（読まれているとは限らない）。大学のfacebook ページでシェアされると多くの方に届くようです。一方で、届けたいと思ったメッセージなのに200人にも到達しないことがあります。土曜日などの投稿は届かないようです。どんなに届く数が減っても1人でも届いていたら続

けようかなと強がっていますが、学生さんの活躍をレポートしたときは多くの方に届くようでそのときは嬉しく思います。

9月21日

少し前、永守賞の授与式典でカーネギーメロン大学の金出武雄先生（今年京都賞を受賞される＝私も授賞式典に参加予定）にお会いしたと書いた。そのとき、先生は対談で「素人のように考え、玄人として実行する」というお話をされた。この本は2003年に出版されており、研究室を持っていた時には多くの学生に読むように伝えた。情報関係の多くの先生がお持ちだし、図書館にも複数あるはずだ。

遊び心の発想、創造は省略から始まる、できるやつほど迷うものだ

「できない」から次が始まる

英会話は「外国人にしてはうまいな」と思われるぐらいがちょうどいい評価とは本来主観的なものである、「自分が決める」という勇氣など48節に渡る発想法が記述されている。情報関係の学生に限らず、推薦する一冊だ。



9月22日 自習時間に入るものは何だろう？

「大学生の自習時間が少ない」とよく言われる。そうなんだろうか？そもそも自習ってなんなんだろう？少し調べてみると「先生から与えられた課題を自分の力で調べるのが自習」と書いていたりするが、自分で見つけた課題を調べた場合は自習とは言わないのだろうか？

CAP制と言って各期に履修できる単位数の上限を厳しく制限しているが、これは学生たちが（高校生時代と違って）自由な学習時間を確保するのが大きな目的である。各科目の予習復習もあるが、私はもっと学生自らが気になったことを勉強することこそ「自習」ではないかと思う。

図書館に行って、最近あった政治や社会の問題を調べたり、古今東西の知を調べたりするのもそれがたとえ履修している科目と関係なくても自習ではないだろうか。語学を学びにいたり、楽器やスポーツを学びにいてもそれは自習ではないだろうか。旅をしてその土地の光を観るのも自習ではないだろうか。就労体験もあるだろう。ボランティアもあるだろう。大学生時代に（先生から与えられる学びだけでなく）こういう自習をどれだけできるようになったかが重要だと思う。一つの期に授業を多く取りすぎると大切な自習時間がなくなる。

もし、何らかの目的意識をもって活動をして、そこから学びを得るならば、それを自習として自信をもって行って、「自習時間がこれだけあった」と（就活であってもどこであっても）言い切りたいと思う。



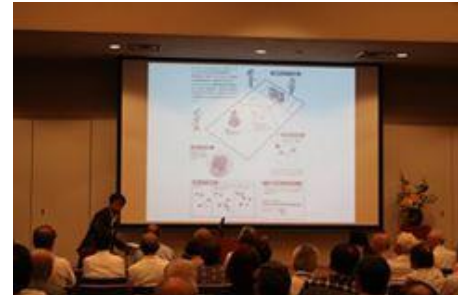
9月23日 府大講座の閉講式

今年は会場が1000人以上を収容できるUホールを耐震工事で使用できなかったため、座席のゆとりや机の面でご不便があった。それにも関わらず、暑い中、毎回200人を超える方にお越しいただいた。府大を支援していただけることを感謝している。

「風景は意識によって見え方が変わる」という話から、「コラーゲン」、「健康」、「市民権」の話まで、大学の研究の一部をご紹介した。

閉講式では、代表の方に修了証をお渡しした後、先日パラリンピックで銀メダルを取得したボッチャの紹介をした。学長室に常備しているボールを実際に触っていただき軽く投げて頂いた。ルールも簡単に説明した。

さすがに府大講座に見えている方は、「新聞記事で府大の先生が指導していることを知っているよ」「テレビでも紹介されていてインタビューが出ていたよ」「ボールは意外と柔らかいんだね」「今度府大講座でゲームをできないですか」「ニュース性のあることを聞いて嬉しい」ということだった。



9月24日 90年～96年勤務地の心斎橋の語源



奥野前学長は、「橋」というのは「土地」と「土地」をつなぐのではなく、「人」と「人」をつなぐと言われていた。そのように考えると、橋を架けることはとてもやりがいのある仕事であり、従事している方々を羨ましく思う。

小学校の時には、若戸大橋というのが教科書に出ていた。記念切手もあった。日本における長大橋の始まりだ。先日九工大に出張したときに見た。瀬戸大橋は、本州と四国を結ぶ10の橋の総称で、夢の架け橋と呼ばれていた。キス釣りに出かける時によく明石大橋を通る。ただただすごい。カンボジアの日本橋は同国復興のシンボルでその工事の様子が日の丸と一緒に紙幣のデザインになっている。外国の紙幣に印刷されることの意義を感じる。この橋を一度渡ったこと（往復）がある。

さて、前置きが長くなったが、以前働いていたオフィスの近くにある心斎橋は「岡田新三心斎が自分の家の前に橋を架けた」のが名前の由来と言われている。「斎」というのは、清める・物忌みという意味があり、さしづめ「心斎」は心を清めるという号をとって命名されたのだろう。

勤務していた当時、ある人に「心斎の意味の説明が荘子にある」と聞いた。

「心を虚しくすることである。すべてのものは、聴くに耳をもって聴いてはいけない。心をもって聴くがよい。いや、心で聴いてもいけない。気をもって聴くがよい。耳で聴いたものは耳だけにとどまる。心で聴いたものは心だけにとどまる。ただ気というものは本来虚しいもので、外の自然に応ずる。この虚をいたすこと、それが心の斎（ものいみ）である」

う～ん。私にはかなり難しい。今にして思えば「人の話を聴くときには空気読めよ」だろうか。少し違うかもしれない。しかし、これからは心斎橋駅を通過するときには、「人の話を聴くときに、一部の利害にとらわれず、虚しくして、自分に期待されている外の自然（全体）に応じるようにする」ということに心がけようと思う。心斎橋の近くで働いた身として。

9月25日

24日、第18回スケジュールリングシンポジウムに呼んでいただいて、初日の最後に、府大・I-site・ボッチャの紹介をさせて頂いた。このシンポジウムは人社システム科学研究科の杉村先生が実行委員長、岩村先生が幹事。準備は大変だったろうと思う。ただ、I-site なんばは、遠路から来ていただく上では、そして昼食や懇親会を考えると3つのキャンパスより便利で最近国際会議にも使われることが増えている。両先生も来年9月に国際会議を企画されているという。シンポジウムでは20年前に知己に遭遇した。こんなこともあるんだ！



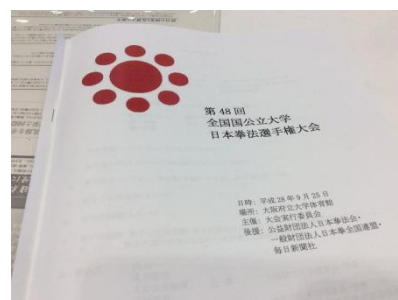
会場に向かう時に看護学研究科の先生方にお会いした。研究打合せをしていたという。総合リハビリテーション学研究科含め、羽曳野キャンパスの先生方は社会人の大学院生の指導にも使われているそうだ。来年からは、経済学研究科の社会人大学院生向け講義の一部がI-siteで他の研究科の大学院生も受講できるように準備して頂いている。研究科を超えた教育の場にもなりだしている。

I-siteに人(知)が集まり、府大がなんらかの後押し(知だけでなく場の提供)をし、あたらしいこと(コミュニティ・コミュニケーション)が起こる。I-siteの"I"に含まれているIntegrate, Inspire and Initiateという教育・研究・地域貢献がさらに発展することを応援したい。

もし、まだ一度も行ったことがないという教職員・学生・卒業生がおられればぜひ気軽に一度立ち寄っていただきたい。3Fにはまちライブラリという図書コーナーもあるし、卒業生の談話コーナーもある。活用法を考えるのも楽しいはずだ。

9月26日 第48回国公立大学日本拳法選手権大会に参加

大会会場が府大体育館ということで大会会長に任命されて参加した。25日(日)のこと。挨拶と賞状・賞杯を渡すのが役目だ。日本拳法のことはあまり知らなかったが、防具(面・胴・股当その他)とグローブを着用して殴打技、蹴り技、関節技を駆使して勝敗を競い合う武道だと知った。



今大会は、男子は5人ずつのチーム戦、女子は個人戦。いずれも大阪市大が圧倒的な強さで優勝した。市大応援団も来ていておおいに盛り上がっていた。近年ずっと好成績をあげているので、さぞかし努力しているのだろうと想像する。府大の部の情報は次にある。週3回練習をしているようだ。今回の大会もそうだが



が(そして日本拳法部に限らず)つねに目標をもって計画をたて、結果を反省して次につなげるというPDCAサイクルを確立して行ってほしいと思う。

9月27日 (祝) なかもずキャンパスの学食を改修

昭和37年に建設された食堂が今回改修された。厨房部分の老朽化が激しく、天井の剥がれや雨漏り、側溝・排水管のつまり等が発生し、衛生面での対策が十分とは言い難くなってきていた。従

来の厨房は大量出食型で、昨今のカフェテリアタイプのメニュー提供には適していなかった。フロア部分も慢性的な混雑、座席不足があり、昼休みにおいては屋外で食事をする学生もいる状態だった。多くの方々に心配をかけてきたが、このたび、生協および後援会より資金や機器などの寄付を頂き、改修が実現できた。とても感謝している。

フロア全体がひろくなったことで、食事だけでなく、各種イベントなどでさらに多様な用途での使用が期待される。今年の卒業生の集い（ホームカミングデー＝11月6日）はここで行われる。多くの方の参加があらばと思う。

9月28日 （祝）なかもずキャンパスの新しい厨房

カフェテリアタイプのメニュー提供に適したように改修された厨房機能。大きな炊飯器。思っていたより小さなお鍋。普段は見れないところを見せていただいた。空調も従来とは全く代わって、夏には大変だった労働環境も変わったという。衛生面でも大きく改善された。食洗器も最新のいいものになっている。

キャンパスライフを支えている裏側。食堂がコミュニケーションの場であるのは間違いないから、ここがよくなることほど嬉しいことはない。皆、同じ気持ちだと思う。



9月29日 秋の入学式

I gave an address in English at Autumn Entrance Ceremony on Sept. 26th.

秋の入学式は授業開始日に行っていたため先生方の出席が困難になっていた。そこで今回は昼休みに行った。また、留学生が多いので来日直後の学生にとって日本語ではわかりにくいという話があった。そこで学生課から「英語でしてみましよう」という提案があり、以前、予告していたように、司会も式辞も英語で執り行うことになった。



メインのところだけ抜粋すると・・・、十八番の一つのカーナビの話（現在地をGPSで確定し、目的地を指定すると最短の経路をみつめてくれる）をしたあとで、

Let us replace this problem for your research life. Do you have special GPS which identifies your current position in your research domain? What do you know about your research field now? Where are you now? Do you have any clear goal for your research? Is your goal time-invariant? Are there sub-goals for your big goal?

Some of you may have and others may not have. I think both are fine. If you are sure about your current and goal positions, please follow your path under the supervision by OPU faculty members. Our faculty will suggest shorter path and more efficient path for your degrees. They may suggest another goal for you. If you do not have, please clarify your current position first with your supervisor. Your supervisors will also give you hint for finding your research goal.

They will check if you are on the wrong path or longer path while you are in OPU. Do not stop effort towards your goal.

もう少し続きの話もあるが、うまく伝わっただろうか？つかみや比喻を工夫して、記憶に残してもらう式辞になるよう結構考えるのだが、なかなか難しい。

9月30日 Ig Nobel Prize on Ama-No-Hashidate

PERCEPTION PRIZE [JAPAN] — A. Higashiyama and K. Adachi, for investigating whether things look different when you bend over and view them between your legs.



REF: "Perceived size and Perceived Distance of Targets Viewed From Between the Legs:

Evidence for Proprioceptive Theory," Vision Research, vol. 46, no. 23, Nov. 2006, pp. 3961–76.

スピーチの十八番の一つにしている天橋立。遠くまでみる、左右を比較してみる、天地逆転の発想をする、ということをいろいろな場で繰り返し話している。学生を連れて行ったり、海外からの来客を連れて行ったりしてきた。

今回、この股覗きの研究をされていた東山先生がイグノーベル賞を受賞された。その一報とともに「以前府大で教鞭をとられていた先生」というお知らせも入ってきた。

おめでとうございます。私が府大に赴任した時にはすでに転出されていたのでお目にかかったことはないが、すごく縁を感じる。

10月1日 30日、23名の方に学位記授与

9月の式には、課程博士であっても、社会人の方、長期履修の方、逆に短期修了の方、秋入学した留学生の方、さらには論博（ろんぱく）の方など多様だ。大半の場合、指導教員も同席される。フランスからの留学生（指導教員は中島智晴先生）もいて、彼のご両親もわざわざ出席されていた。

（周囲の慎重意見をおさえて）2005年交流を始めた EISTI 出身の学生だった（たぶん同校出身で学位取得に至ったのが3人目）ので感慨深かった。彼に限らず、府大で学位取得に至るまでに、一人一人にいろいろなヒストリーがあるだろう。

式が始まる時には、私を含め教員側は厳粛な場なのにぞむ姿勢の中にもにこにこ笑顔。授与される方々は喜びの前に少し緊張気味。学位記をお渡しするときには氏名、授与する学位、論文名を読み上げる。氏名には間違えないよう付箋にふりがなをつけておいていただく。だからそれほど困らない。一方で、日頃使わない専門用語が題名に入っていると特に英語の場合すらつと言えない。言えないところはそれまでと違って急に緊張する。一方授与される方はその様子を見てニコッとされる。立場が逆転だ。

式辞では、お祝いの言葉とともに二つのことをお願いした。主な点は次だ。

（略） 二つほどお願いを兼ねてお話をしたいと思います。

一つ目は皆様には「これからも研究を続けていただきたい」ということです。この場は研究を卒業するのではなく、研究の免許証をお渡しするものと考えていただきたいと思います。

一般に秋の授与式の対象者は社会人の方が多かったり、論文をまとめるのに予定より多くの時間がかかった方がおられたり、留学生で言葉にご苦労された方が多いのですが、皆さんは順調に研究を進められましたでしょうか？十分ご自身で「満足できる成果をあげた」と納得しておられるでしょうか？

専門分野によって、学位授与の慣習も歴史も違いますので、一概にはいえませんが、もし、「ここまで順調に研究を進めてきて、かつ、ご自身が満足できる成果をあげられている」と思われていれば、それは素晴らしいことで幸運だったように思います。それとともに、ひょっとしてよく注意しないと今後は「この幸運のために不運だった」ということになるのではないかと疑っています。ですので、決して、研究というものを甘く見ないようにお願いします。

一方で、「必ずしも順調に研究を進めてこれなかった」とか、「満足できる成果になっていなかった」とかいう方については、大変ご苦労されたのですが、考えようによってはそして今後の行動の仕方によっては「幸運だった」ということにできるのではないのでしょうか？教育担当の副学長の前川寛和先生の談によりますと、英語で現在のことをプレゼントというのは、「本日、我々がこの場にいること自体が神からのプレゼント」というから来ているそうです。このプレゼントをもらったときに、改めてご自身のこれまでの過去を振り返って、反省するとともに今後に向けて、目標を設定していただきたいと思います。

これまで、皆さんは、「学位をとる」という目標を設定し、そのための計画をたて、実際の行動を行って、実績を積まれたのですよね。実績を積んだ時に必ず反省をして頂きたいと思います。反省をすれば進歩があり、進歩すれば、次の目標が見えてくると言われています。ですので、皆様には次の研究のサイクルに入って頂きたいのです。大阪府立大学の学位記という免許証を持って。

もう一つはこれからの研究成果の発表についてです。学位取得までは、「難しいことを難しく書く」という立場をとりがちです。井上ひさしさんがおっしゃっていますが、ものを書く立場として、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」という名言があります。ゆかいにというのは、ユーモアを含めてということだそうでユーモア (Humor) の語源は、human だそうです。また、ゆかいにというのは周囲との共鳴、共振する感受力だそうです。自分だけが興味深いというのではなく周りに影響を与えて「ゆかいに」という言葉になるそうです。

私の米国の友人は Influencer と Influencee という言葉をつかって、お前の Influencer は誰で Influencee というのは誰かと聞いてきます。Influencer というのは、皆さんの発想法をポジティブ方向に変わるように影響を与えた人であって、Influencee は逆に皆さんがポジティブ方向に発想法を変えるように影響を与える人のことをいいます。

もう既に「愉快的発表」をされているかもしれませんが、周りの Influencee に影響を与え続ける Influencer になって頂きたいと願っています。 (略)

10月2日 リーディング大学院でのミニ講義 ―― 俯瞰的な思考と修羅場の経験

府大では、システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラムという5年生の大学院を開設している。先日、ここで一時間ほど「システムの研究・教育・開発に携わって40年」と題して話をさせてもらった。

今までの授業と違って、前から席が埋まる、質問が出てくる、という嬉しい状況だった。終了後、コメントも書いてくれて返事を求めているものもあったので順次回答していこうと思う。いろいろ考えさせられる感想もあり、だから学生と接することはやめられない。

その中で富士山美しさの理由をたとえに「裾野が広ければ高くなれる」だから、「専門教育だけでなく教養教育をしっかり学んでください」というお話をした。「裾野が広すぎたら高くなれないのでは・・・」などと逆説的な意見も出て面白い。

その後、一週間、「(高い山の頂上から360度を見るような)俯瞰的な思考ができるには」というので電車の中や独りで歩いているときに考えた。「修羅場の経験」というのが一つの解かもしれない。「修羅場」とは、阿修羅(あしゅら)と帝釈天(たいしゃくてん)とが戦う場所で、人形浄瑠璃・歌舞伎・講談などで、激しい戦いや争いの演じられる場面でも使われるという。男女の揉め事がおこっている場に使うのは誤用だ。

修羅場は、ビジネスのケースに使われるが、学術のケースには使わないし、そもそもないのかもしれない。受験勉強は修羅場だろうか。部活などではあるかもしれない。ライバルが少ない学術分野ではないのかもしれないが、激しい先端争いをしている分野ではあるのかもしれない。

つらつらこんなことを考えてみたので、話し相手を見つけて、「修羅場」について議論をふっかえてみようと思う。

10月3日 タイとベトナムからの来訪者

I have a courtesy visit by Kasetsart University and Kan Tho University. Five students come from Bangkok and five



students come from south of Ho-Chi-Minh city as exchange students of a Sakura Science project. After I introduced OPU briefly, I showed the photo of Amano-Hashidate with my reason why I love it.



獣医学専攻の山崎先生が招へいされたタイ・カセサート大学とベトナム・カントー大学の方々。両国の教員が引率され、各5名の学生が来日した。長旅での疲れもみせず楽しみな一週間を過ごされる。第2回のさくらサイエンスに採択されたものだ。

府大の沿革・概要、大阪の食事、日本三景の話をしたのち、ついつい天橋立の話に。十八番なので(迷惑かもしれないが)写真を示して、なぜ、好きかを伝えた。イグノーベル賞を元府大教員の東山先生が受賞したことも。印字していたものを学生さんたちが写真撮るので、あとで電子的に送付することを約束した。

さくらサイエンスプラン。今年度第三回の公募が始まった。本学の学生がアジアの学生と交流するには期間的にも規模的にも非常に使いやすいプログラムと思う。府大から多くの提案が第三回でもできることを強く強く願っている。このプロジェクトに限らず海外からの来客があったときに学長室を訪問するよう案内いただくのはいつでも歓迎だ。

10月4日 今年の年頭に行ったあいさつ

今年も残り3か月になった。年頭に、教職員の方々に3つの問いかけをしたので、自分自身が思い出すためにも再掲したい。

(1) 「世界に翔く地域の信頼拠点」という理念を講義、講演、そしていろいろな場で語り、この理念を大学全体で共有していきませんか。

(2) 多様・融合・国際という視点を大切に、垣根のない大学でつながりをつくり、「単独では発想できなかった」教育・研究・地域貢献・大学改革を進めていきませんか。

(3) 各自の「地域と連携するグローバル体験」「地域と連携できるグローバル体験」をいろいろな場で語り、本学独自のグローバル化を見出していきませんか。

全文ではなぜこの問いかけをしたかを訴えている。

一つ目の「世界に翔く地域の信頼拠点」に関してですが、この我々の大学の理念を教職員、学生、卒業生、受験生そして地域の皆さまに訴求する努力が不足しているのではと危惧しています。「世界に翔く(はばたく)」という主語は大阪府立大学と考えるのが普通かも知れません。しかし、私は、教職員、そして学生たちにも羽ばたいてほしいと願っています。

また、「世界」というのは国内に対する海外ということだけでしょうか。「高度研究型大学」という冠を見るとそう捉えるのが普通かもしれませんが、学界に対する産業界であってもいいし、「理論を取り扱う学内」に対する「実際の地域課題を扱う学外」であってもいいのではないのでしょうか。

教員の方も職員の方も、それぞれの立場でこの「世界に翔く地域の信頼拠点」という理念を『頻繁に』語り合いませんか。いろいろな角度から、この「世界に翔く地域の信頼拠点」として、我々の教育・研究・地域貢献・大学運営を語りませんか。そして、授業の場で、学外における発表の場

で、大学運営の場で、私たちが「世界に翔く地域の信頼拠点」をめざして「何をしているか」を絶えず、そして繰り返し問い続け、その証（あかし）を示していきませんか。私たちは、「大阪府立大学といえば、世界に翔く地域の信頼拠点だ」と知られるようになりたいと思います。

二つ目は、「垣根のない大学でつながりを」についてです。私は2002年に民間から大学に着任しました。そのとき学内でどんな研究テーマがあり、どんな設備があるのかなかなかわかりませんでしたし、わかる術も少なかったように思います。その後、法人化を契機にして大学改革が進み、大学の情報公開が進み現在に至っています。広報活動を通じて学内の教職員の活動、学生の活動がわかるようになってきました。

折角わかるようになったので、ここからもっともっと「つながり」を作っていきますか。大阪府立大学には多様な専門分野、価値観の方がおられます。単独では発想できないことを「つながり」を作ることで見出していきませんか。800人の教職員がいて、2人の組み合わせは、実に32万通りにもなります。その0.01パーセントから何か独創的なアイデアがでてきたら32もの新しいプロジェクト・成果ができるのです。3人の組み合わせ、4人の組み合わせであればもっと可能性は広がります。学外さらには海外の方とつながればもっと可能性は広がります。大阪府立大学が大切にしている三つの視点「多様・融合・国際」というのは、つながりをつくる大切な視点だと思います。教員も職員もどう工夫すれば「大阪府立大学独自のつながりができるか」を考え、行動していただきたいと思います。

三つ目はグローバル化に関することです。本学のメインキャンパスがある堺市は、この名前のとおり摂津、河内、和泉の三つの国境、つまり、国際にあるわけですね。応仁・文明の乱以降は、日明貿易の中継地として栄え、日本の固有文化を大切にしつつ、異文化を受け入れたところですね。このようにみると「地域と連携した国際交流」ができる場に我々はいます。

今行っている教育・研究・地域貢献のやりかたを急に大きく変える必要はないのですが、授業、講演、公開講座などで何か工夫ができませんか。例えば、授業の中で各教員のグローバル体験（特に地域と連携した国際交流）や考えるところを5分でも10分でも学生に語り続ける、あるいは、学生たちに課題を与えて、「海外を知り地域（大阪）を学ぶ」「地域（大阪）を知り海外を学ぶ」という視点を示すことなども考えられます。

明治以降の先人たちが欧米語の専門用語に適切な和訳をつけてくれたおかげで、私たちは日本語によって、欧米で発展した研究成果を学べる環境にいます。一方で、ともすれば、専門用語のもととなる外国語すらよく知らないケースが多々あるのではないかと危惧しています。

近年では英語が国際会議の公用語になるなど世界標準の言語となりつつあります。「世界に翔く」ためには、コミュニケーションのツールとして欠かせなくなっています。そこで、学生たちに対して、専門用語（さらには教科書・参考書）に英語のものがある場合には日本語だけでなく英語も使うなど、本学独自の工夫を議論していきませんか。事務の帳票についても計画的・段階的に、日本語と英語を併記することを進めませんか。これは「グローバルとローカルをつなぐ」ということになると思います。それぞれの部局・部署でバイリンガルへの工夫をしていただきたいと思います。

10月5日 教養教育と専門教育

先日の学位記授与式で井上ひさしさんのおっしゃっていることを紹介した。

「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目なことを愉快地、そして愉快なことはあくまで愉快地」という名言だが、彼のように「書く」立場だけでなく、我々教員のように「教える」という立場でも当てはまるように思う。

愉快にというのは、ユーモア (humor) を含めてということで、その語源は、human だ。また、愉快にというのは周囲との共鳴、共振する感受力で、自分だけが興味深いというのではなく、周りに影響を与えて「ゆかいに」となるそうだ。Influencer になるということだ。

これをつらつら考えていくと、最先端の研究をし、高度な専門教育を授業している教員が、全員で、教養教育も分担するのがいいのではないかと思う。学士課程の共通教育や府民向けの公開講座などで、「ゆかいな」講義を行い、彼らに共鳴・共振を与えるようになりたいものだ。専門教育だけやるというのではなくて。「高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点」と呼ばれるために。

10月6日 堺市 ASEAN WEEK の来訪者

堺市の国際交流プログラム：アセアンウィークのプログラムの一つとして理工系学生交流プログラムというのがある。これは2009年から始まって今年で3回目。今年はブルネイから2名、マレーシアから2名、カンボジアから2名。受け入れてくださる生命機能化学分野、植物バイオサイエンス分野、機械工学分野、知能情報工学分野の学生



の皆さんは、積極的に異文化交流をして刺激を受けてほしい。お互いが influencer, influencee になってほしい。このような機会を与えて下さった堺市に感謝して。これも「世界に翔く地域の信頼拠点」として大切な活動だ。地域とつながる国際交流、海外とつながる地域連携。

10月7日 V仮面、学長室に参上

ボランティアセンターのマスコットキャラクターをご存じだろうか。そうだ、ビクトリー仮面だ。これまでもボランティアステーション (V-Station) として活発に活動してきているが、今回、堺市から「大学における市民活動促進事業」として支援いただけることになり、その活動計画などを説明に来てくれた。

ボランティアという言葉聞いたのはいつだろうか。87年に米国の先生が「マシンの管理をするボランティアはいないか」と言われていたのがかすかに残っている。95年阪神淡路大震災の時から国内でボランティア活動が普及してきたように思う。98年の長野五輪の時にもボランティアが活躍したという。教え子が東日本大震災のボランティア活動を通じて結婚したことは記憶に新しい。週末の公大協の学長会議では、学長・学生交流タイムがあり関連する話が聞けるのではないかと思う。日本での活動はまだまだなのかもしれない。

大学が市民とつながりをもち、地域の信頼拠点になるには、ボランティア活動は大切だ。



10月8日 視点をもつ大切さ

How many sweet potatoes are there? From one side, it seems

to be one. From another side, it seems to be two or three. What does this tell us? We should observe something from a variety of sides.

庭でサツマイモを育てている。だいぶ大きくなってきたので、試しに掘ってみたところ、写真のようなものが出てきた。「あっ、3つある」と思って（掘り出した時の写真を撮っておけばよかった）掘っていくと実は1つだった。別の角度から見ると2つにも見える。



私の博士論文のタイトルは「知識ベースビューを用いたエキスパートシステム構築に関する研究」。同じものでも視点を代えると利用しやすくなるということに注目したものだ。今思うと恥ずかしい内容で後日の研究で申請しなおしたいと思うことがあるほどだが、論文のベースの考えはいつまでも残っていて今でも発想の原点になっているような気がする。

10月9日 後期の授業が始まり、2週間

白鷺祭の準備が進んでいるようだ。私の関連のいくつかの予定を紹介したい。

10日 公立大学学長会議 地域づくりと公立大学の教育と題したパネルディスカッションがある。学生も参加。 於：北九州市立大学

19日 全学一斉防災避難訓練 毎年少しずつ進化している。今年は例年と曜日をかえて、水曜日に実施。地域との連携も少しずつ。

29日 羽曳野キャンパスの杏樹祭。初めて（夫婦でこっそりと）行く予定。

30日 広島同窓会。カープで盛り上がっているだろう。

4日ー6日 白鷺祭。6日が校友会主催ウェルカムパーティがある。但し5日は失礼する予定。

11月12日 関西六公立大学総合競技大会 於：府大

27日 岡山同窓会。6月に失礼したので、今回は万難を排して。

12月6日 東京なかもず会。I - s i t e , I - w i n g とつないだ勉強会。かなり盛り上がる企画を相談中。騒いで会場から叱られないよう注意が必要。

14日 F L E D G E シンポジウム 於：グランフロント大阪。

10月10日 公立大学の学長会議と同時に学生会議 Link topos

北九州市立大学に初めて行った。全国の公立大学学長会議があったからだ。小倉駅からモノレールで10分ほどのところにある。地域創生学群というユニークな学士課程があることで有名だ。

この会議と同時に学生会議があった。38大学95名の学生が来ていたらしい。府大からも4名の学生が参加。ポスター展示していたので、一緒に Link topos の L の字を作って記念撮影。トポスは「英知の結集」で、リンクは「つながり」。そういえば、3年前には岩手県立大学で同じようなことをした（あのかのときの学生は何故かスーツ姿だった）。

昼食は、岩手県立大学、滋賀県立大学、大阪市立大学の学生さんと一緒に食べて、いろいろな話を聞いた。ポスター展示も時



間いっぱい使って説明を受け、質問をした。各大学とも「地域の資源は何か」と問いかけ、公立大学ならではの工夫をしている。

(このような場がなければ気づかなかったのに) 他大学の(熱い)活動を知り、刺激を受け、(もっとできると)自分を振り返る。そこから学生のエネルギーが出てくる。この活動には、(世界に翔く地域の信頼拠点をを目指す)府大関係者のいろいろな努力があったことも多くの人知っている。「濃いものにしたい」という代表の言葉が印象的だった。



10月11日 学生目線の「大阪府立大学環境報告書」

以前、E〜キャンパスの会のメンバーが環境報告書の冒頭の学長対談の取材に来てくれた。「何か注文があれば・・・」と聞かれたので、(ハードルを少し高く)「環境理念の部分だけでも英訳付にしてください。(世界に翔く地域の信頼拠点として) 少しずつ、英語のページを増やしましょう。留学生にもアピールしていきましょう」とお願いした。



手元に届いた報告書を観たら、早速、基本理念、行動するうえでの6つの視点が英語になっていた。「えっ、今年からやってくれたんだ!」

日ごろから、「少しずつでも英語の資料を増やしていこう」と言っているだけにすぐにアクションを起こしてくれた学生の皆さん(そして指導している教職員の皆さん)に感謝する。

10月12日 近代文学と自筆原稿

本学の図書館には貴重図書がたくさんある。それらのうちからいくつかを期間限定で展示し紹介している。今回、14点が展示される。12月28日までだ。

パソコンで文章を作ることが多くなった今日、こういう原稿を見ると何か感じるところがあるのではないだろうか? 百聞は一見に如かず。百見は一感に如かずではないだろうか。

PS:百聞は一験とか一考とかあるみたいで、どれが正式か調べられていないので、あらかじめご容赦。



10月13日 情報の圧縮と言葉遊び

大阪女子大の同窓会報に記事を掲載していただいた。少しでも自己紹介になって、読者にも楽しんでいただければと願って書いたものだ。

私は、情報工学専攻の博士(工学)を取得し、技術士の資格も情報工学で取得した。新聞、テレビが情報の入手源だったひと昔とは違って、今日、インターネットと繋ぐことによって我々はとても多くの情報を入手しやすい環境になっており、情報を如何に効率よく、有効に、



自らが使うか、そして他人に情報を伝えるかが大きな研究課題である。そして、近年 Big Data という言葉で語られているが、大量のデータが蓄積される可能性が出てきた今日、情報を如何に扱うかは大きな技術課題であるとともに社会課題でもある。その中に情報を圧縮するという問題もある。

日本文化を振り返ると、情報を圧縮して楽しむものいろいろある。箱庭は、庭園や名称など絵画的な光景を模擬的に作るものであり、盆栽・生け花もその一種であろう。和歌・俳句は、漢詩に対比される日本語詩でその歴史も古い。作った人はある状況の中でそのときの想いを短い詩として表す（圧縮する）一方、限られた文字数では多くの状況が隠されてしまうので、それを聞いた人は自分の感覚でその状況を復元・拡大して思いめぐらす。このことが「楽しみ」を与えてくれる。

ところで、「楽しむ」というとパロディというものもある。パロディには、先行作品に対する相違を伴った模倣による批評表現ととらえられることもあるが、ユーモラスな効果を狙って他の作品形式を単に借りた形態もある。盗用とか改ざんとか著作権の問題があり、学長として研究不正を防止し、学生にレポートの書き方を指導する立場でもあるので、少しナーバスなところもあるが、私は、魚釣り、愛犬、家庭菜園でリフレッシュするときなどに、有名な歌を替えて楽しんでいる。

一緒に楽しんでいただければと思います。紹介したい。

(1) 鯛 (コチ) 深場 思い起こせよ 鍋の味 タモがなしとて 張る (ハル) を忘るな

堤防で、小さなキスを狙って、細い糸、小さな針で投げ釣りをしていたらいきなり強い引き。タモとは大きな魚をすくう網のこと。この日はタモを持参していなかったので糸が切れないか心配したが無事釣り上げることができた。

(2) 大理石 釣るや釣らずと 問われれば 貼ると貼らずで 大橋の下

ガシラ (カサゴ) は大理石のような色と模様をしており、冬の寒いときに釣れる。そのため貼るカイロと貼らないカイロの両方が必需品。明石大橋の下にはいっぱいいるが、潮の流れが速く、とても釣りにくい。

(3) 淡路島 強いメバルの引き求め 幾夜眠れぬ 須磨の釣り人

須磨港から仙正丸という船で釣りに行く。6時ごろ出船。楽しみがあると前日だけでなく、数日前からからうきうきしてしまう。

(4) 大江山 腰の痛みが 遠のいて また釣りに来た 天橋立

宮津湾はキスがよく釣れる。舞鶴道でいくと、途中に大江山があり、その先が天橋立。2年前に腰痛があってしばし行けなかったが、久しぶりに行ったときに思わず思いついて作った。

(5) 春過ぎて 夏来にけらし 白犬の 体干すちよう 風呂の片隅

飼っている愛犬を洗ったときのもの。以前はよく見かけたスピッツで今は16歳。

10月14日 ハイスクール放射線サマークラスの実施報告レポート

高校生の皆さんが各校独自の視点で工夫を凝らした発表を行い、生徒同士で活発な議論をするのが何よりもいい。次世代を担う高校生向けの教育イベントとして続けたい。世界に翔く地域の信頼拠点として。

当日表彰式であいさつをする機会をもらったので、4月の入学式の一部を引用してお話をした。「月を見た時には、すかさず夢を語る」



10月15日 今月の図書館の企画、

私が子供のころ沖縄は米国に統治されていた。甲子園に出場した高校生が球場の砂を持ち帰ろうとして、検疫でひっかかり、没収されたというニュースをおぼろげながら覚えている。

沖縄には二回行ったことがある。一回はプライベートで。もう一回は学会で。きれいな海、ひめゆりの塔、米軍基地、・・・。

図書館では多様性に共鳴するための書物が用意されている。ぜひ、手にしてほしい。

-----以下ページから抜粋-----

日本はしばしば単一民族で均質の文化であるように言われますが、歴史をふりかえり、現在の社会を見るなら、むしろ多様性をこそ特徴とすることがわかります。学術情報センター図書館は、そうした日本の多様性を知るうえで有用なさまざまな書物を所蔵しています。今回は沖縄に焦点をあて、その文化、歴史、政治、産業などの諸局面から沖縄をとりあげた書物を紹介し、日本の多様性の一端に触れていただければと思います。

沖縄は、歴史的には当初から日本の施政下に入ることが自明であった地域ではなく、中国、江戸幕府、薩摩藩の3者と等距離外交を行っていた時期もありました。廃藩置県の実施は本土より遅く、それ以後も日本の中央からは周縁と位置づけられてきました。戦争経験も日本本土とは異なります。太平洋戦争時、日本で唯一戦場になり、戦後は1972年まで米軍施政下に置かれ、現在日本で最大の面積を米軍基地に提供している地域です。

また言語、音楽、踊り、染色、焼き物、衣装といった沖縄の文化は、日本の多様性を確信させてくれるだけでなく、実に魅力的なものです。独特の経験に由来する苦しみもあるし、独自性への誇りも有する点で、興味の尽きない地域です。さまざまな面から沖縄を知る、全幅でうごめく沖縄に共鳴してフル・スウィングしてください。



10月16日 柿生

完全に休日ネタになってしまう。最初の職場は神奈川県の柿生というところだった。(当時は今と違って)まわりにはノウサギがいるし、マムシも出るようなところだった。自生している柿がたくさんあった。成っているのを一つ失敬して食したところ、渋くてたまらなかったのを覚えている。数時間は口が動かなかった。「渋い」というのはどういう感覚かをはじめって知った瞬間だった。(ご存じなければぜひ一度試されることを薦める)

今では渋柿も工夫すればおいしく食べられることを知っている。完熟したものは、普通の柿より甘くそのままヨーグルトやパンと食べるとおいしい。熟していないものも少し干すだけで甘くなる。ほんの少しの期間でいい。

未熟なものと完熟なものは紙一重なのかもしれない。未熟と思ってもう少し待つ、そういう姿勢がいるのかもしれない。渋柿はそんなことを教えてくれる。



10月17日 全学一斉防災避難訓練

今後発生が想定される南海トラフ巨大地震に備え、避難訓練が今週行われる。嬉しいのは学生が後援会チャレンジくん事業の支援を受けて、炊き出し訓練をしてもらえることだ。手作りのカマドを実際に使用するという。

薪を用いて、カマドに火を起こし、湯を沸かし、それでファルファミの非常食パックに湯を注ぎ完成だ。炊き出しだけで300食というからかなりの量だ。炊き出し以外にも一年以内に期限切れになるものを配布する。

当日は安否情報システムの入力・運用訓練も行う。面倒に思わず、皆で参加という土壌ができればと願っている。訓練を機会に自宅や下宿の非常食を点検したり、避難経路を確認したりしておくことも大切だ。自助、共助、公助という概念も確認しておいてほしい。



10月18日 白鷺祭本祭典が近づく

今年は第68回となる。私が生まれる前から始まっているのだ。春の友好祭が以前大阪府の三つの公立大学の友好を深めるために開催されていた（三大学統合後は地域との友好ということに解釈）のに対し、白鷺祭は旧の大阪府立大学からの伝統だ。

今年のテーマは、「RPG ～ここにしかない物語」だ。RPGとは Roll Playing Game の略だから、私なりに解釈すると、「大勢のひとがいる状況で個人として自分だけができるユニークな役割を果たす」ということではないだろうか。それぞれの解釈があってもいいのかもしれない。

オープンラボも24の研究室で企画しているようだ。お祭りなのだから参加することが大切だ。説明する側も説明される側も何か気づくことがあるに違いない。期間中、学長顕彰、留学生弁論大会、ビジネスアイデアコンテスト、卒業生の集い（ホームカミングデー）、卒業生向け大学統合検討経過に係わる意見交換会などイベントが目白押しだ。

私の研究室のOBも何人か会いに来てくれる。今から楽しみだ。

10月19日 全学一斉防災避難訓練 カマド De ボウサイ

（訓練の視察順序の関係で）出遅れた。300食の炊き出しはすべて供与済だった。残念だったが、朝から準備して「炊き出し訓練」をしてくれた5人のボランティア登録学生と一緒に写真を撮れた。カマドの煙突は生産技術センターの皆さんが造って下さったという。分解・再利用可能で、レンガとともに台車にのせて移動可能だ。

避難訓練は5回目。地震発生後の自衛消防組織の動きや授業からの避難誘導を見た。さらに、消火栓、消火器の使い方、煙体験（これは私は初めて）、タンカ搬送なども。訓練を通して、自ら体験し、考えることにより、身につけていくことが求められる。以前の訓練に比べて、毎年、意識向上が図れているように感じるがどうだろう。



危機対策本部の会合ではいろいろな反省点や課題が出された。地元の堺市消防局、堺市中区長、地域住民の代表の方にも貴重なご意見や課題を提示していただいた。それぞれの立場で、どのような対策をとり、どのような訓練を行うかを考えていってもらいたい。

10月20日 つながりからチェーンに。それが輪になり中心に OPU。

先日、トビタテ留学 JAPAN に 採択されて渡欧したN君。イギリスとオランダで勉強するというので、在英中の教え子 O 君を紹介した。「何か困ったことがあれば相談すればよい」と。ところが、私が順番を聞き間違えていて、先にオランダだった。そこで慌てて在蘭中の教え子 M 君を紹介した。

その後、連絡がなかったので、「どうなったかなあ・・・」と半分忘れそうになっていたら、なんと、N 君、O 君夫妻で M 君夫妻を訪問したということだった。オランダの水車の写真とともに。日ごろから、海外在住の府大 OB のお力を借りて、学生の海外派遣をより充実にはできないかと思っているので、一つの例としてうれしい。

府大にはいろいろな分野の先生がいる。そして、多くの卒業生を出している。海外で活躍している人も多いただろう。彼らがどこで活躍しているかはお互いだけではとても共有できる規模ではない。しかし、つながりとつながりをつないでいくことはできないものだろうか？ひょっとして、大手の私学は上手にそれをやっているのではないだろうか？

つながりが チェーンになって、それが 輪になる。自転車の輪に ハブ があるように中心に 府大 がある。そんな構図の中で、 世界に翔く地域の信頼拠点 を形成していきたいと心から思う。

10月21日 緊急地震速報

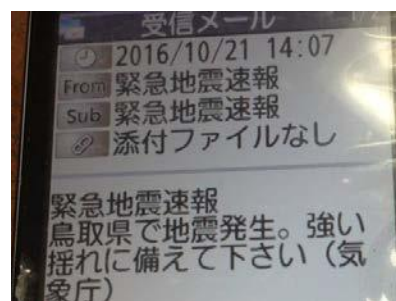
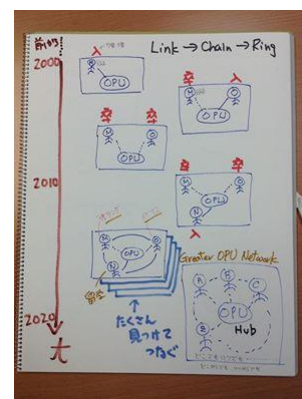
14時過ぎに急にマナーモードの携帯電話から声が聞こえた。緊急地震速報だ。(少し恥ずかしい気持ちがなかったわけではないが) 建屋から出た。というのも今いる建屋は地震に弱いと聞かされているからだ。

周りを見ると、出ている人もいるし、中で様子を見ている人もいようだ。授業はどうだっただろう。実験室ではどうだったんだろう。ガスや危険物を使っている場合速やかに安全を確保したのだろうか。

今年は激しい雨が多かった。特別警報もよく出た。いろいろなシナリオを平時にときどきシミュレーションしておき、いざというときに動けるようにしておくのが大切なのだろう。オオカミ少年のようになって困るが、面倒と思わず、結果として笑うことになっても、緊急速報が入ったら、避難をすることが大切なように思う。

10月22日

大阪公立大学共同出版会 (OMUP) というのがある。我々研究者にとって、専門図書を出版しやすい環境があるということは素晴らしいことだ。一年前にニュースレターに寄稿する機会を頂いたとき、「出版とメディア」と題して拙文を書いた。



以前に、琵琶湖近くのある城跡（観音寺城）でのろし（狼煙）をあげている場に 出くわした。琵琶湖一周のろし駅伝というらしい。担当者がのろしをあげたのち、ポケットから携帯電話を出して「のろしをあげたけど見えますか？」と連絡をしている。目の前にいる人に情報を伝達するのではなくて、離れた人に一刻も早く情報を伝達するための手段がそこにある。



一方で即時性ではなく、後日のために情報を伝達する手段も大切だ。壁画などは、動かせないの で 距離的に離れた人に対する情報伝達はできないが、場合により、何百年も後の人に情報を伝えることができる。クレタ島で見たクノッソスの壁画は印象的なものであった。

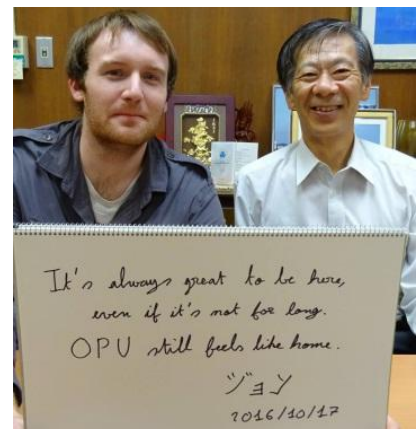
人（個体）から人（個体あるいは集団）へと情報を伝達する手段として、どのようなものがあつて どのように発展してきたのだろうか？我々人間は、のろしにせよ、壁画にせよ、媒体（メディア）を介して、情報を交換することができる。下等動物にはメディアを使えるものはいない。授業中に「メディアを使えるのは人間の特権だ」と言った時に、ある学生が「犬はメディアをもっています。電信柱です」と言ったのは面白かったが、哺乳類でもメディアを使いこなせる動物はごくわずかであろう。

永続性と可搬性を考慮した素晴らしいメディアは 紙であろう。耐久性にしても重量にしても折りたたむことができるということにしても 素晴らしい発明だ。紙が発明された直後の書物は 巻紙に書かれたという。巻紙では 最初から読むことが大原則で途中から読むことには向かない。さらに、巻紙だと 一か所ミスがあると修正が大変である。ある人がページという考え方を発明し、編集（挿入、削除、差換え）が可能となった。ページが存在することにより 本ができ、その本の構成要素として目次や索引ができた。目次や索引は、本を順番に読むだけではなく、自分の関心にジャンプして 読むことを可能にした。

自分の専門の情報科学分野では、紙をヒントにした電子文書、そして索引を用いたネット検索などの技術が生まれた。スクリーン上で自由にジャンプして情報空間を自由に移動することができる。電子文書に個人的にコメントをつけたり、付箋をつける技術も 開発されたりしている。今後いろいろな技術やアイデアがでてくるだろう。

それでも紙による出版というのは大切だ。なぜだろうか？そこには、自分の考えや夢を知らせたい、広めたいという人と、人の考えや夢から学びたいという人がいるからであろう。それらの人は同じ時代を生きるとは限らず、別の時代の人を想定しているからだ。俳句や和歌もある。紀行も小説もある。幼児向けもあれば 老人向けもある。それぞれ分野を得意とした出版社がある。

我々研究者にとって、専門図書を出版しやすい環境があるということは 素晴らしいことだ。多くの先輩が ご苦労されて その環境を守って来てくださっている。大阪公立大学共同出版会の発展に期待したい。



10月23日 「やってみないと始まらない」

John who received Ph.D in this March and is now working in Paris kindly dropped by my office while he was joining an international conference held in Kobe.

学生や卒業生が「ちょっと会いたいけど・・・」と来て（そしてメッセージボードに何かを書いて）くれるのは嬉しい。もちろん、優先度の高い会議や仕事があるので日程が取れないことも多いが・・・。

先日、急に理学研究科で3月に学位を取得したジョン君（フランス出身、EISTIのOB）が「神戸の学会に出張でパリから来た」ということで立ち寄ってくれた（もちろん、ずっと研究していた瀬田研に来たついでではあるが）。聞いてみると、2009年に交換留学で来日し、その後、EISTIを修了後、博士後期課程に入学したということだ。

思い出してみると、2006年に府大生がEISTIに最初に交換留学し、2007年二人、2008年五人そして2009年には八人を受け入れていた。その後、今年も含め、毎年交換留学生在が来てすでに60人を超えているようだ。多くの先生が受け入れ、その研究室の府大生がきちんと交流したことがこのような継続になっているのだろう。

2005年に最初にEISTIを訪問したときにはこのような日が来るとは夢にも思わなかった。「やってみないと始まらない」ということを当たり前のことを痛感する。個々のつながりがさらにチェーンになっていくといいなあと思う。

25日（火曜）には、フランスに語学研修に行った学生さんが報告に来てくれるという。午後には、EISTIのあるヴァルドワーズ県の代表団が↓される。つながりからどんなチェーンが生まれていくか。そんなことを考えながら当日を迎えたい。

10月24日 環境農林水産総合研究所 新棟竣工式

包括協定を締結している、略称：環農水研で、新棟が完成し、その竣工式（10月24日）に出席した。この研究所とは、協定に基づき、学生の実習を指導頂いたり、「大阪もん」の新商品開発や環境問題で共同研究を行ったりしている。大型の国家プロジェクトに共同提案することもある。

以前から、「一度訪問して施設の見学をしたい」と願っていたが、なかなか機会がなく、今回初めて竣工式に招待されるという形で訪問した。式には、知事、府議会議員、羽曳野市幹部、大阪府農業協同組合中央会幹部など70名近くの参加があり、私もテープカットに参加する機会を得た（左利きなので、右手でカットすべきか左手でカットすべきか少し迷った）。研究所内にはダイオキシンなどの測定装置だけでなく人材育成のための農業大学もある。

式も終わり、帰ろうとしたところ、知っている顔が上下の作業着を着て、ロビーで農家の人と思われる人の相談を受けている。そうだ、1年半前に卒業したあの学生だ。覚えてくれていて声をかけてくれた。頑張っているんだな。顔つきもたくましくなっていて自信もついたように見えた。式の会場で「どうしているかな」と気になっていたのに姿が見えなかったが、最後の最後に会えてよかったと思う。

10月25日 フランス語海外研修の土産話

9月にフランスにホームステイして語学研修をした学生さんたちが来てくれた。入学時のオリエンテーションで海外に行け



ると聞き、フランス語を選択したケースが多いようだ。オリエンテーションは大切だ。

スリにあってりするような危険なことはなかったようだ。パリでの自由時間は短く、行列のできる場所は行かなかったというのでそれは残念だった。アジアやアフリカや南米の留学生とも会話する機会があり、世界観も広がったようだ。「歴史を知っていれば」というような意見もあった。

将来の留学希望を聞くと、皆さん、大きな関心をもっているようだ。学内や国の支援制度の話をした。特にトビタテ留学 JAPAN にチャレンジするよう強く進めた。一回目で採択にならなくても二回目に採択された例も多い。応募しないことには始まらない。ぜひ頑張ってほしい。

話をあげ、CAP 制、課程配属、初年次ゼミなどの話も聞いた。ときに「CAP 制を外してほしい」とか「課程単位の入試にしてほしい」とかいう話を聴くが、本日に限っては、「制限があることをそれほど意識することはない」とか「1 回生の講義から自分でいろいろと調べて、課程を決めた」という話だった。教職員も学生も、今ある制度の狙いをよく理解し、教職員サイドは、これらを最大限生かすようガイダンスすることが大切だし、学生サイドは、これらを最大限活用することが大切だと思う。



10 月 26 日 ヴァルドワーズ県代表団来学

大阪府が 29 年前から姉妹都市として交流しているフランスのヴァルドワーズ県の代表団（総勢 22 名）が 25 日（火）に来学した。本学も 2002 年より 14 年間、学生交換を中心に交流している。来年は、それぞれ 30 年、15 年という節目を迎える。

今回は留学中の 5 名の学生も参加し、現在の研究紹介を行った。一行には、ジャーナリスト（ラジオ関係と新聞関係）も二人いて、ラジオ関係者が音声を録音してインタビューしたいということで応じた。ただ、フランス語で質問を受け、通訳に訳してもらって、日本語で答えるが、ものすごく時間が押していたので、それを通訳することなく、次の質問に移るといったものだ。極論すれば、ラジオから「日本語が流れるようにしたい」ということだった。

-----Q:フランス人のラジオ関係者、A:私-----

Q. ????????????? (フランス語)

通訳:辻さんは府立大学の学長ですね。

A. はいそうです。昨年 4 月に就任しました。(これだけでは面白くないので) ヴァルドワーズ県の大学と 15 年近く交流しています。

Q. ????????????? (フランス語)

通訳:ヴァルドワーズ県と交流しているとお聞きしましたが、間違いありませんか?

A. (今言ったやんと思ったけど、こちらからのフランス語訳がないので仕方なく) はい、そうです。セルジー大学はじめ、EISTI (国際情報科学大学院大学), ENSEA (国立高等電子応用大学院大学)、EBI (バイオ産業大学) などと交流しています。

Q. ????????????? (フランス語)

通訳：どこと交流していますか？

A. (これも今言ったやんと思ったけど、こちらの回答の訳がないから仕方ないと思って) はい、交換留学によるインターンシップをはじめ、ダブルデグリーを学生が取得できるようにしたり、卒業した学生を、博士後期課程で受け入れたりしています。

Q. ????????????? (フランス語)

通訳：どんな交流をしていますか？

A、・・・・

フランスからのジャーナリストがおられるのだからと、なんとか取材してもらおうと応じたが、「時間が押しているときに、話せない言語で通訳を介したラジオインタビューを受けてはならない。特に先回りして回答をしてはいけない」ということを学ぶことになってしまった。

いつまでたっても、国際交流に失敗はつきものだ。

10月27日 テニユアトラック教員によるワークショップに参加

日本の論文数の減少、特に質の減少に危機感を抱いた文科省がテニユアトラック制の導入を平成18年度から推進し、その後、テニユアトラック教員を30%にする目標で普及定着を目指してきた。本学でも、現在は、原則テニユアトラックとして採用するようにしていて、現在、23名の教員がいる。あらかじめポジションを確保したうえで、国際公募するものだ。

今回、海外出張中を除く皆さんがショートプレゼンテーションをしたうえで、ポスター展示した。自分の分野以外の同じ立場の教員の発表を聞くのはとても刺激的だと思う。総合大学ならではの取り組みだ。きっと若い先生方にとって、新たな気づきがあったと思う。どの発表も今後の展開が楽しみだ。

私からは次をお願いした。(1) 短期、中期、長期にそれぞれ目標を設定し、PDCAを回してください。(2) 研究公正には十分留意して、わからないことがあれば、事務職員に問い合わせてください。(3) 健康第一であり、長時間残業が続くことがないようにしてください。(4) 短期間でもいいので、海外に出ることを計画し、チャンスがあれば、必ず掴むようにしてください。

10月28日 アジアで国際会議を自分たちで企画・運営し、盛り上げる

私の分野である情報システムに関する国際会議は多い。欧米で多く開催されるし、日本でも多い。質の高いものもあれば、そうでもないものもある。参加者が多いものもあれば少ないものもある。

今から10年ぐらい前、「中国は人が多いが、若い人は国際会議での発表機会が少ないだろう。なら、電気学会の情報システム研究会が中心になって、現地で研究会を開催しよう。質を問わず、多くの現地の若い人にポスターでもいいので発表してもらおう」ということになり、2008年 濟南 (Jinan=キーノートスピーチをした)、2009年 威海(Weihai=大会会長をした)、2010年 北京 (Beijing)、2011年 南昌 (Nanchang)で開催した。

残念ながら 中国では (急に現地での国際会議開催が増えたためか) 思うように現地の若い人のいいチャンスということにはならなかった。そこで11年から アセアン に場を移した。11年プ



ノンペン(カンボジア=大会会長をした)、12年 シェムリアップ(カンボジア=大会会長をした)、13年 プーケット(タイ)、14年、ナチャン(ベトナム)。ここまで皆勤で参加したが、とうとう昨年のマレーシアの大会は欠席になった。(少しオーバーだが断腸の思いだった)

今年は今 タイの クラビで 行っているという(リンク先)。(やはり参加できない)。府大の先生や学生も何人か参加している。アセアン開催にしてからは 元府大の橋本喜代太先生の活躍が目光る。前職時代の 元同僚の研究者も多く参加している。「世界に翔く地域の信頼拠点」としての一つの活動として定着してくればこれほどうれしいことはない。

カンボジアとの交流は この会議を 2 回開催したときに一緒になって企画や準備・運営をしたので とても深まった。そんなこともあって 私がリタイアするときには、カンボジアで開催して、私に何か話をさせてほしいと今からお願いをしている。

10月29日 杏 believable

羽曳野キャンパスの大学祭である杏樹祭に行った。第23回目だという。到着して桜通りで、「あっ、わかります。入学式の話覚えています。ジャガバターやっていますのでよかったですら来てください」と声をかけられた。一回生なのだろう。式辞を覚えてくれているのはとても unbelievable で嬉しかった。流れ星、富士山、三人のピッチャー、カーナビの話をつないだものだ。

短い滞在時間だったが、模擬店によって、軽音野外ライブを少し聞いて、楽しそうな様子から元気をもらった。もちろん、ジャガバターを食べた。学生たちが力をあわせて 協力して 作り上げている。それはよくわかったので、さらに盛り上げていくために PDCAをきちんとまわして 次につないでいってほしい。



10月30日 広島同窓会に参加

昨年に続いて招かれて出席した。卒業生 38 名の他、大学関係者、他地域の同窓会関係者 6 名が参加し、年々少しずつだが出席者が増えている。

最高齢は 1954 年卒業、若いほうは 2012 年卒業。大阪女子大学出身者も 12 名。看護学科出身者も 2 名。幅広いのが他地域の同窓会と違っている。記念写真を当日にいただいたのには驚いた。

自己紹介では、「息子が今年府大に入学した」という方もおられた。中国に 4 年赴任していたという方や東南アジアに 8 年赴任していたという方の話、趣味の話、健康の話にも花が咲いた。驚いたことに岐阜県や兵庫県からの参加もあった。「広島に同級生がいて誘われたから・・・」ということだが、つながりがそこにある。

大学が卒業生に対して何ができるか、卒業生に何を願うか、母校が母港になるにはどうすればいいか、考えることはまだまだある。

10月31日 立つ鳥 後を 濁さず

かなり先のことだが、以前から、話題になっているのであげておきたい。

3月に卒業する学生さんが自転車を学内に放置していくことがあるようだ。こういうのは絶対にやめてほしい。問題は学生さんだけではないようだ。教員の中には部屋に（山ほどある）本や雑誌を放置して退職される方がいるようだ。後のことを考えてほしい。寄付するなら寄付（校友会でも受け付けている）、破棄するなら破棄、そして、少しでも部屋の整理をしてから、退職するようお願いする。本だけでなく実験器具もそうかもしれない。

世界に翔く鳥 後を 濁さず。英語でどういふのかも併せて調べてみた。3種類あげておく。

it is simply common courtesy to clean up after yourself; a bird does not foul the nest it is about to leave; on leaving a place one should see that all is in good order.

11月1日 リオ・パラの銀メダリストと面会

Welcome, Silver medal winners at 2016 Rio summer paralympics. I have a chance to touch the medal and to place it around my neck.

リオパラリンピック ボッチャ 銀メダリスト が遠路 わざわざ 府大に報告に来てくれた。おめでとうございます！！本物のメダルを 首にかけさせていただいたことには 感謝感激。メダルには 視覚障がい者のための 点字があるだけでなく 振ると 音が出た（金、銀、銅で異なるらしい）。見た目よりずっと重い。

昨年、ボッチャという競技を 始めて知って、松原市での大会を見学して 興味をもった。その後、ボール一式を 学長室に常備して、来客に「ボッチャって知っていますか」と広報し続けてきた。総合リハビリテーション学研究科の奥田先生、片岡先生が 選手の筋力や心肺機能の強化を図り、競技力の向上を目指されているからだ。記者懇談会でも 実技含め説明をしてきた。

7月の首都大戦の開会式では、同大学の川瀬三郎理事長（Jリーグキャプテン）とボッチャの試合をした（写真右下）。あの川瀬さんでさえ 当時は ご存じなかったボッチャ。それが、銀メダル。今後は、総合リハの先生だけでなく、工学の先生にも知恵を出してもらって、東京2020での金メダルを目指す彼ら（火の玉 Japan）をサポートしていきたい。

府大関係者は一度ボッチャをしてみしてほしい（道具は学長室にもあり、いつでも貸し出します）。そして、OB 含め 盛り上がってほしい。

11月2日 向坂 保雄（こうさか やすお）名誉教授と。

平成27年 秋の叙勲において 瑞宝中綬章を受章された向坂先生が、工学研究科の退職教授の集いに見えておられたので、（スーツでなく作業着だったので恐縮だったが）記念写真。受賞されたときに祝電を打っていたのを気にしていただいたようで、声をかけていただいた。

先生の功績は 粉体工学（とりわけエアロゾル学）の分野において、微小粒子の基礎的挙動、新たな計測技術の開発とそれらの工業的応用に至る広い範囲で数々の成果に先駆けた研究をされ、この分野の発展に貢献されたことだ。

退職教授の集いには、他にも多くの先輩の先生に 参加いただいていた。今でも大学内の 散髪屋に見えているとか、別の大学で 実験台をもらってお一人で研究を続けているとか、それぞれだ。健康に留意され、また、大学に顔を出していただければと願っている。



11月3日

I have courtesy visit by exchange researchers and students who come from Ho Chi Minh City university as Sakura Science project members.

府立大学の学生も国際環境学演習などでお世話になっているベトナム国家大学ホーチミン市校。この大学から3名の研究者、2名の大学院生、5名の大学生が来日している。お世話いただいているのは現代システム科学域の飛田先生。



植物工場見学、水処理に関する実験、バイオディーゼルに関する実験、メタン発酵の講義受講のほか、大阪市立環境科学研究所や民間会社の見学を行うという。受け入れてくれる先生も大変だが、先生方の研究室の学生はいい交流をしてくれるだろう。

彼らはわざわざアオザイを持参して、それを着て訪問してくれた。とにかく笑顔だ。彼らの笑顔からとても元気を頂いた。私からは十八番の天橋立の話とカーナビの話をした。多少でも印象に残ってもらえたら、influencer と influencee の関係になれるのだが、どうだろうか。

11月4日 白鷺祭

並行していろいろなイベントがある。前日は府大OBの経営者交流会があった。多くのOB社長にはすでに授業のゲストスピーカーとして話して頂いたり、大学を支援していただいたりしている。今後も「何かあれば遠慮なく声をかけてくれ」という暖かい言葉。

一日目の4日は、ナノの拠点のワークショップの開会の挨拶をした。海外から3名の先生をお招きし、国内からも2名の先生、文科省の真先審議官にもお越しいただき本学教員の発表に議論を頂くほか、人材育成の講演をいただいたという（残念ながら他のイベントと重複しており参加できず）。続いて、学長顕彰（これについては後日別途書きたい）を行い、白鷺祭の開会式で挨拶した。（午後は関西大学の創立130周年記念式典と祝賀会に参加）

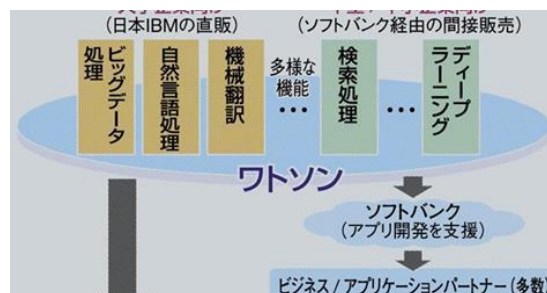
二日目の5日は、少し体調を気にして休養する。

三日目の6日は、まず、ビジネスコンテストで冒頭あいさつし、11時から、新大学の検討経過に係る意見交換会。12時からは校友会主催のウェルカムパーティ（ホームカミングデー）。午後は留学生弁論大会にも顔を出す予定だ。その間に研究室OBとも面会する。



11月5日 二つの講演会の予告

11月21日、5コマにIBMのWatsonの講演、12月8日、3コマにグローバル化とダイバーシティに関する講演。詳細は別途案内があるが、ぜひ、多くの方に出席してほしいIBM社の幹部による講演が2件あり、予告しておく。一つは最近注目を浴びているWatsonの講演。医療分野での応用など最近ニュースを賑わせている。技術のトップの武田



浩一氏が来てくださる。近未来にどんな世界が来るかのヒントがあると思う。もう一つは、同社最高顧問の下野雅承氏による、グローバル化とダイバーシティに関するもの。「多様性を尊重する」ということはどんなことはのヒントが得られると思う。LGBT の理解も深めたい。教員も職員も学生も参考になるのではないだろうか。

ネットでキーワード検索するといろいろな情報が出てくると思う。聴講前に少しでも調べて参加すると理解が深まると思う（から予告しておく）。事前に予習して、それをもとに講演を聞いて、終了後にはその理解を周りの人と共有する。その大切さを実感するのに最適なテーマであり、講師だと思う。

11月6日 ホームカミングデー

今年はUホールが工事中ということもあり、少し小規模になったようだが、220名超の参加があった。直前に、「新大学の検討経過に係る意見交換会」もあり、先輩方のご意見をいろいろ伺った。これも私の一つの役割(Role)。

大阪府立女子大のOGの方も多く参加され一緒に写真を撮らせていただいた。また、羽曳野の看護学卒業のOBにも声をかけていただき、こちらも一緒に記念撮影。応援団の演舞もあり、会を大いに盛り上げてくれた。これは彼らの役割(Role)。

この集いでは、司会者も設営関係、音響・プロジェクト関係も学生さんたちが参加、また、校歌斉唱にも3大学の校歌が歌われ、それぞれが役割(Role)を果たしたのだと思う。

他にもビジネスコンテストや留学生弁論大会もあり、いろいろな方がいろいろな役割(Role)を果たした。府大関係者はいつも自分のRoleを考え、活動する。そうあることを目指しての白鷺祭だったのである。

11月7日 ホームカミングデーで学生さんが Role を (続)

白鷺祭ではいろいろな企画がある。模擬店もあれば、オープンラボもあれば、フリーマーケットもある。今年は特に「RPG ～ここにしかない物語～」というメインテーマだったので、それぞれが役割を持ち、楽しんでくれたのではないだろうか？

実行委員をはじめとする関係者の皆さんに心から感謝する。

写真は 校友会の集いで 司会、校歌斉唱、会場設営、Audio/Visual などの役割を果たしてくれた学生さんとの記念撮影。来場されていた皆さんがとても喜んでおられたので、私もとても嬉しかった。こちらも準備を担当された皆様に感謝だ。





11月8日 六公立大学総合競技大会 (12-13)近づく

昭和45年に始まった本大会は、今回で第47回目。長い間、変わらずにこの伝統ある大会を受け継ぎ、これまで支えてこられた諸先輩方や関係者の皆さまに深く敬意を表したい。

昨年は本学が総合優勝し、今年も連覇を目指して、各クラブは日々練習に励んできたはずだ。3年ぶりのホーム開催で、今回は、体育館が改修されている。

我々は(いろいろな意味で)「垣根のない大学」を目指しているので、参加する学生さんへお願いだ。(いろいろ事情はあるかもしれないが)一つでも二つでも自分の競技以外の応援(写真は先日の校友会の集いで)に参加してほしい。当日登校している学生さんや近くに住んでいる学生さんに対しても同じ思いだ。他の競技をみることに(応援すること)により、何かをえてほしい。きっと得られるはずだ。自分の競技だけの参加に終わると「総合」競技大会とは言えなくなってしまう。私はそう思うがどうだろう。



11月9日 六研スタイル

私が研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。そのときの一つの特徴が期ごとの目標管理。最近でも研究室の卒業生と会うと、この話になることが多い。

毎期、期の目標を書いて面談するのだ。研究内容だけでなく、語学、情報発信、さらには自己啓発についても「何をしたいか、何をするか」を宣言してもらおう。そして、期末にその実績を確認し、次の期の目標を書く。

研究室・目標管理

項目	目標	達成状況	達成	未達成	理由
中期	研究内容				
	学術・学外活動 (卒業論文等)				
	英語(または英語、中国語) (TOEIC等、TOEFL等)				
	情報発信の積極性 (ブログ、SNS等)				
長期	研究内容				
	学術・学外活動 (卒業論文等)				
	英語(または英語、中国語) (TOEIC等、TOEFL等)				
	情報発信の積極性 (ブログ、SNS等)				

①本学での目標(本学)は、最終的に個人で達成可能な目標を設定する
②達成しない目標は、達成しない理由を記入し、改善策を記入する
③達成した目標は、達成した理由を記入し、達成したことで得られた成果を記入する
④記入しない項目は、その項目に関する目標を設定しないことを意味する
⑤達成した目標は、達成した理由を記入し、達成したことで得られた成果を記入する
⑥達成しない目標は、達成しない理由を記入し、改善策を記入する
⑦達成した目標は、達成した理由を記入し、達成したことで得られた成果を記入する
⑧達成しない目標は、達成しない理由を記入し、改善策を記入する
⑨達成した目標は、達成した理由を記入し、達成したことで得られた成果を記入する
⑩達成しない目標は、達成しない理由を記入し、改善策を記入する

面談は少なくとも2回行う。場合によっては(嫌がられたかもしれないが)何回も書き直してもらおう。学生さんの目標になるだけでなく、自分自身の目標にもなった。

もちろん、学生さんが書いてくれたものは今でも大切に保管している。私自身は何を言ったかあまり覚えていないが、卒業生は面談時のことを意外と覚えているようだ。

11月10日 ポートフォリオ

5年いやもっと前だったのだろうか？フランスから日本語スタディツアーとして短期間10人ぐらいの学生が教員に引率されて府大に来た。そのとき、その先生が、「学生たちはポートフォリオを書いているのですよ」と言われた。見てみるとノートだ。「何を書いているのですか」と聞いて教えてもらおうと次のようなものだという。

来日する前に、今回のツアーで何を学ぶのか、それは何故か、どのように学ぶのかなどの計画を学生が自分で書くということだった。そして、それを先生がチェックしてアドバイスをを行う。

そして、来日中に、その計画に対して、何をしたのか、計画と違ったのは何か、さらにはそれは何故か、計画外に行ったことは何かを毎日書くという。それに対しても先生がアドバイスをを行う。

あとは想像されるように、帰国後に全体を振り返る。常にスタディツアーとして受け身で参加するのではなく、自発的にアクションするように考えられたものなのだと知った。先生にも学生にも負荷がかかる。

さて、これが可能なのは、教員から見て学生数が10名ぐらいだったからだろうか。学生から見ると、その期間、スタディツアーに集中できたからだろうか。それとも、そもそもスタディツアーという学習がポートフォリオを書くのに適したものだからだろうか。心地よい負荷であれば正のスパイラルになり良いが、過剰な負荷であれば続く訳がない。

小学校のときに、ときどき先生がノートチェックをされたのを覚えている。先生はなぜそのようなことをされていたのだろうか。学習の理解状況をみておられたのだろうか。それとも指導要領にそのようなことをするように書かれていたのだろうか。ただ、小学生では、そのようなチェックがあったとしても受け身の学習という意味では変わることはなかろう。

今、大学では、学生が自発的に学習するような意識付けが求められている。言うのは簡単だが、どうすればいいかは、知恵を絞っていくしかない。

11月11日 学生さんがつくる名刺

学生（学域制、学部生、大学院生、研究生および特別研究学生）が大学のロゴを用いて名刺を作りたいという話をよく聞く。ところが、大学ロゴを利用するには広報課へ許可を得る必要があった（校章使用承認申請書）。

今回、統一意匠を定め、それに従う場合には、そのような承認申請手続きをしなくても作成できるようにルールを決めていただいた。学生ポータルに掲出する様式をダウンロードし、各自で印刷すればいいし、費用がかかってもいいなら、生協の窓口で発注することもできる。もちろん、名刺を使用するのは在学中だけだ。ないとは思いますが、大学の名誉を損なうようなことにはくれぐれも使わないように注意してほしい。



11月12日 関西六公立大学総合競技大会

第47回大会が 府大なかもずキャンパスで 12日ー13日あった。兵庫県立大学、京都府立大学、大阪府立大学の三大学だが、過去に六大学だったことから今でも そのように呼ばれる。兵庫県立大学は 姫路と神戸にキャンパスがあるので 種目によっては別々に 練習し チームも別だ ということだ。



さて、この大会では 府大農園の 鶏みぞれ雑炊が 炊き出しされる。栄養学専攻の学生さんが 朝八時から 準備してくれているというので その様子を拝見した。時間が迫って 大変な時に 恐縮ではあったが。

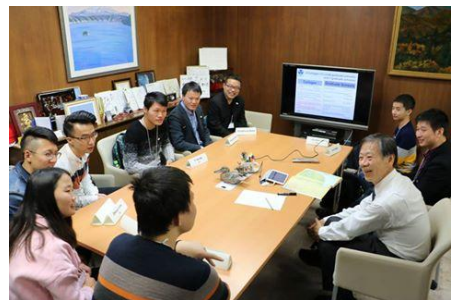
スポーツ栄養の知識、海外でのスポーツ栄養研修、陸上部でのマネージャー経験を使っているらしい。テントの下の写真をみればわかるのだが 府大農園（フィールド）の先生方も 学域を超えて支援されたようだ。

学内では いろいろな活動がある。疲労から身体を守る食事術も大切な研究テーマだ。学内の出来事のすべてを知る必要もないし、実際不可能だろうが、私が知っていることは 少しでも **facebook** を 使ってお知らせしていきたいし、逆に私にも いろいろな機会を通して 気づいていないことや知らないことを 教えてほしいと思っている。自分たちの大学を 誇りに思うために。

11月13日 ヴェネチア・ルネサンスの巨匠たち

日伊国交樹立 150 周年の 特別展を 国立国際美術館（スライド 4 枚目）で 開催していたので、行ってみた。見ものは、スライド 3 枚目の 「受胎告知」。高さ 4M ある（実物は縦長なので上下が切れている）。その一部を 切り出したのが スライド 2 枚目。告知されるマリアが ベールをあけて 告知を 聞こうとしているところだそう。もちろん 実物の写真ではなく パンフレットを スキャンしたもの。ティツィアーノが 70 歳で 描いたらしい。サン・サルヴァドール聖堂からもので 迫りに圧倒される。1月15日まで。

芸術家の仕事は 何百年も残る。橋やトンネルを 創ると その仕事は何十年も残る。そう思うと コンピュータの仕事は サイクルが短いので 少し悲しくなる。そんな思いをもちながらスライドの 5 枚目。



11月14日 福州大学からの来訪者

I have a courtesy visit by delegates of Fuzhou University. They came to OPU as guests of Sakura Science Project.

機械工学類では、3年次に 中国の福州大学から 編入生を受け入れ、無事修了すれば 両大学からのダブルデグリーを授与するプログラムを始めた。来春には 今年の試験に 5名が合格したので来阪するという。



国際交流を進めるには、「プログラム」を作ることが 大切だ と思う。ダブルデグリー取得後、本学の博士前期課程に進んでくれることを 想定している。単発の交流ではなく、継続的なものにするためにも。個々の教員の交流ではなく、組織的なものにするためにも。

今回 その大学の教員の方、大学院生の方が 10 名見えた。いつもの 十八番になるが、カーナビの話と 天橋立の話をした。少しでも 府大ファンになってくれて、帰国後、府大への留学を勧めてくだされば 今回の招へいが 将来の布石になったことになる。だからこそ、多くの教員に さくらサイエンスプログラムに 応募するよう声をかけ続けている。

11月15日 18日（金）前田泰昭名誉教授の記念講演会

本学の名誉教授である前田泰昭先生が 9月にベトナム国家大学ハノイ校から 名誉博士号を授与された。大学としてとても喜ばしいことだ。

受賞理由は、長年にわたり、ベトナムで バイオエネルギーなどに関する研究・交流活動に携わってこられたもので、特に 環境改善支援の取り組みを続けてこられたことが評価されたものだ。この榮譽を祝して 記念講演会を開催する。

演題：大阪府立大学＝日本とベトナムの科学と
教育の架け橋

時間：11月18日（金）13時～15時

場所：国際交流会館 I-wing なかもず

チャン・ドク・ビンベトナム総領事をはじめ、南 努 元理事長・学長、奥野武俊 前理事長・学長にも出席いただけることになった。国際交流に関心のある方、環境問題に関心のある方、前田先生に指導を受けた方など 幅広い参加を 期待している。「世界に翔く地域の信頼拠点」として、迫力のある活動を 知るためにも。



11月16日 統合に関する意見交換

白鷺祭の期間に OB・OGに 大学統合の現状を説明したところ、なかもず電気クラブ（NDC）から 以下のようにレポートしていただきました。

大阪府立大学と大阪市立大学の統合については、平成28年4月の 副首都推進本部会議において、先に両大学を設置する法人の統合を進め、その上で大学を統合するという方向が 確認されています。これを受けて 新大学設計4者（府、市、府大、市大）タスクフォースが発足しました。8月時点での検討経過報告は 府大のホームページでも 見ることができます。

- ・大阪市立大学との統合について
- ・新大学について（検討結果の報告）（平成28年8月22日）

このなかでは、統合の手順とスケジュールについて 次のように提案されています。

【統合の手順】

- 最終的に「一法人一大学」を目指すため、過渡的に「一法人二大学」とすべき
- 新大学の「教育」・「研究」組織のくくり方（学部名等）や名称は 新法人が 決定すべき
- 統合時の専門領域や年齢層の偏りは、新規採用 を戦略的に行って10年以内に解消する

【工程表（想定）】 ■フェーズ1・統合準備 2016-2018年度
■フェーズ2・法人一元化 2019-2021年度
■フェーズ3・新大学発足 2022-2024年度

11月6日ホームカミングデーに合わせて、卒業生向けの「新大学の検討経過に係る意見交換会」が開催されました。辻理事長・学長のほか 神谷理事と千田統合準備室長が出席されました。

11月17日 ふるさと納税を使った学生生活活動支援のお願い（1）

教職員の方、学生のご家族の方、卒業生の方へのお願いだ。府大は公立大学なので、ふるさと納税を使っていただければ、わずか2000円の負担で「税金」を寄付金にしていただくことができる。2000円と寄付額の差額は当年の所得税と翌年の住民税が優遇措置として減税される仕組みだ。

これを「世界に翔けつばさ基金」として運用している。I-site なんぼや I-wing なかもずも寄付頂いたものを使って設けることができた。用途は大学の施設に限らない。

これまでも学生活動の支援もしていただいた。深く感謝している。今回、その二つを紹介する。一つは水泳部の飛び込み台だ。昔の飛び込み台と違うことが分かっていただけるだろう。一台ずつ新型に代えている。もう一つはヨット部のレスキュー艇だ。安全祈願をしていただいたの進水式。これでヨットが転覆してもすぐ救助される。ぜひ、ご賛同いただき皆様からの幅広いご支援をよろしくお願いします。



11月18日 学生歌を覚えますか？

学生さんたちに提案というかお願いがある。首都大戦や関西六大学総合競技会にしても入学式・学位記授与式でも学生歌を歌う場面があるが、聴いたり歌う機会がないからか、とても白けてしまっている。強制はしないが、何回か聴いて、口ずさめるようにしてはどうだろうか。

1.

朝暁（あさひ）に光る 海原の
風さわやかに吹きなびく
河内野原（ぬばら）にそびえ立つ
我が学舎（まなびや）のその名こそ
大阪府立 いざいざいざ 栄えあれ
我等の大学

2.

真昼の陵の常盤木に
百舌鳥たからかに鳴き渡る
古き歴史の跡にして
我が学園（まなびや）のその名こそ
大阪府立 いざいざいざ 誉あれ
我等の大学

2.

夕陽に映える葛城の
山の彼方の雲あかく
希望は遠く大いなる
我が学苑（まなびや）のその名こそ
大阪府立 いざいざいざ 力あれ
我等の大学

4.

星霜（としつき）移り変れども
永遠に変わらぬ探究の
真理にひとみかがやかす
我が学窓（まなびや）のその名こそ
大阪府立 いざいざいざ 奮い立て
我等の大学

11月19日 短い秋

暑い夏が終わったと思ったら、冷える日、暖かい日が繰り返す秋になった。日本ははっきりした4つのシーズンがあると思っていたが、最近では、夏と冬だけになり、その境に、寒暖の差が激しい時期があるように感じる。

その短い秋だが、木々が葉を落とす準備をしている。あまり日ごろ行かない場所からの写真を三枚、ほぼ毎日のように通るところを写真の二枚。広いキャンパスだなあと改めて思う。

11月20日 学長顕彰の祝辞

先日、団体11組、個人130名の計141組と過去最多の学生を表彰した。賞状を手渡すときに、それぞれの活動について、知っていることにはその旨声をかけ、知らないことには聞きたい、とそう思うが、(141組と多いだけに)時間の都合で流れ作業になってしまうのは残念だ。それでも学会関係以外の聞いていることについては、手渡すときに小声で声をかけるようにした。声をかけると、その学生さんは、にこっと笑ってくれる。それがなんとも嬉しい。



お祝いの言葉として何をいうかいつも迷う。型通りの内容にすれば無難だが誰にも記憶に残らないだろう。3%の学生でも5%の学生でも記憶に残ってもらえればと考えてまとめたのは入学式の式辞なので、それを半分ぐらいに短縮して、お話しした。この式辞の一部は白鷺祭の開会式で話したり、スポーツの競技会で話したり、一部の授業でも話しているので、何回も聞いている学生さんには申し訳なかった。

11月21日 ベトナム国家大学ハノイ校授与 荣誉博士

先日 予告した本学の名誉教授前田泰昭先生の 記念講演会を行った。ベトナム総領事チャン・ドック・ビン、同領事キエウ・マイン・リン、本学元学長 南 努先生、前学長奥野武俊先生はじめ、同校とのプロジェクトに関連した学内外・国内外の関係者が多数集まり お祝いをした。先生も「晴れ姿を」と思われたのか、奥様も参加されていた(きちんと招待状を出せばよかったと反省)。



海外交流で 成果をあげるには 時間がかかる。組織間の交流として 定着させるには 10年ぐらいかかるのではないだろうか。一人だけでは大きな成果をあげることができないが、その一方で大きなリーダーシップをもつ誰か一人が絶対に必要だ。そういうことを痛感した。

前田先生は これまで多くの成果をあげられてきたが、現在の狙いは、デフォルメしていうと、「従来、植物からバイオエネルギーだけを取り出そうとしていたのに対し、それでは ビジネスにならないので、バイオエネルギーに加え、糖やビタミンを取り出す」というものだ。いつまでも研究に情熱を傾けられることにも敬意を表したい。

11月22日 ふるさと納税を使った学生生活活動支援のお願い(2)

漕艇部から、つばさ基金も活用し購入、納艇予定の新艇と同じ現有艇の写真を送ってもらった。全国大学生選手権、フォア8位入賞! オックスフォード盾レガッタ、エイト8位入賞! 国体でも大活躍と聞いている。「予定」というのは、国内の受注数が



少なくコンテナがいっぱいにならないそうで、来年の2月納艇とのこと。さらなる活躍が楽しみだ。

税金として支払う皆さんのお金をぜひ府大への寄付金に。わずか2000円の負担で学生の活動への支援になる。今後も活用例を紹介していく。2000円と寄付額の差額は当年の所得税と翌年の住民税が優遇措置として減税される仕組みだ。

ぜひ、ご賛同いただき皆様からの幅広いご支援をよろしく申し上げます。

11月23日 「なかもず科学の泉」

堺市理科展が9月にあった。市内小・中・高・支援学校の児童生徒の理科学研究物や製作物22, 221点の中から優れた作品計788点が展示されていた。

その中で素晴らしいもの(複数)の説明を受けた時に、小学校時代に大阪府立大学で科学実験を行い、それから理科が好きになり、毎年研究しているという。嬉しい話だ。

この本学の実験こそ、「なかもず科学の泉」だ。堺市教育委員会の後援も受けている。今年も今週末に開催される。事前申し込みは不要。



11月24日 研究ノート

研究の記録の仕方は、分野によってそれぞれなんだろう。理系では実験ノートというほうが一般的なのかもしれない。

私は、一般の大学ノートに書いてきた(35年以上前のものもある)。私の分野では、実験データというのをこれに残すことは少なく、誰とどこで会って何を議論したか、何を決めたか、何が課題として残ったかだ。システム図のメモもたくさん書いた。

仕事の合間に書くこともあれば、会議中に書くこともあれば、いろいろだ。会議中に自分の関係のない議論になるとノートを開いて読み直し、考えをめぐらすこともあった。何年か経ってから読むとなかなか面白い。落書きみたいなものもある。よほど退屈な会議にでもでていたのだろう。

大学で研究室をもったときに、ノートを持たずに会議にくる学生がいた。「人間は忘れる」ということを知らないのかもしれない。このときに、「ノートがあれば内職もしやすいんだよ」と言った覚えがある。ノートの大切さをどのようにして伝えるかは、簡単そうで難しい。



11月25日 六研スタイル(2)

研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。そのときの一つの特徴が白板の活用だ。

教授室に白板を5枚持っていた。一つは移動できるものであとは壁にかけていた。それらにはペンで描くこともあれば、プロジェクタで投影することもあれば、資料を掲示することもある。



学生との 打ち合わせに使うだけでなく、独りで考え事をするときにも 独り言をいいながら アイデアを書きだす。数人での会議で書き出したことを 後刻 別の学生に伝えたこともあった。学生に伝えなければならないことを 大きな文字で 備忘に使うこともあった。



白板に 書いたことは すぐ消すこともあれば 数日残しておくこともある。考え事をしたり 会議をするときに 白板がないと どうも落ち着かない。最近 白板がないところで会議をする機会が増えたのが 少し悲しい。

ある留学生に 「この資料を白板に貼っておいて」 と伝えたところ、後で見ると、しっかりと 糊付けされていた。「誰だ！こんなことをしたのは？」と聞いたところ 「先生が貼っておけと いった ではないですか」 と言われてしまった。磁石で止めてほしかったのだが、日本語は 難しい。

11月26日 個人レベルの交流 (P2P) から グループ間の交流 (G2G) へ

From P2P to G2G with 台南大学

- I met Professor of NUTN in France in 2006 first.
- Another Professor and his students dropped by NUTN in Dec. 2007.
- Joint research on software risk was accepted in 2008.
- We have organized conference and workshop since 2011.
- We exchanged four students from TW to JP and four students from JP to TW.
- We published journal papers and conference papers together.

12/15

The president of National University of TAINAN kindly dropped by us on his business trip with his colleagues.

There is a story on collaboration between NUTN and OPU. It can be a reference model which suggests incubation for research collaboration. First I met Professor Lee of NUTN in France ten years ago. I felt I found an egg of collaboration. Next year, in 2007, Aoki-sensei and our students dropped by

NUTN on the way of their conference trip.

Including Prof. Lee as a member of project, our proposal was accepted in 2008. At that time I felt our collaboration broke a big egg shell.

Since 2011, we have organized some international conferences. We have also exchanges students. This is bi-directional exchange. The students would like to visit another university like birds.

Because of my university duty, I can take few time for this collaboration but Prof. Saga and his students are still working hard with NUTN. I wish his proposal for Sakura Science would be accepted soon. Once it is accepted, about ten NUTN students could come OPU in next February.

国際交流を 個人と個人の交流から、グループとグループの交流、さらには 大学間レベルでの交流に 発展させるのは、なかなか大変だ。場合により、それぞれの大学がある自治体や 近隣の企業などを 巻き込んで、そういう 大きな交流が継続的に 発展するのかもしれない。

学内には たくさんの個人レベルの交流 (P2P) があり、そのいくつかは グループ間の交流 (G2G) になっている。今の私のミッションは これを大学レベルにしていくことだと思っ

11月27日 ソフトバレーボール大会

Thank you for organizing the second soft valley ball contest.

It was held on Nov. 22nd. I joined in this event as a member of international office. As a rule, each team should include at least one international student and one female member.

When I was a high school student, I was a member of valley ball club. So I can imagine how I should play but could not.

スポーツというのは 親睦を深めるためには とても いいものだ。以前は、B3 棟や その横の駐輪場あたりで ソフトボール大会などを していた。経営工学科に 属していた時には ボーリング大会をしていた。研究室旅行では バスケットボールをしたこともある。

以前 「研究室対抗で玉入れリーグ戦をしよう」と提案したが、残念ながら 却下された。テニスを 毎週 定期的に行っている研究室もある と 聞いている。ソフトボール大会も 一部の専攻で 続いているそうだ。コミュニケーションを とる場を飲み会以外に 設けることが大切だと思っている。

今回、昨年に続いて留学生が 中心になって ソフトバレーボール大会を 企画してくれた。午前中の予選リーグだけが 教職員チームとして出場した（午後の決勝トーナメントで3位になったそうだ。自分がやっていたころは バレーボールは 屋外で 泥まみれになってやるものだったが、今では体育館。昔のことを思い出しながら楽しいひと時を過ごせた。幹事の皆さん、ありがとうございました。



11月28日 岡山同窓会

一年ぶりに岡山の同窓会に出席した。あいにく雨だったので写真は昨年のものでした。大学時代の楽しかった思い出、苦勞したこと、卒論・修論、クラブ活動、仕事の内容、趣味、近況などテーブルごとに盛り上がっていた。大学からは「府大の今」を紹介。基金への寄付もお願いした。



参加されている方の中には、「応化を出ました。先日なかもずに研究室のOB会で行きました」「金属で以前は大学に共同研究をお願いしていました」「孫が府大に行っています」などなど、お話を頂いた。

府大には、その歴史からいろいろな同窓会がある。以前はそれぞれの交流がなく、全体像が分かりにくかったそうだ。最近、校友会が同窓会のとりまとめでしてくださっているので、同窓会同士の交流もできてきた。垣根のない大学のつながりを。

11月29日 学術研究に係る行動規範を制定

学生を含めて、法人において研究活動に携わるすべての方へ。研究をする上で、一度は行動規範の全文を読んでください。以下は前文であり、全文はHPにあります。

学術研究は、合理的、実証的に真理を探究する人間理性の営みであり、その達成である知識体系は人類が 暗愚と迷妄を廃して、自由と進歩を拡大し、世界の平和と地球環境の保全をつくりだすうえで 不可欠な共有資産である。過去の知的達成を踏まえて 現在の課題に取り組み、未来の知識を創生するという学術研究の行為に 終わりはない。ふりかえれば 先人による知的達成は、ただ受容されてきたわけではなく、常に批判的な理性による検証を受けて新しくされてきた。だからこそ、すぐれて 批判的な営みである学術研究にとって 自由の重要性が 広く認識されている。

自由な学術研究を、単なる好奇の追究から 区別するものは、学術研究の歴史性、社会性についての認識と、学術研究に携わる研究者に対する社会的な信頼と負託に応える責任の自覚である。したがって、研究者は 学術研究を進めるうえで、そうした認識と自覚に立ち、偏りのない澄明で 厳正な倫理的公正をもって判断し、行動することが求められる。研究者の判断と行動が学術研究の発展に寄与し、人類の知的領野の拡大に貢献するには、研究の成果を公開して 社会に対する説明責任を果たし、研究が公正に行われていることを 示さなければならない。それなしには 学術研究の高い質は保証されない。

学術研究にとって 重要な倫理的公正は、ただ研究者個人の責任において実現されるものではない。学術研究のための 専門的機関である 大学や高等専門学校もまた、研究の公正を実現する責任を有する。とりわけ大阪府立大学及び大阪府立大学工業高等専門学校を運営する公立大学法人大阪府立大学（以下「法人」という。）は、大阪府費である運営費交付金、国等からの外部研究資金等によって支えられていることから、その責任は特段に重い。こうした認識に立って、法人において 学術研究に携わる研究者の判断と行動を律し、研究の公正を実現するうえで遵守すべき行動規範をここに定めるものである。

なお、この行動規範に言う研究者とは、学生を含めて、法人において研究活動に携わるすべての者を指す。

11月30日 日仏イノベーションフォーラム

In order to introduce the France-Japan Innovation Forum at GFO, the representatives came to my office from the French Embassy in Tokyo.

In the forum, there will be representatives and booths from big French companies established in Japan, like Veolia, Dassault, Michelin, Gas Liquide, Orange. Especially for French students in OPU, these are great opportunities looking for a job or an internship. Also, the French Tech pitch event of 12/7am may be very good for students and professors interested in start-ups, innovations and these things.



何を公開していいのかわからないのかを考える機会をもつことができる。さらに、自然と（そういう機会を得たことに対する）感謝の気持ちも強くなると考えたからだ。

ホームページに公開することにより、後輩に対する情報提供にもなる。後輩たちも「自分にも実習の機会があると励みになり、戻った後には当然こういうことをしなければならない」と認識するようになる。教育として大切なことだと今でも思っている。

同じことは、大学や財団から支援を受けた海外留学、渡航による海外での学会発表でも同じように学生に課した。熱い思いをしたときに学生に振り返りをさせ、記録させることがある意味教員として義務だとも思って（口うるさくフォローして）いた。ちょっとしたことだと思うが、これを徹底するにはそれなりの神経を使ったことを今でも覚えている。

12月4日 [予告] ハロン湾プロジェクト公開シンポジウム

堺市と大阪府立大学は、2013年12月から2016年9月まで、JICA草の根技術協力事業「ハロン湾における海上輸送を基盤とする廃棄物循環システム構築事業」を実施してきました。このたび、その成果を広く一般の方々にも知っていただくため、公開シンポジウムを開催する運びとなりました。多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

12月27日（火）14:00～17:00 堺市総合福祉会館 6階ホール

大阪府立大学 堺市 堺エコロジー大学

12月5日 つばさ基金を用いた大学への寄付のお願い

(1) ふるさと納税制度が利用できます

(2) 納めた税金の用途を府大・高専のために指定できます

今年もあと一か月足らず。税金は年度単位ではなく年単位なので、12月20日までにお願いしたい（クレジットカード＋インターネット利用の場合は12月31日まで可能）。

ふるさと納税制度を使うと、例えば、10万円寄付しても9万8千円の税金が控除される。（所得額、家族構成などにより控除額が異なるが目安は次を参考にしてほしい。つまり自己負担は2000円だけで済む。

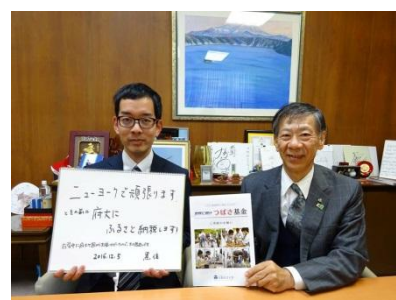
他の自治体などにこの制度で納税していない方はぜひお願いしたい。

大学・高専の教育活動、学生活動などに使わせていただくが、特に〇〇セミナー開催支援とか、図書館の充実を支援とか、〇〇クラブの支援とか用途を指定したい場合はご意見欄に記入いただければそのようにする。

12月6日 つばさ基金による学生の海外派遣支援のお願い

在学中に台湾に長期留学したり、カンボジアに交換留学した研究室OBが訪問してくれた。近くニューヨークに赴任するという。世界に翔くということだろうか。

彼の留学の場合、学生支援機構から月々の支援を受けたほか、大学からも渡航費の負担を行っていた。今度は支援する側になっ



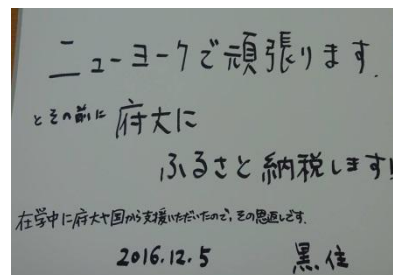
て寄付してくれるというので写真を撮らせてもらった。繰り返しになるが、つばさ基金により寄付では、

(1) ふるさと納税制度が利用できる

(2) 納めた税金の用途を府大・高専のために指定できる

今年もあと一か月足らず。学生の渡航支援に協力いただけるのはとてもありがたい。学生時代に大学が支援をした卒業生が今度は支援の側にまわってくれる。こういうサイクルを大切にしたい。大切にしてほしい。府大が世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

ふるさと納税制度を使うと、例えば、10万円寄付しても9万8千円の税金が控除される。(所得額、家族構成などにより控除額が異なる。つまり自己負担は2000円だけで済む。



12月7日 年末の思い出し(2)

先日年頭のあいさつの思い出しを行った。いろいろ感じる場所があったので、4月の辞令交付時の話を読み直してみた。

(略)。実は、管理職の先生方には「しばらく夢を追うのは忘れてください。周りから期待されている仕事をしてください」とお願いしました。また、「自分がどうありたいかではなく、誰に何を必要とされているかを最優先で考えていただきたい」とお願いしたところです。

一方、ここにおられる教職員の皆様、特に教員の方には、自由な発想で教育研究に励んでいただきたいと思います。今、「自由な発想で」とは申しましたが、その際には3つお願いがあります。

一つ目は、本学の理念である「高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点」ということを各自が理解し、大阪府立大学がその理念を追求している証(あかし)を示していただきたいということです。皆様だけでなく、皆様の周りの教員、職員、さらには学生や卒業生も含めて、自分の仕事が、「どうこの理念と関連しうるのかどうなのか」を一緒に議論して深めていただきたいと思っています。

私は、この理念追求の一環として、国際交流と地域連携を結び付ける努力をしていただきたいと思います。本学のグローバル化戦略については先月まとめていただき、Webにもアップしました。チャッチフレーズとしては、「地域につながる国際交流」、「海外につながる地域貢献」です。私はこの二つを一緒に考えることによって、本学独自のグローバル化が進む、そして、特徴を見出せるのではないかと考えています。単に「国際交流している」とか「地域連携で貢献している」というフェーズではなく、両者を結び付けて皆様の夢を追求してください。

二つ目は、大阪市立大学との統合に関することです。ご存知のように昨年度に府議会及び市議会において、「統合の準備を進める」という中期目標の一部変更が議決されました。既にリーディング大学院やCOCなど様々な形で連携を深めていますが、簡単にできること、短時間でできること、実現には課題があること、時間がかかることなどマップにして整理し、お互いがWin-Winになるように進めたいと思っています。

長い道のりだとも覚悟しています。執行部が気づいていないことがまだまだあるのではないかと思います。この統合の話を前向きにとらえ、どうメリットを出すかを皆さんと議論しな

がら進めたいと考えています。お気づきのことがあれば、部局長の先生経由でもいいですし、上司の課長経由でも結構ですので、遠慮なく提案をしてほしいと願っています。そして、皆さんが指導される学生、保護者、さらには卒業生の方が心配されないように 慎重な言動をくれぐれもお願いします。

最後の三つ目は、「リスク」について 厳しい目を持ってほしいということです。リスクにはいろいろあります。地震・津波などの自然災害だけでなく、防犯・防火、さらには劇毒物の管理、情報セキュリティの問題、ハラスメントの問題、健康管理などがあります。昨年度は 入試出題ミス、採点ミスも発生してしまいました。それも一度ならず繰り返してしまいました。痛恨の極みです。

大学としても 逐次対策を出して来ておりますが、研究公正については、「RI」というレポートをまとめていただきました。耐震工事についても 計画的に進めています。

今年度は 特に、サービス管理をしっかりさせたいと思います。大学の教員は ともすれば 教育研究の自由が先行して、サービス管理については 軽視しがちですが、毎日何時間勤務したか、出張したなら どこになぜ行って 誰と面会したかなどきちんと 記録を残すようにしてください。このことが わが身を守ることになります。サービス管理を見直すのは、「教育研究を拘束する」ということではなく、逆に「より自由に教育研究できるように リスクを排除する」ということです。(略)

12月8日

Using Sakai-city invitation program for ASEAN students, two NUS (National university of Singapore) have arrived OPU. They stay in Sakai from Dec. 5 to Dec.18. Prof. Fujii and Prof. Yokoyama are their advisers.

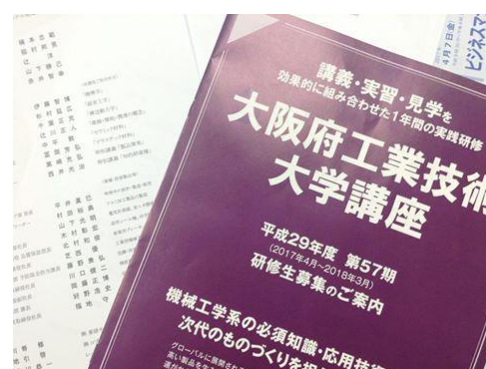


12月9日 大阪府工業技術大学講座

大阪の次代のものづくりを担う人材を養成するために大阪府工業協会が続けている講座がある。今は実に56期生が学んでいる。

受講生は府内の中小企業の若手社員からベテラン社員まで多様で、一年間、週に3日、18時から20時40分まで学ぶ。最近では文系出身の受講生もいるという。府大の先生も多くの科目で講師として指導にあたっており、その縁もあって、今回懇親会に参加した。(私も以前は経営工学を担当していた)

府大は、講義を通じた人材育成から、各企業のニーズを発掘していく。場合により発掘したニーズと自分たちのシーズをマッチングして、予備試験の支援をしたり、さらにそこで発展性を見出せば、サポイン事業などの大型研究・試験資金の獲得を支援する。外部競争資金を獲得できれば、共同研究を通して事業化まで支援する。このような参照モデルをもって、地域貢献に取り組んでいる。



12月10日 休日に インタネットとクレジットカードで 大学へのふるさと納税を！

今年も 残すところ 3週間となった。これからは 連日 忘年会。師走というのは 走って飲み会に行くということだろうか。

さて、何度か このページでも お願いしているが、府大に 関係する周りの人にも 呼び掛けてほしい。大学の使命を果たしていくためにも みんなでお願いすることが大切だ。今年はクラブ活動の支援にご家族の方が寄付して下さるケースが増えている。また、学生時代に大学(あるときには所属の研究室)から学業の奨励金や渡航費等の支援を受けたと言って寄付して下さる OB も多い。とてもありがたく感謝している。

頂いた寄付は 地域貢献、教育活動、学生支援、研究活動、国際交流という大学の使命を 全うするために 使わせていただく。写真4. 申し込み時の ご意見欄に ご希望の支援分野をご指定いただいた場合には そのために 活用する。学生が喜んでいる言葉も紹介する。

どうぞよろしくお願いいたします。ご自宅でインターネットとクレジットカードで行えます。

学生の感謝の声(ご寄附の活用事例)

学生クラブ支援事業
つばさ基金のおかげで、レスキュー艇(自衛隊)を購入することができました。ありがとうございます。授業の安全を確保するために、課外活動を増やしたい。レスキュー艇は必要不可欠です。これらもレスキュー艇をなくさないように、授業・課外活動の安全を確保したいです。
※トヨタ自動車、東洋紡/豊田、(株)東洋紡、東洋紡(株)東洋紡

博士課程教育リーディングプログラムへの支援
僕は工学系の勉強をしていて、人工知能の開発等も行ってきたい。リーディングプログラムは、自分の好きな分野に集中して勉強したいです。つばさ基金のおかげで、博士課程の生活費が助かっています。この基金で博士課程の生活費が助かっています。この基金で博士課程の生活費が助かっています。
※トヨタ自動車、東洋紡/豊田、(株)東洋紡、東洋紡(株)東洋紡

国際交流推進事業
つばさ基金のおかげで、海外研修にいくことができました。海外研修は、自分の将来の進路を決めるのにとても大切な経験です。つばさ基金のおかげで、海外研修の費用が助かっています。この基金で海外研修の費用が助かっています。この基金で海外研修の費用が助かっています。
※トヨタ自動車、東洋紡/豊田、(株)東洋紡、東洋紡(株)東洋紡

ご厚意への感謝
ご寄附いただきました方々の感謝の聲を込め、以下の額表をご用意しました。
①ご寄附名 掲載：ホームページにご寄附名を掲載いたします(ご希望の方のみ)
②感謝状の贈呈：寄附金100万円以上の方(平成28年4月～平成29年3月の合計金額)
③領収書の発行：上記期間の合計金額により下記のように領収書に発行させていただきます(ご希望の方のみ)。

プラチナ級	300万円以上	シルバー級	30万円以上
ゴールド級	100万円以上	ブロンズ級	10万円以上

12月11日 学生の渡航支援(基金の位置づけ)

年末に 何度か ふるさと納税による大学への寄付を お願いしている。クラブ活動については既に 用途の例を紹介した。

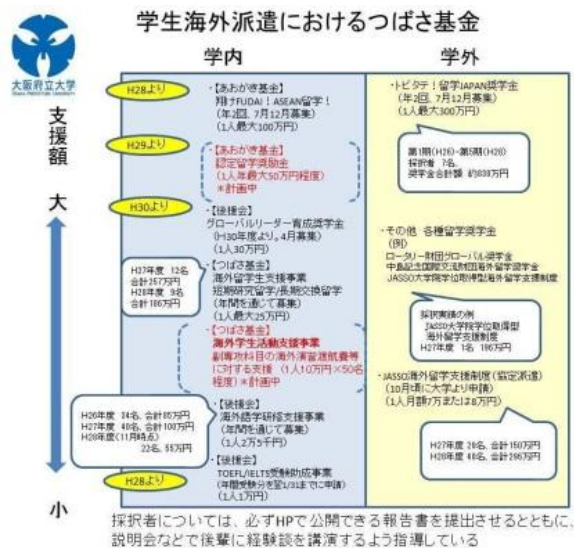
今回は、特に大学(大学から紹介を受けた財団なども含む)から支援を受けて渡航した方への お願いだ。後輩たちが 渡航するのを ぜひ支援頂きたい。

学生支援機構をはじめ、学外に渡航支援する多様なプログラムがあり、留学・渡航希望の学生には それらに応募することを 薦めている。申請書の書き方についてもアドバイスしている。しかし、必ずしも 採択になるとは 限らない。

不運にして 不採択になっても 留学・渡航を あきらめなくてもいいように 大学・高専独自のプログラムを配置したい と考えている。学生個人に対する支援なので、寄付などに頼ることになる。

あおがき基金というのは 個人の方から株による寄付をいただいたもので、その配当金を原資に学生の渡航を支援している。後援会は 在学生のご家族による支援だ。それらに対して、つばさ基金は、教職員、卒業生、そのほか広く府大関係者から寄付を頂いたもので、多くはふるさと納税に頼っている。

つばさ基金では、一人当たりの支援額が比較的小さいものを 多くの学生に渡航を支援したい と考えている。全体像は 画像にまとめているので、ぜひ、この年末にふるさと納税を ご検討いただきたい。



12月12日 二日後午後、グランフロントで Fledge シンポジウム

文科省科学技術・学術政策局審議官の真先正人氏や大阪市大理事長兼学長の荒川哲男先生にもパネリストになっていただき、「次のイノベーションを担う人材を育てる」というディスカッションを行うことになっている。討論の前には、このプログラムを受講した教員、学生の発表があるほか、現在進行中の Tech-thon の紹介発表もある。

私も5分話す機会をもらったので、経営工学の初歩的な問題から、イノベーションについて日ごろ感じていることを話し、最後は今年の入学式以来いろいろな場で話している人生観・教育観についても触れようと思っている。

シンポジウムの詳細は「府大 フレッジ」で検索してもらえるとホームページが見つかるので参照されたい。



12月13日 63歳にして 献血 63回 (但し 10年前に達成)

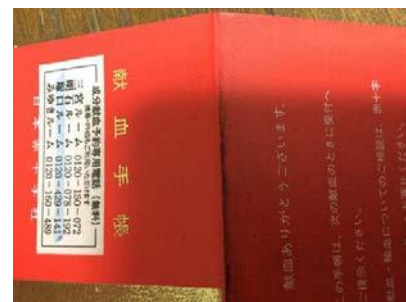
本日は完全に個人的なこと。年末なので部屋を整理していたら献血手帳が出てきたことでふと思い出した。

私の学生時代には、あさま山荘事件があり、大学紛争の最後の時期だった。それでも学内ではあちこちで急進派たちによる角棒での乱闘があり流血騒動も稀ではなかった。

そのような騒動とは関係ないのだろうが、大学にはよく献血車が来ていた。血を見るのが苦手だったので、近づかなかったが、あるとき、急進派が献血に行くのに気付いた。

何故か、そのとき「自分もしよう」と思ったのがきっかけで、献血を始めた。就職後も「年齢分の回数を目指して献血しよう」と続けてきた結果、30回表彰、いつしか、その回数は年齢に近づき、50回表彰を受けた後、年齢を追い越した。

しかし、情けないことに10年前から毎日常備薬を飲まなくてはならなくなり、献血不適になってしまった。そしてついに年齢が献血回数に追いついてしまった。来年には逆転されてしまう。忘れていたことが部屋の整理で戻ってきた。たまには整理を試してみるものだと思う。



12月14日 学内業務用英文用語集が完成

大学で使う用語はいくつぐらいあるのだろうか？100単語、500単語、1000単語、それ以上？

今回、他大学で公開されているデータも参考にして、752単語を収集して、辞書を作ってもらった。組織名称や役職名称も含むが、大学での一般名詞や動詞を含んでいる。EXCELでまとめてもらっているので、検索機能を使えば、日本語⇒英語だけでなく、英語⇒日本語も調べることができる。不完全であったり、場合により古い表現だったりするかもしれないが、

C	D	E	F
受講申請	受講申請	class registration	
	受講申請の手引書	the Guidance on Course Application	
	WEB申請	WEB registration	
	登録用紙	registration form	
	受講取消	discontinuation	
	授業を追加登録する	add a class	
	授業を取り消す	drop a class	
	授業の取り直し	withdrawal	
	種別簿	registration card	
授業関係	講義要綱(授業科目目次)	course catalog	
	種別要項	course prospectus	
	時刻表	timetable	
	授業科目	course subjects	
	授業科目表	syllabus	
	授業担当	course instructor	
	指導教員	supervisor / academic advisor	

随時、バージョンアップしていけばいい。多くの教職員で活用し、皆で完成度を高めることが大切だと思う。

早速、学生の学長顕彰の申請用紙などは、和文・英文併記にしてみることができた。これからも、要求の高い学内文書から順次併記にしていってほしい。世界に翔く地域の信頼拠点として。



12月15日 留学生総会の年末パーティに招待された(12日)。

先輩たちの寄付をもとに昨年4月に開設したI-wingなかもず。ここには留学生の宿舎だけでなく、皆が集い楽しめるコモンズがある。コモンズでは、弁論大会や日本語教育、協定の調印なども行っているが、今年も年末パーティが開催された。

当日はドレスコードが指定されていて、赤か緑を着用するように指示された。どうしようと思案して、前日、モールを歩いていると服、帽子、髭が売っていた。使い捨てかもしれないが、釣りに使っているサングラスも利用すると誰かわからなくなるだろうと思って購入した。翌日までの資料作成があり、短時間で失礼したが、どうだっただろう？

12月16日 大阪芸術大学の特別演奏会@フェスティバルホール



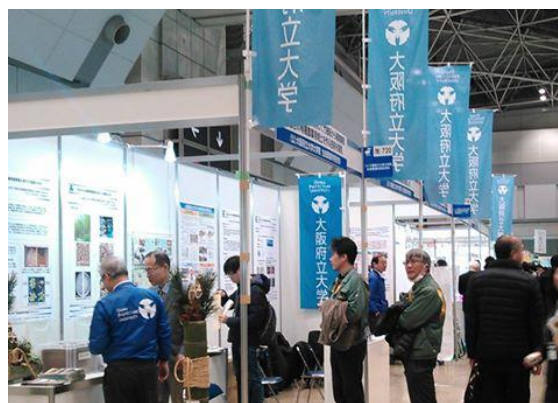
13日、公演に招待された。前半はオーケストラによる「白鳥の湖」。チャイコフスキーはバレエ音楽の改革者と呼ばれ、従来、踊り手の動きを強調するだけの音楽から、踊りにも適しかつ顧客の注意を引くような魅力的な音楽にしたと言われている。

後半はモーツァルトの「レクイエム」。作曲途中で亡くなり、のちに弟子が補作して完全な形にしたと言う。日頃の仕事に対するメリハリをきかすためにも名作に触れてリフレッシュする

ことは大切だと思う。

12月17日 ビッグサイトに府大ブルゾンとのぼり

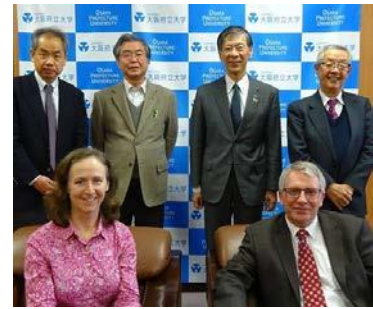
学生時代に一人旅をよくした。自転車で信州に行ったときに大草原に急行が走っていて「大阪」と行き先がなっていた。「ああ、この列車は大阪から来て大阪に戻るんだ」と郷愁を感じた。80年代に米国の田舎にいたときにサンフランシスコに出かけることがあり、JAL機を見た。「ああ、この飛行機は日本から来て日本に戻るんだ・・・」。



今週14日ー16日、東京ビッグサイトでアグリビジネス創出フェアがあり、出展者の中でも最大級のブースにて府立のシーズを紹介。教職員だけでなく学生も参加。(大学からの出展はほとんどが1~3つのブースに対し、府大は6ブース)。東京在住のOBも多数フェアに参加し、府大ブースにて声をかけて下さったそうだ。母校の名前を見ると郷愁を感じていただけたのではないだろうか。応援してくださっているのはありがたいし、心強い。

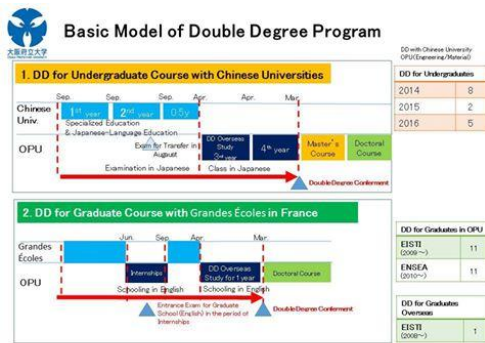
12月18日 英語圏の大学とどうやって強化できる？

経済学研究科の近藤先生が、オーストラリアのシドニー工科大学の Peter Docherty 先生（経済学）と奥様でシドニー大学の Ruth French 先生（教育学）を招へいされており、16日に一緒に（お弁当で）昼食をした。



シドニー工科大学とは交流協定を使って、長年、（主に英語を学びたいという）府大生を送ったり、逆に先方から（主に日本語や日本文化を学びたいという）学部生を受け入れたりしてきたが、その数に（当方からの希望者が圧倒的に多いという）アンバランスがあり、送りにくくなってきている。

そこで、受け入れのプログラムとして（言語とか文化の学習ではなく、専門分野の学習を目指す）ダブルデグリー制度をつくれぬか（ダメモトで）提案した。ダブルデグリーについては、学士課程で中国の華東理工大（物質系）や福州大（機械系）、そして修士課程でフランスの EISTI（情報系）や ENSEA（電気電子系）で確立しているの、それらを参照モデルとして提示したところ、



帰国後に（どの分野でそういうことに関心をもつ教員がいるかを）学内で相談して下さるといふ。

英語圏の大学と、単発的でなく継続的に交換留学を実施することができていない。すごく残念なことだ。それを解決するには、こういう参照モデルをきちんともって、交渉したり、制度を整備することが大切だと感じている。

12月19日 月を見たら夢（目標）を語る練習

3月にプノンペンで きれいな流れ星を見た時に、タイから見えた先生と 願い事談議（なぜ流れ星が光っている間に願い事を言うとそれが叶うのか？）になり、今年は「月を見たら願い事を言う練習をしよう」という話を 入学式はじめ何度かした。

そのこともあり、「先生の式辞、覚えていますよ」「私は講義で聞きました」「えっ、何それ？」

「流れ星の話！」「聞いていないなあ」とか 結構年末になっても この話に花が咲いた。

ある方からは「私には、願い事が 10 個あるので、流れ星の見える間にはとても言えないけど どうしたらいいですか」などという（私にとっては驚愕の）質問も受けた。その方は 日頃から PDCA を回しているだろうから、私の話の前提には 該当しない。

改めて「あなたの夢は」と問われたら 即答できない人が（学生だけでなく） 少なくないのではないだろうか。それ自体不思議ではない。だからこそ、日頃から、長期的でも短期的でもいいし、大きくて実現困難なものでも小さくて少し頑張ればできるものでもいいので、目標をもって計画をたて、行動していく習慣をつける（練習する）ことが大切だ。



月を見たら願い事を言う練習をしよう



突然の出来事に対し、願い事を言える人は常に夢を考えている証。
夢があれば、目標ができて、目標ができれば、計画が立ち、計画があれば、実行をし、実行すれば、実績がでて、実績ができれば、反省をし、次の計画に。

つまり、PDCAを意識して回している人こそ流れ星を見た時に願い事を言えるのであり、夢を実現する可能性が高いのだろう。

しかし、流れ星を見る機会はとても少ないから、府大生は、**月を見たら願い事を言ってみよう** という習慣を日頃化するよう。

そして、流れ星（というチャンス）を見たら逃すことなく、自分の夢・願いを叶えよう。

12月20日 学術交流会館で高校生の英語ディベート全国大会（24・25日）

昨年 I-site なんばで開催された第一回の全国大会を見学した。4人対4人のトーナメント戦で、その迫力に驚いた。パラメンタリーディベート人財育成協会が主催で、その代表者は本学工学研究科の中川 智皓（なかがわ ちひろ）先生。研究とボランティア（？）活動と育児を両立されている。今年も第二回が府大なかもずキャンパスで開催される。

せっかく府大で開催されるのだから、近くに住んでいる学生さんは様子を見学に行ってみるといい（事前申し込みはあるようだ）。生命科学研究科の東條先生の講演もあるし、特別研究員として招聘している英語の先生も参加される。このような活動が府大であることを誇りに思う。

12月21日 保護者オリエンテーションについて

3日に 学術交流会館で、キャリアサポートについて 説明会をしたところ（当初予想した数を大きく上回り）124名の方に 参加いただけた。

例年は、白鷺祭期間中に U ホールを使って、特に 学年を限定していなかったが、今年は、3回生に限定して 案内を出した。こういうイベントを機に 親子で進路について話し合い、双方の理解を深めるきっかけとなり、保護者の方の協力も得て、学生が自己決定できるようになることを期待している。

来年度以降は 就職だけをテーマとするだけでなく、大学（の施設や設備）を知ってもらうこと、大学の（教育・研究・社会貢献）活動を知ってもらうこと、今後の計画や現状の課題についても知ってもらうことなど 工夫をしていきたいと思う。世界に翔く 地域の信頼拠点として。

12月22日 英国からの来訪者と面会

工学研究科の情報工学分野で、学振のプログラムを用いて、ノッティンガム大学 計算機科学部 Rong Qu 先生を招へいしていると小耳にはさんだ。英国の大学だ。そこですかさず、昼食にお誘いした。英語圏の大学との交流プログラムを作りたいので、府大がフランスや中国の大学と行っているダブルデGREEプログラムを示して、大学に持ち帰って頂くようお願いした。こういう基本モデルを示すことが大切だ。関心をもってくれる学部があれば、それに応じて府大側にも検討を投げかけることを約束した。



Qu 先生によると、ノッティンガム大学はマレーシアと中国にもキャンパスがあり、そこで英国と同じプログラムを走らせ、3回生から英国で学べるようなプログラムを作っているそうだ。きっと他の英国の大学も同じようなことをしているのだろう。英国の大学はごく自然に多数の海外留学生が学んでおり、一番多いのは中国からの留学生だという。

Qu 先生には、高校生のお嬢様も同行されており、ディベートクラブ所属だそうで、週末、学術交流会館で開催される高校生全国大会にも参加いただけることになった。垣根のない大学でつながりを！

12月23日 師走に海外からの来客が続く

12日、オランダの経済産業省 マーテン・カンパス次官、農務参事官 エバートヤン・クライエンブリング博士、関西領事団長のローディック・ウォルス総領事をはじめ、多数の方が（ワゴンとバスに分乗して）来訪され、植物工場研究センターを紹介した。オランダは農業、そして植物工場の先進国であるが、その責任者の方の見学を受け入れることは大変光栄なことである。



当日午後には、増田先生が 帝国ホテル大阪で開催された「日オランダ官民交流セミナー ～日オランダ両国の農業の発展に向けて～」においても 講演を依頼され実施している。

本学とのコンソーシアムメンバの企業の方や共同研究実施中の企業の方も参加し、喜んでいただけた。「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点」としての証（あかし）をいろいろな形で示していきたいものだ。

12月24日 Merry Christmas! I wish a happy new year.

クリスマス（に限らず節目あるとき）を大切な誰かと過ごせることは幸福だと思う。87年 家族を日本に残して 単身で、米国 Pittsburgh にいた。当時、インターネットは まだ普及しておらず、国際電話はとんでもなく高額で しかも品質が悪かったので（昨今のスカイプやラインで簡単にコミュニケーションをとれるのと比べると雲泥の差で）家族と話すことはままならなかった（毎週のように手書きの手紙を書いていた）。

現地の誰かと食事に行こうとしても、皆 帰省していたり 旅行に行っていたり 家族と過ごしていたりして 付き合ってもらえなかった。一人 寂しく道を歩いていると、飾り付けた家から 楽しそうな笑い声が 聞こえてくる。ため息がでたのを覚えている。今年は 妻と愛犬チャピと一緒に。賑やかではないが、一緒に過ごすことができた。今年も あと一週間だ。

12月25日 六研スタイル（4）

私が 研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。

23日、21世紀科学研究機構の職場の日帰りバスツアーがあり、思い出したが、夏休みには研究室旅行に行っていた（もちろん、保険に入って）。学生さんが交通手段、宿泊所の手配をしてくれ、一泊二日。留学生も参加し、異文化交流も行ったが、ロッケンでは、研究発表などの場は設けず、交流中心で行っていた。他の研究室では一日目を修論・卒論の中間発表、二日目を懇親としているところも多いようだ。手ごろな場所なので、研究室年報の総集編から引用して紹介する。

2003年7月29日～30日 小豆島

体育館でバスケットやサッカーをした。夜はカラオケ。

卒業生が、BBQ用のお肉をたくさん差し入れてくれた。

フェリーでトランプしたり風呂にも入った。

2004年8月9日～10日 南紀白浜温泉



炎天下のテニスし露天風呂。夜は海岸で盛り上がり。
バックテッンする学生もいて、ヒヤヒヤした。JR で出かけた。

2005年9月13日～14日 愛知万博 (愛・地球博)
3班に分かれて見学。往路は一般のバス、復路は近鉄。
9時から宴会。宿に戻ってからもすごかった。

2006年9月8日～9日 琵琶湖、竹生島
泳いだ。買い出しして湖岸でBQQ。ある学生のヨーヨー芸に唾然。
このときだけ、自家用車で分乗して行きました。

2007年8月4日～5日 (私の大好きな) 天橋立
JRの特急で(マリオカートに興じ)注意を受けた。宿でも。。
はじめて留学生も参加。橋立では自転車にも乗りました。

2008年8月7日～8日 広島・宮島
新幹線で行った。宮島ではいつくつかのチームに分かれて自由行動。

2009年9月3日～4日 伊勢、鳥羽
近鉄特急で行った。水族館で見学、伊勢神宮参拝など。

2010年9月2日～3日 鳥取・大山、境港
バスをチャータして出かけた(キタロー・ロード)。

2011年8月27日～28日 十津川溪谷
バスをチャータ。露天風呂にも入った。

2012年8月28日～29日 岡山・備前長船刀剣博物館、
香川・金比羅山、ことひら温泉
バスをチャータ。うどんも打ちを実施。

12月26日 土地の匂い
旅先でその土地の匂いを感じたことがありますか？

工学研究科の酒井君が先日、FLEDGEのシンポジウムで「シリコンバレーに行くのと違っていた。思っていたのと違っていた。匂いがする。食べ物も空気も違う・・・」というようなスピーチをしたのが強く印象に残った。土地の匂いってなんだろう？府立大学には匂い(特別の空気)はあるのだろうか？門を入った途端、学外とは違う何か特別な空気をつくることができるのだろうか？

卒業して何年か経って、母校のキャンパスに戻り、「ああ、この(景色だけではなくて)匂いが懐かしい」という言葉を聞くにはどうすればいいのだろうか。女子大のOBの方が帝塚山を大切に思う気持ちはこのあたりにあるように思う。

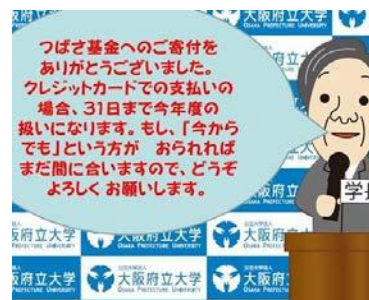
若い人には、匂いというか、何事にもセンシティブであってほしいと思う。
注) 酒井君は、IBMのメインフレームコンテストで優秀賞を受賞。

12月27日 御礼と最後のお願い

ふるさと納税を利用したつばさ基金へのご協力に深く感謝する。12月初旬には「昨年より大幅に減になる」と心配したが、おかげさまで、昨年並みに届きそうになった。



インターネットで申し込み、クレジットカードを使用する場合(だけ)は、31日まで今年度の対象となる(つまり、年明けに確定申告することにより、今年の所得税と来年度の住民税が減る)。最後のお願いです。学生のいろいろな活動にご支援いただけますようよろしくお願いいたします。(銀行振り込みの場合はH29年扱いになりますのでご注意ください)

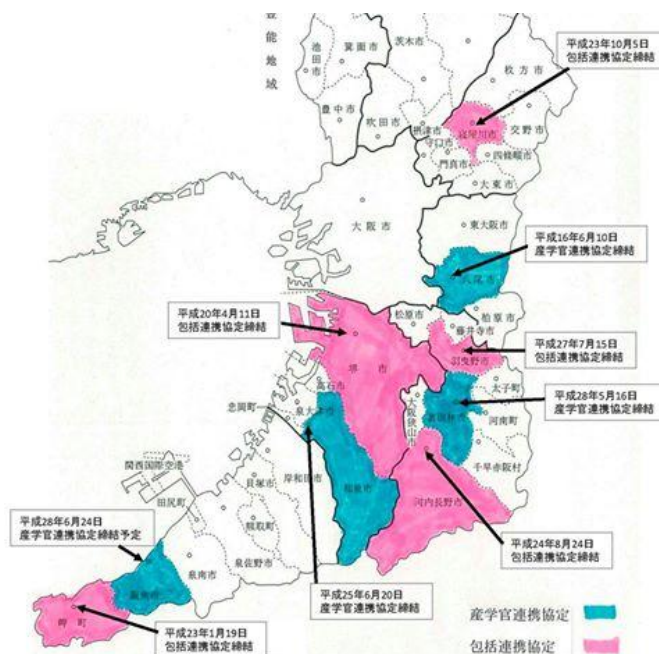


12月28日 包括協定は現在全19団体と。

包括協定とは、特定の事柄のみに留まらず関連する事項全般において協力・連携関係を築くための覚書だ。現在、19の団体と締結しているのを、紹介しておく。また。

地域の信頼拠点として自治体との連携は大切だ。自治体とは包括協定だけでなく、産学官連携に目的を絞った協定を締結することもある。府下の自治体との関係が分かるように地図を作ってもらったのであわせて紹介しておく。

これをどう見るか? 結構連携で来ているとみるのか、まだまだとみるのか。協定を締結するという形式でなく、実質を伴うことが大切で、PDCAをまわしていく。



○大学 (5件)

- ・大阪市立大学 (H19年4月)、首都大学東京 (H20年7月)、相愛大学 (H20年8月)
- ・関西大学 (H20年11月) *大阪市立大学・関西大学との三大学包括連携
- ・京都産業大学 (H22年1月)

○国等 (2件)

- ・宇宙航空研究開発機構 (H16年12月)、産業技術総合研究所 (H24年7月)

○大阪府 (4件)

- ・大阪府立環境農林水産総合研究所 (H19年6月)、大阪府教育委員会 (H20年3月)
- ・大阪府立病院機構 (H20年3月)、大阪府立産業技術総合研究所 (H22年1月)

○民間団体・企業 (3件)

- ・大和文華館 (H20年4月)、シャープ株式会社 (H21年3月)
- ・伊東電機株式会社 (H26年12月)

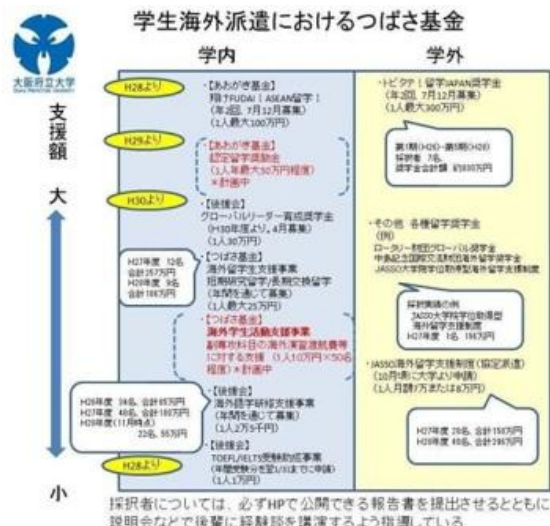
○市町村 (5件)

- ・堺市 (H20年4月)、岬町 (H23年1月)、寝屋川市 (H23年10月)
- ・河内長野市 (H24年8月)、羽曳野市 (H27年7月)

12月29日

図にあるように、つばさ基金や後援会の支援を受けて、学生の渡航を支援している。その一つのグローバルリーダー育成奨学金のニュースを公開した。

すると、高校生や保護者向けの情報サイトに掲載され、さらにエキサイトニュースやYahoo ニュースでも取り上げられた。世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。



12月30日 管理職辞令交付時の挨拶の思い出

クローズな話題になってしまって(学生さんや卒業生や外部の方には関心がないお話で)申し訳ないが、年の瀬になり、4月に新規採用者への辞令交付や管理職への辞令交付で何をお話ししていたかを思い出していた。ある会社の過重労働の問題が報道を賑わせる前のことだ。

個別にはいろいろな方に私の考えを伝えてきた。この facebook においても(メリハリの)語源を紹介しながら、メリハリをつける大切さを訴えてきた。新規採用者への辞令交付時の挨拶も別途紹介したい。

---教員への管理職辞令交付時の挨拶-----

・前略……。なかには「教育・研究にもっと時間を使いたい」というご希望の方も多と思いますが、ここはある意味「観念」していただくようお願いいたします。入学式では、若い学生には「夢」をもつようにお話しする予定ですが、皆様には「夢」を追うのを少し休憩してほしいと思います。自分が何をしたいか、ではなく、周りから自分の何を必要とされているかという発想で職務についていただきたいと思います。

・中略。。。。。

この一年は特に「服務管理の見直し」を図りたいと思います。これは「教育研究を拘束するということではなくて、逆に、より自由に教育研究できるようにリスクを排除する」ということです。また、教員組織と教育組織の関係について皆様の意見を聞きながら、方向を見出していく所存です。いろいろな側面で「リスクを排除する」というのは、私の決意ですので、このことについてはよく承知しておいていただきたいと思います。・後略。。。

12月31日 年末の府大池

年の瀬や 河内野原(ぬばら)に そびえ立つ 学舎(まなびや) 眺め 翔く若人 どうぞよいお年を。学生歌を参考に

12月31日 Web企画『福山歌！紅白歌合戦!!2016』

本日、決勝の発表がありました。マジックやジャグリングによるパフォーマンスを行っている学生団体の奇術部の皆さん、優勝おめでとう！準決勝に残ったと聞いてから、何度も動画を見て「すごいなあ」と思っていただけにとっても嬉しく思います。